

平成 27 年 度

# 履 修 の 手 引

佐 賀 大 学 文 化 教 育 学 部

# 目 次

I はじめに	1
II 学部の教育目的及び課程別教育目的と教育目標	2
III 学部の学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針	2
IV 開講科目の設置趣旨	26
V 教育課程	27
1 カリキュラムの構成	27
2 学年進行と科目履修	27
3 卒業に必要な単位数表	28
4 単 位 制 度	29
5 授 業	29
6 シ ラ バ ス	30
7 履 修 手 続	30
8 大学からの連絡と掲示板	30
9 定 期 試 験	31
10 成績評価及び通知	31
11 不正行為	31
VI 教養教育科目	32
1 教養教育の教育課程	32
2 教養教育科目の履修方法及び履修上の注意事項	33
(1) 学部・課程の学籍番号及び記号	33
(2) 大学入門科目	33
(3) 共通基礎科目	33
(4) 基本教養科目	37
(5) インターフェース科目	38
3 特定の教育プログラム	39
4 学部間共通教育科目	40
5 試験と再履修	41
(1) 定期試験	41
(2) 追 試 験	41
(3) 再 履 修	41
(4) 共通基礎科目の再履修と指定外履修	41
6 平成27年度 全学教育機構時間割表	43

VII	専門教育科目	45
1	課程・選修のクラス分け	45
2	追試験	45
3	再試験	45
VIII	諸手続について	46
1	履修等に関する手続	46
2	証明書の発行手続	46
IX	教員免許状と教育実習	47
1	教員免許状	47
2	教育実習	48
X	教員免許状と介護等体験について	54
XI	教員免許状以外の資格について	56
XII	専門教育科目の開設授業科目表について	57
◇	表を見るときのご注意	57
	専門教育科目の開設授業科目表	58
付録	文化教育学部建物配置図	
	教養教育講義室等配置図	
	文化教育学部各棟の配置図	
	学年暦及び年間行事予定表	

# I はじめに

この冊子は、学生の皆さんの修学と卒業にむけての指針となるものです。

本学部では、広い視野と豊かな情操を持ち、学校現場や社会の諸場面における様々な問題に的確に対応できるような質の高い教師、国際社会で活躍できる人材、地域社会の中核として活躍できる人材、あるいは、芸術の担い手となる人材の育成を目指しています。この冊子は、これから皆さんが、いつどのような授業を受講していけば、最終的に本学部及び本学部の各課程が掲げる教育目標に到達することができるのかを説明してあります。

本学部は、学校教育課程、国際文化課程、人間環境課程、美術・工芸課程の4つの課程から構成されており、特定の専門分野に偏らない「総合知」を持った人材の育成を目的としています。各課程においては、次の頁に掲げるような課程ごとの教育目的、並びに各課程ごとの学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針が定められていますので、よく読んでおいてください。

このような教育目的と方針を達成するために文化教育学部では、「現代教育論」、「教育心理学」、「国際文化論」、「生活文化論」など学部共通の専門基礎科目、各課程の共通必修科目、さらに選修ごとの専門科目など様々な科目が開講されています。本冊子は、その中からどのような時期にどのような科目を履修（りしゅう、受講して習い修めること）しなければならないのかを示した資料です。それで「履修の手引」という表題が付いています。

この「履修の手引」は、皆さんが在学される4年間を見通して編集されています。卒業時まで大切に扱ってください。また内容に変更がある場合もありますが、そのような場合には、各講義期間の初めに学生センター掲示板に掲示されます。

## Ⅱ 学部の教育目的及び課程別教育目的と教育目標

### 1 佐賀大学文化教育学部の教育目的

本学部は、学校教育課程、国際文化課程、人間環境課程及び美術・工芸課程により構成し、各々の課程を持つ特質を融合させたカリキュラムを整え、特定の専門知識に偏らない「総合知」を有する人材を育成することを目的とする。

#### 各課程の教育目的

本学部の各課程の目的は、次に掲げるものである。

#### (1) 学校教育課程

社会的、国際的に広い視野と教養を持ち、教科内容、教育方法等について幅広く学び、教育実習の充実・高度化を通して、学校教育現場の諸問題に的確に対応できる教員を育成すること。

#### (2) 国際文化課程

文系専門分野に関する幅広い学識を持ち、徹底した外国語教育を通して、豊かな語学力と幅広い国際的視野を備える人材を育成すること。

#### (3) 人間環境課程

心身の成長と特性、地域の生活と文化及び環境の理論と技術に関する幅広い学識を身に付け、より豊かな生活を実現するための主導的役割を果たすことができる人材を育成すること。

#### (4) 美術・工芸課程

美術・工芸分野の理論・実践について学び、併せて当該分野の教育について考究することを通して、美術教育者若しくは造形作家として、又は企業等において活躍できる人材を育成すること。

## Ⅲ 学部の学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針

### ◎学校教育課程

#### 【学位授与の方針】

学校教育課程の目的を実現するために、佐賀大学学士力を踏まえ、学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。

成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定し、学則に定める卒業の認定の要件を満たした者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

### 1 基礎的な知識と技能

(1) 文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、それらの知識を基に、現代社会の諸問題を文化・自然・人間生活と関連付けて理解できる。

(2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術(ICT)などを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。

(3) 学校教育のしくみ、児童・生徒のこころと発達、障害のある児童等への支援、教科内容、教育方法等について、幅広く体系的に知識と技能を身に付けている。

## 2 課題発見・解決能力

- (1) 実践演習型学習や問題解決型学習を通して、いじめ、不登校、理数離れなど、複雑化している現代の学校教育の諸問題について関心・理解を持ち、それらの問題をその社会・歴史的背景や原因、その心理的要因を含めて多面的に考察して、解決に必要な情報を収集し分析することができる。
- (2) 教育実習等による授業・指導の実践経験を経て、学校教育や各教科の教育における課題を発見し、選修の専門分野の基礎的な知識と技法を応用してその課題の解決に取り組むことができる。
- (3) 種々の教育実践経験を通して、学校教育の諸問題の解決のために他の教員と協調して行動し、子どもたちに対する指導力などを身に付け、実践することができる。

## 3 学校教育を担う社会人としての資質

- (1) 学校教育における様々な問題に積極的に関心を持ち、目標を持って主体的に学習する習慣を身に付けている。また、学校教育の諸問題に的確に対応できるように、継続的に自己研鑽に励む意欲と態度を有する。
- (2) 高い倫理観と豊かな人間性を育み、学校教員としての責務を自覚して自己の能力を社会に還元する強い志を有し、社会人としての規範に従って行動できる。

### 【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

## 1 教育課程の編成

- (1) 効果的な学習成果を上げるために、教養教育科目と専門教育科目を順次的・体系的に配置した4年一貫の教育課程を編成する。
- (2) 教養教育については、以下の科目を配置する。

### ○ 基礎的な知識と技能の分野

- ① 教養教育科目において、言語に関する授業科目（外国語科目）、健康・スポーツ科目、情報リテラシー科目、文化・自然科学と技術・現代社会に関する授業科目（基本教養科目）を必修及び選択必修として幅広く履修できるように配置する。
- ② 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における応用へと発展させられる。

### ○ 課題発見・解決能力の分野

高等学校と大学の接続を図るための授業科目（大学入門科目I）と現代的な課題を発見・探求し、問題解決に繋がる協調性と指導力を身に付けるための科目を選択して学ぶ（インターフェース科目）。

### ○ 地域や国際社会を担う国際的教養人としての資質（社会と個人の持続的発展を支える力）

教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を、選択必修として幅広く履修できるように配置する（インターフェース科目）。

(3) 教員として必要とされる体系的な知識を修得するための専門教育科目を、以下の「専門基礎科目」と「専門科目（課程共通科目、学校教育科目、専門外国語科目、選修科目、自由選択科目、卒業研究）」に区分し、1～4年次まで段階的に配置する。

1) 専門基礎科目

文化と教育の融合を図るという文化教育学部の理念を実現するための科目であるとともに、専門分野を学習する上で、その基礎になる科目として設置されている。そのため、本学部全員にとって必修及び選択必修の科目としている。

2) 専門科目

課程共通科目、学校教育科目、専門外国語科目、選修科目、自由選択科目及び卒業研究から構成されている。

◇**課程共通科目** 各課程の趣旨・特色を活かすため、所属する課程の学生が専門の素養として共通に持っておくべき学力を育てるための科目として設置されている。そのため、各課程に履修すべき科目が定められていて、所属する課程の学生全員が履修する。

◇**学校教育科目** 学校教育課程の学生が、必修として履修しなければならない科目として設置している。各課程の目的に合った教育的素養を育てる。

◇**専門外国語科目** 全課程の学生にとって必修の科目で、外国語の運用能力を育てる。

◇**選修科目** 各選修の特色を表す科目であり、その選修分野の主体をなす科目として設定している。必修科目と選択科目からなっており、選択科目は、めざす能力を高めるために各自で計画的に選択する。

◇**自由選択科目** 全学部の専門教育科目の中から各自の興味にしたがって選択できる科目として設定している。そのため、この自由選択科目に配当された単位数は、教員免許伏取得のための科目を履修する際に利用する。

◇**卒業研究** 4年間にわたる学修の集大成に当たるもので、4年次の1年間を通して研究するために設定している。この卒業研究は、履修条件が課せられており、この条件を満たした者は、所定の手続きにより、3年次の後半にテーマと指導教員を決め、このテーマに基づいて計画的に卒業研究（論文、制作、演奏など）を進める。

## 2 教育の実施体制

(1) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・実習等を担当するよう担当教員を配置する。

(2) 順序だてて体系的な知識や理論、技術を学べるように、授業科目の学年配置を工夫するとともに、教員の間で相互に連携して担当科目間の一貫性を保つ。

## 3 教育・指導の方法

(1) 講義、実験・実技・実習及びフィールドワークによる実証的学習や体験学習とをバランスよく組み合わせ学習成果を高める。

(2) 学生の自主的な学習と問題解決法の習得を目指して、ディスカッションやプレゼンテーションなど取り入れた授業を積極的に行う。

(3) 少人数の学生グループごとに指導教員（チューター）を配置し、きめ細かな履修指導や学習支援を

行う。

- (4) 初年次より学校体験を取り入れ、体系的に指導する科目（教育実践フィールド演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）を導入し、教員としての資質向上を促進する。

#### 4 成績の評価

- (1) 各授業科目について、その内容、到達目標、成績の評価方法と基準をシラバス等で公開して学生に周知した上で、「佐賀大学成績判定等に関する規程」に基づき、公正で厳格な成績評価を行う。
- (2) 必修科目である卒業研究については、成績評価の公正性を担保するために主査の他に副査を置く。主査と副査は上記規定に則り、合議により厳格な判定を行う。

学士力と科目との対応：学校教育課程

学士力 (大項目)	学 士 力 (小項目)	授 業 科 目
1 基礎的な知識 と技能	(1) 文化と自然	基本教養科目（自然科学と技術の分野，文化の分野）
	(2) 現代社会と生活	健康・スポーツ科目
		基本教養科目（現代社会の分野）
	(3) 言語・情報・科学リテラシー	英語
専門外国語科目		
情報リテラシー科目		
専門基礎科目		
(4) 専門分野の基礎的な知識と技能	課程共通科目	
	学校教育科目	
	選修科目 選択	
2 課題発見・解決能力	(1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	大学入門科目
	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	学校教育科目
		選修科目 必修・選択 卒業研究
(3) 課題解決につながる協調性と指導力	大学入門科目	
	インターフェース科目	
	学校教育科目	
	選修科目 必修・選択	
3 個人と社会の 持続的発展を 支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	インターフェース科目
	(2) 持続的な学習力と社会への参画力	自由選択科目
		卒業研究
(3) 高い倫理観と社会的責任感	インターフェース科目	
	学校教育科目	



学校教育課程における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

学位授与の方針		授 業 科 目 名							
		1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	3 年前期	3 年後期	4 年前期	4 年後期
1	(1)	基本教養科目(自然科学と技術, 文化, 現代社会の分野)							
		健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科目						
	(2)	外国語科目(英語A)	外国語科目(英語B)	外国語科目(英語C)	外国語科目(英語D)				
		情報リテラシー科目	情報リテラシー科目						
		専門基礎科目(実践英語)	専門基礎科目(実践英語)						
		専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目					
				専門外国語科目	専門外国語科目		専門外国語科目		
	(3)		課程共通科目	課程共通科目	課程共通科目				
		専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目					
		学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目		
		(教育実践フィールド演習Ⅰ)			(教育実践フィールド演習Ⅱ)	(教育実践フィールド演習Ⅲ)	(教育実習)		(教職実践演習)
選修科目(選択)		選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	
2	(1)	大学入門科目Ⅰ							
	(2)	学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目		
		選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)		
		選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	卒業研究	卒業研究
	(3)	大学入門科目Ⅰ		インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目		
		学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目		
					(教育実践フィールド演習Ⅱ)	(教育実践フィールド演習Ⅲ)	(教育実習)		
選修科目(必修)		選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)			
選修科目(選択)		選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	
3	(1)			インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目		
		自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	
								卒業研究	卒業研究
	(2)			インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目		
		学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目	学校教育科目		(教職実践演習)
標準修得単位数		21	21	23	23	22	22	4	4

## ◎国際文化課程

### 【学位授与の方針】

国際文化課程の目的を実現するために、佐賀大学学士力を踏まえ、学生が身につけるべき以下の具体的な学習成果の達成を学位授与の方針とする。

成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定し、学則に定める卒業の認定の要件を満たした者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

#### 1 基礎的な知識と技能

- (1) 文化と自然、現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、自立した個人として社会生活を生きるための文化的素養を身に付けている。また、現代社会の諸問題について適切な学識を有し、健康・環境に関する知識を自己管理と生活の質の向上に役立てることができる。
- (2) 日本語で他者の意思を的確に理解できるとともに、自己の意思を口頭及び文章で論理的に表現できる。全学教育での英語に加え、専門教育においても英語とその関連科目を履修・修得しコミュニケーションのための英語運用能力を身に付けている。また、必修専門外国語として独仏中朝のいずれかを履修・修得し、国際理解に必要な広い視野を有している。
- (3) 情報リテラシーに関する授業科目を履修し、基本的な情報技術を修得した上で、遵守すべき社会倫理に則って収集した多様な情報の適正な処理・管理と活用ができる。

#### 2 課題発見・解決能力

- (1) 演習型学習等を通して、各国の文化・歴史・社会等の多様な現実在即した課題を的確に把握できる。また、外国語運用能力を積極的に用いて、関連情報を広く収集・分析できる。
- (2) 日本・アジアや欧米の言語・文化・歴史・社会等の各専門分野における基礎的知識を身に付けているとともに、それに基づいて、各専門分野の諸課題を歴史的諸条件にまで遡って考察できる洞察力を有している。また、専門分野の知識と近接分野の知識とを結び付けて問題の解決に向けて応用することができる。
- (3) 演習型学習等を通して、異文化理解に基づく複眼的な視点に立って他者の意見を尊重しつつ、協力して問題の解決を目指す柔軟な姿勢と協調性を身に付けている。

#### 3 地域や国際社会を担う国際的な教養人としての資質

- (1) 環境やジェンダーをはじめとする現代国際社会に共通の諸課題について正確な知識を修得し、専門教育課程で培われる広い視野の下で、自然と社会の持続可能な共存、人間の尊厳に基づく人と人の平和な共生等への道を探求し、その実現に向けて積極的に参画する意欲を有している。
- (2) 欧米や日本・アジアについての専門分野の知識を修得し、市民社会の一員としての自覚と責任を持って自律的に行動する能力を有している。また、その専門的知識を積極的に活かして、種々の分野における国際的・地域交流の促進や地域社会の文化的向上・活性化に寄与することができる。
- (3) 卒業論文の作成を通じて課題を明確にし、生涯を通しての持続的関心を形成する。

## 【教育課程編成・実施の方針】

学位授与の方針を具体化するために、以下の方針で教育課程を編成し、教育を実施する。

### 1 教育課程の編成

(1) 学習成果を着実に積み重ねるために、教養教育科目（全学教育機構）と専門教育科目を学年進行に応じて段階的、体系的に配置した4年一貫の教育課程を編成する。

(2) 教養教育については、以下の科目を配置する。

#### ○ 基礎的な知識と技能の分野

① 教養教育において、文化・自然、現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目、健康・スポーツ科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（外国語科目、情報リテラシー科目）を、必修及び選択必修として幅広く履修できるように配置する。

② 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における応用へと発展的な学習に繋げる。

#### ○ 課題発見・解決能力の分野

① 教養教育において、様々な課題を探求し、少人数クラスでの検討を通じて解決の道を探るための授業科目を、初年次の必修として配置する（大学入門科目）。また、現代的な課題を発見・探求し、問題解決に繋がる協調性と指導力を身に付けさせるための科目を、選択として配置する（インターフェース科目）。

#### ○ 地域や国際社会を担う国際的教養人としての資質（社会と個人の持続的発展を支える力）

① 教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を、選択必修として幅広く履修できるように配置する（インターフェース科目）。

(3) 国際的な教養人として必要とされる体系的な知識を修得するための専門教育科目を、以下の「専門基礎科目」、「課程共通科目」、「専門外国語科目」、「選修科目」に区分し、1～4年次まで段階的に配置する。

#### ○ 専門基礎科目

文化教育学部が掲げる総合知の一環として、国際理解と人間理解の基礎的知識を修得するために、課程横断的な授業科目（国際文化論、現代教育論、実践英語等）で構成する。

#### ○ 課程共通科目

社会や文化の多様性を理解し、広い視野と柔軟な感性と思考力を培うための課程必修の基礎的授業科目（日本・アジアの社会と文化、欧米の社会と文化）で構成する。

#### ○ 専門外国語科目

国際文化課程では課程の目標に照らして英語以外の第2外国語の履修を重視している。従って、コミュニケーション能力を継続して向上させるための英語、英語を始め多様な言語による専門教育外国語の他に、国際的な視野を形成するとともに各専門分野での研究を深めるための重要な言語として、日本と深い文化的交流の歴史を持つドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語を開設し、これら4言語のいずれかを少なくとも8単位履修する。

#### ○ 選修科目

専門分野における体系的知識の修得を目標とする授業科目群で構成し、学習成果を確実に上げるために、各授業科目を段階的に配置する。

1) 日本・アジア文化選修においては、各授業科目を導入科目、発展的科目、応用的科目の3段階に分けて配置し、さらに、多角的な視点を培うため隣接分野としてA、B両群の授業科目を配置する。

欧米文化選修においては、専門分野を「欧米の歴史・社会・思想」領域、「欧米の文学」領域、「欧米の言語と文化」領域の3領域で編成し、各領域の授業科目を日本・アジア文化選修と同様に段階的に配置する。

2) これらの授業科目においては、①専門知識の確実な修得、②積極的な関心と学習意欲の育成、③発表等を通しての論理的思考と自己表現力の向上、④問題を発見し、相互の立場を尊重しながら問題解決に向けて協力し合う姿勢の育成の4点を主要な教育目標とし、その具現化のために少人数による講義・演習方式を軸に実施する。

## 2 教育の実施体制

(1) 各授業科目については、それを担当するにふさわしい専門性を有する教員を配置し、オムニバス方式の授業においては授業内容の整合性、一貫性を統括するための責任者を置く。

(2) 授業科目間の連関性や段階性、専門分野間の授業科目数の適切なバランスを確保するため、定期的な点検を実施して適切な教育体制を整える。

## 3 教育・指導の方法

(1) 専門知識を修得するための講義、問題発見と解決を目指す演習、語学力の向上を図る各種の講読、コミュニケーション能力を高めるための外国人教員による実践的な授業科目などを組み合わせて、学習成果を高める。

(2) 内規により履修できる単位数に上限を設けて自学自習時間を確保することで、学習の質の向上及び持続的な自己学習の習慣の定着を図る。

(3) 各年次に指導教員を配置して一般的な履修指導を行うことに加え、ティーチング・ポートフォリオの導入により、教員によるよりきめ細かな学習支援を行う体制を整える。また、学生が常に自己の学習状況を客観的に把握できるようにラーニング・ポートフォリオを導入・実施する。

## 4 成績の評価

(1) 各授業科目について、その内容、到達目標、成績の評価方法と基準をシラバス等で公開して学生に周知した上で、「佐賀大学成績判定等に関する規程」に基づき、公正で厳格な成績評価を行う。

(2) 必修科目である卒業研究については、成績評価の公正性を担保するために主査の他に副査を置く。主査と副査は上記規定に則り、合議により厳格な判定を行う。

学士力と科目との対応表：国際文化課程

学士力 (大項目)	学 士 力 (小項目)	授 業 科 目
1 基礎的な知識 と技能	(1) 文化と自然	基本教養科目（自然科学と 技術の分野，文化の分野）
	(2) 現代社会と生活	健康・スポーツ科目 基本教養科目（現代社会の 分野）
	(3) 言語・情報・科学リテラシー	英語 専門外国語科目 情報リテラシー科目 専門基礎科目
	(4) 専門分野の基礎的な知識と技能	課程共通科目 （日・ア）選修科目 必修 A （日・ア）選修科目 選択 （欧米）選修科目 必修
2 課題発見・解 決能力	(1) 現代的課題を見出し，解決の方法を探る能力	大学入門科目
	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決 する能力	（日・ア）選修科目 必修 B （両選修）選修科目 選択
	(3) 課題解決につながる協調性と指導力	大学入門科目 インターフェース科目 （日・ア）選修科目 必修 B （欧米）選修科目 選択
3 個人と社会の 持続的発展を 支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	インターフェース科目 （両選修）選修科目 必修・ 選択
	(2) 持続的な学習力と社会への参画力	（両選修）選修科目 必修・ 選択 自由選択科目 卒業研究
	(3) 高い倫理観と社会的責任	インターフェース科目

国際文化課程における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

学位授与の方針		授 業 科 目 名							
		1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	3 年前期	3 年後期	4 年前期	4 年後期
1	(1)	基本教養科目(自然科学と技術, 文化, 現代社会の分野)							
		健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科目						
	(2)	外国語科目(英語A)	外国語科目(英語B)	外国語科目(英語C)	外国語科目(英語D)				
		専門基礎科目(実践英語)	専門基礎科目(実践英語)						
		専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目					
		課程共通科目	課程共通科目						
		専門外国語科目	専門外国語科目	専門外国語科目	専門外国語科目	専門外国語科目	専門外国語科目		
		選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)		
	(3)	情報リテラシー科目							
2	(1)	大学入門科目	大学入門科目						
	(2)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)		
	(3)	大学入門科目	大学入門科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目		
		選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)		
3	(1)			インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目		
		選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	自由選択科目	
	(2)							卒業研究	
		選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	選修科目 (必修・選択)	自由選択科目	
	(3)			インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目		
標準修得単位数	21	21	23	23	22	22	6	6	

## ◎人間環境課程 生活・環境・技術選修

### 【学位授与の方針】

人間環境課程の目的を実現するために、佐賀大学学士力を踏まえ、学生が身につけるべき以下の具体的な学習成果の達成を学位授与の方針とする。

成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定し、学則に定める卒業の認定の要件を満たした者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

#### 1 基礎的な知識と技能

- (1) 生活や人間をとりまく環境を理解するための文化、社会あるいは自然に関する基礎的な知識を修得している。
- (2) 生活環境、地域社会及び環境問題に関する専門的な知識を修得している。
- (3) 言語・情報・科学リテラシーを修得し、多様な情報を収集・分析・整理して適切に判断し、活用することができる。
- (4) 実験・実習やフィールドワークを通して、生活環境、地域社会及び環境問題を考えるための技法を修得している。

#### 2 課題発見・解決能力

- (1) 生活環境や地域社会及び環境問題に関する現代的な課題を発見し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、科学的・論理的かつ多面的な思考に基づいて問題の解決に取り組むことができる。
- (2) 教育、行政あるいは企業など身近な地域社会あるいは世界が抱える課題について、専門的な知識と技法を用いてその解決に取り組むことができる。
- (3) 実験・実習やフィールドワークを通して、課題解決のための協調性を培うとともに、解決のための方向性を提案することができる。

#### 3 地域を担う社会人としての資質

- (1) 多様な文化や価値観を理解し、生活環境の改善、地域社会の創造、あるいは環境の保全といった行動を、社会的規範を守りつつ他者と協調して行うことができる。
- (2) 社会的役割を自覚し、自己を活かすという視点を持って、継続的、自主的かつ自律的に学習ができる。
- (3) 生活環境の改善、地域社会の創造、あるいは環境の保全のための高い倫理観を持ち、卒業後も地域社会等が行う活動に参画していく重要性を理解し、その姿勢を持っている。

### 【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

#### 1 教育課程の編成

- (1) 学習成果を着実に積み重ねるために、教養教育科目と専門教育科目を学年進行に応じて段階的、体

系的に配置した4年一貫の教育課程を編成する。

(2) 教養教育科目については、以下の科目を配置する。

○ 基礎的な知識と技能の分野

(ア) 教養教育科目において、文化・自然、現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目、健康・スポーツ科目）、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目（外国語科目、情報リテラシー科目）を、必修及び選択必修として幅広く履修できるように配置する。

(イ) 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における応用へと発展的な学習に繋げる。

○ 課題発見・解決能力の分野

(ア) 高等学校と大学の接続を図るため授業科目（大学入門科目I）と現代的な課題を発見・探求し、問題解決に繋がる協調性と指導力を身に付けるための科目を選択して学ぶ（インターフェース科目）。

○ 地域や国際社会を担う国際的教養人としての資質（社会と個人の持続的発展を支える力）

(ア) 教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を、選択必修として幅広く履修できるように配置する（インターフェース科目）。

(3) 学士（人間環境）として必要な素養、知識、技術を身に付けるための基本的事項を学習する専門教育科目を、「専門基礎科目」、「課程共通科目」、「専門外国語科目」、「情報処理科目」、「選修科目」に区分し、1～4年次まで段階的に配置する。

○ 専門基礎科目

文化教育学部が掲げる総合知の一環として、国際理解と人間理解の基礎的知識を修得するために、課程横断的な授業科目（国際文化論、現代教育論、実践英語等）で構成する。

○ 課程共通科目

現代の生活・環境問題を見つめ直す高度な知識や理論、技術を修得し、教育、行政、企業など、実社会において幅広く貢献できる人材としての専門的能力を育成するため、課程必修の基礎的授業科目（生活経営論、自然環境論、健康福祉論）で構成する。

○ 専門外国語科目

人間環境課程生活・環境・技術選修では、各専門分野での研究を深めるためおよびコミュニケーション能力を向上させるため、専門教育外国語計4単位を履修させる。

○ 情報処理科目

大学での教育・研究活動にとってパソコンを用いた学習は欠かすことのできない技量である。またプレゼンテーション能力は卒業後も重要視されている。これは多様な情報を収集・分析・発表する能力を育成する科目である。

○ 選修科目

専門分野における体系的知識の修得を目標とする授業科目群で構成し、学習成果を確実に上げるために、各授業科目を段階的に配置する。

(1) 専門領域における知識に加え、幅広い教養にもとづく多角的・独創的な視点から内在する生活文化や環境問題の課題を発見し、問題解決に多角的に取り組むための方策や方針を考えうる能力を育成するための科目として、選修科目群に、理論や方法論を中心とした「A群（地域・生活文化分野）、B群（環境・技術分野）必修科目」を配置する。

(2) 新しい生活環境を創造し、主体的に地域・社会に貢献する能力を培うため、プレゼンテーション



や情報処理能力を修得し、実験・調査結果を適切に評価し、その解決策を社会発信できる能力を育成するための科目として、演習や実験・実習を中心とした「A群（地域・生活文化分野）、B群（環境・技術分野）関連科目」を配置する。

- (3) 4年間の集大成として、学生の興味・関心に応じた学術テーマを自主的に発展させていくために、「卒業研究」を配置する。「卒業研究」においては、学生各自で課題を設定して最終学年の1年間をかけて調査・研究し、その課題について掘り下げ、卒業論文にまとめる。

## 2 教育の実施体制

- (1) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・実習等を担当するよう担当教員を配置する。
- (2) 順序だてて体系的な知識や理論、技術を学べるように、授業科目の学年配置を工夫するとともに、教員の間で相互に連携して担当科目間の一貫性を保つ。

## 3 教育・指導の方法

- (1) 講義による知識の学習と実験・実習及びフィールドワークによる実証的学習や体験学習とをバランスよく組み合わせて学習成果を高める。
- (2) 学生の自主的な学習と問題解決法の獲得などの効果を狙って、課題について学生自ら調べ、発表やディスカッションなどを行う授業を積極的に取り入れる。
- (3) 少人数の学生グループごとに指導教員（チューター）を配置し、きめ細かな履修指導や学習支援を行う。

## 4 成績の評価

- (1) 各授業科目の学修内容、到達目標、成績評価の方法・基準を学習要項（シラバス）等により学生に周知し、それに則した厳格な成績評価を行う。
- (2) 成績の評価基準や結果に関して、試験実施後に学生がその根拠を問い合わせる期間を設定する。
- (3) GPA制度を導入するなど、学生に対して公平かつ客観的な成績の評価と開示ができるよう努める。
- (4) 3年次前学期までの取得単位数を基準に、各学生の学修到達度を評価し、卒業研究への着手認定のための判定を行う。さらに、学則に規定した所定の単位を修得した者に対し、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

学士力と科目との対応：人間課程 生活・環境・技術選修

学士力 (大項目)	学 士 力 (小項目)	授 業 科 目
1 基礎的な知識 と技能	(1) 文化と自然	基本教養科目（自然科学と 技術の分野，文化の分野）
		選修科目 選択
	(2) 現代社会と生活	健康・スポーツ科目
		基本教養科目（現代社会の分 野）
		選修科目 選択
	(3) 言語・情報・科学リテラシー	英語
		専門基礎科目
		専門外国語科目
		卒業研究
		情報リテラシー科目 情報処理科目
	(4) 専門分野の基礎的な知識と技能	専門基礎科目
		課程共通科目
選修科目 必修A・B群		
選修科目 選択		
2 課題発見・解 決能力	(1) 現代的課題を見出し，解決の方法を探る能力	大学入門科目
		インターフェース科目
	(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決 する能力	選修科目 選択
		卒業研究
	(3) 課題解決につながる協調性と指導力	選修科目 選択
		卒業研究
3 個人と社会の 持続的発展を 支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	インターフェース科目
		課程共通科目
		選修科目 必修A・B群
		自由選択科目
	(2) 持続的な学習力と社会への参画力	インターフェース科目
		自由選択科目
		卒業研究
	(3) 高い倫理観と社会的責任感	インターフェース科目
		自由選択科目

人間環境課程(生活・環境・技術選修)における教育目標を達成するための授業科目の流れ(カリキュラムマップ)

学位授与の方針	授 業 科 目 名									
	1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	3 年前期	3 年後期	4 年前期	4 年後期		
1	(1)	基本教養科目(自然科学と技術, 文化, 現代社会の分野)								
		健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科目							
		選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	
	(2)	専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目						
		課程共通科目		課程共通科目			課程共通科目			
		選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)				
								卒業研究	卒業研究	
	(3)	外国語科目(英語A)	外国語科目(英語B)							
		外国語科目(初修外国語)	外国語科目(初修外国語)							
		情報リテラシー科目	情報リテラシー科目							
		専門基礎科目(実践英語)	専門基礎科目(実践英語)							
		専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目						
				専門外国語科目	専門外国語科目		専門外国語科目		卒業研究	卒業研究
	(4)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	
	2	(1)	大学入門科目 I		インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目		
		(2)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)
									卒業研究	卒業研究
(3)		選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	
								卒業研究	卒業研究	
3	(1)			インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目			
		課程共通科目		課程共通科目			課程共通科目			
		選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)				
		自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	
	(2)			インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目			
		自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	
								卒業研究	卒業研究	
	(3)			インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目			
		自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	
	標準修得単位数	21	21	23	23	22	22	6	6	

## ◎人間環境課程 健康福祉・スポーツ選修

### 【学位授与の方針】

人間環境課程の目的を実現するために、佐賀大学学士力を踏まえ、学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。

成果の達成状況は、平素の学習状況及び定期試験等によって判定し、学則に定める卒業の認定の要件を満たした者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

#### 1 基礎的な知識と技能

- (1) 文化・自然・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、それらの知識を基に、現代社会の諸問題を文化・自然・人間生活と関連付けて理解できる。
- (2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語と英語などの外国語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (3) 実験・実技・実習やフィールドワークを通して、健康福祉、スポーツに関する問題に対し、幅広く体系的に知識と技能を身に付けている。

#### 2 課題発見・解決能力

- (1) 実践演習型学習や問題解決型学習を通して、現代の福祉やスポーツの諸問題について関心・理解を持ち、それらの問題をその社会・歴史的背景や原因を含めて多面的に考察して、解決に必要な情報を収集し分析することができる。
- (2) 実験・実技・実習やフィールドワークを通して、リーダーシップや協調性を培うとともに課題解決のための企画立案ができる。

#### 3 地域を担う社会人としての資質

- (1) 健康科学の専門的技能を習得することによって、専門職業人としての高い倫理感、強い責任感、指導力、コミュニケーション力を磨き、探究心を養い、多様な文化と価値観を理解し、これに対応できる力を身に付ける。
- (2) 社会的役割を自覚し自己を活かすという視点を持って、卒業後も継続的、自主的かつ自律的に活動ができる。

### 【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

#### 1 教育課程の編成

- (1) 効果的な学習成果を上げるために、教養教育科目と専門教育科目を順次的・体系的に配置した一貫性のある教育課程を編成する。
- (2) 教養教育については、以下の科目を配置する。

##### ○ 基礎的な知識と技能の分野

- ① 教養教育科目において、文化・自然、現代社会と生活に関する授業科目（基本教養科目、健康・

スポーツ科目)、言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目(外国語科目、情報リテラシー科目)を、必修及び選択必修として幅広く履修できるように配置する。

② 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における応用へと発展的な学習に繋げる。

○ 課題発見・解決能力の分野

① 教養教育において、様々な課題を探求し、少人数クラスでの検討を通じて解決の道を探るための授業科目を、初年次の必修として配置する(大学入門科目Ⅰ)。また、現代的な課題を発見・探求し、問題解決に繋がる協調性と指導力を身に付けさせるための科目を、選択として配置する(インターフェース科目)。

○ 地域や国際社会を担う国際的教養人としての資質(社会と個人の持続的発展を支える力)

① 教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を、選択必修として幅広く履修できるように配置する(インターフェース科目)。

(3) 言語・情報・科学リテラシーに関する教育は、教養教育科目として初年次から開設し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門教育科目における応用へと発展的な学習に繋げる。

(4) 学士(健康福祉・スポーツ)として必要な教養、知識、技術を身に付けるための基本的事項を学習する専門教育科目を、以下の「選修科目」、「専門基礎科目」、「課程共通科目・専門外国語科目・情報処理科目」に大別し、1～4年次まで段階的に配置する。

・「選修科目」:基礎から応用までの健康福祉・スポーツ科学の知識と実践力を習得させ、自立した専門職としての能力を身に付けさせるための科目を配置する。

・「専門基礎科目」:幅広い教養に裏付けられた視点から、多面的に物事を考える能力を身に付けさせるための科目を配置する。

・「課程共通科目・専門外国語科目・情報処理科目」:情報処理、プレゼンテーション、コミュニケーション能力を養い、自主的に活動を計画、実行、総括できる能力を身に付けさせるための科目を配置する。

(5) 4年間の集大成として、学生の興味・関心に応じた学術テーマを自主的に発展させていくために、「卒業研究」においては、学生各自で課題を設定して最終学年の1年間をかけて調査・研究し、その課題について掘り下げ、卒業論文にまとめる。

## 2 教育の実施体制

(1) 授業科目の教育内容ごとに、その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・実習等を担当するよう担当教員を配置する。

(2) 順序だてて体系的な知識や理論、技術を学べるように、授業科目の学年配置を工夫するとともに、教員の間で相互に連携して担当科目間の一貫性を保つ。

## 3 教育・指導の方法

(1) 講義、実験・実技・実習及びフィールドワークによる実証的学習や体験学習とをバランスよく組み合わせ学習成果を高める。

(2) 学生の自主的な学習と問題解決法の習得を目指して、ディスカッションやプレゼンテーションなど取り入れた授業を積極的に行う。

(3) 少人数の学生グループごとに指導教員（チューター）を配置し、きめ細かな履修指導や学習支援を行う。

#### 4 成績の評価

- (1) 各授業科目の学修内容，到達目標，成績評価の方法・基準を学習要項（シラバス）等により学生に周知し，それに則した厳格な成績評価を行う。
- (2) 成績の評価基準や結果に関して，試験実施後に学生がその根拠を問い合わせる期間を設定する。
- (3) GPA制度を導入するなど，学生に対して公平かつ客観的な成績の評価と開示ができるよう努める。
- (4) 3年次前学期までの取得単位数を基準にし，各学生の学修到達度を評価する。学則に規定した所定の単位を修得した者は卒業研究に着手する。卒業単位数を充足した学生に対しては，教授会の議を経て，学長が卒業を認定する。

文化教育学部：人間環境課程 健康福祉・スポーツ選修

学士力 (大項目)	学 士 力 (小項目)	授 業 科 目		
1 基礎的な知識 と技能	(1) 文化と自然	基本教養科目（自然科学と 技術の分野，文化の分野） ..... 専門基礎科目		
	(2) 現代社会と生活	健康・スポーツ科目 ..... 基本教養科目（現代社会の分 野）		
	(3) 言語・情報・科学リテラシー	英語，初修外国語 ..... 専門外国語科目 ..... 情報リテラシー科目 ..... 情報処理科目		
		(4) 専門分野の基礎的な知識と技能	課程共通科目 ..... 選修科目 必修 ..... 選修科目 選択	
		2 課題発見・解 決能力	(1) 現代的課題を見出し，解決の方法を探る能力	大学入門科目 ..... 選修科目 選択必修 ..... 選修科目 選択
			(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決 する能力	大学入門科目 ..... インターフェース科目 ..... 選修科目 選択必修
3 個人と社会の 持続的発展を 支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	インターフェース科目 ..... 自由選択科目 ..... 卒業研究		
	(2) 持続的な学習力と社会への参画力	インターフェース科目		
	(3) 高い倫理観と社会的責任感	インターフェース科目		

人間環境課程(健康福祉スポーツ選修)における教育目標を達成するための授業科目の流れ(カリキュラムマップ)

学位授与の方針	授 業 科 目 名								
	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
1	(1)	基本教養科目(自然科学と技術, 文化, 現代社会の分野)							
		健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科目						
		専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目					
	(2)	外国語科目(英語A)	外国語科目(英語B)						
		外国語科目(初修外国語)	外国語科目(初修外国語)						
		情報リテラシー科目	情報リテラシー科目						
		専門基礎科目(実践英語)	専門基礎科目(実践英語)						
				専門外国語科目			専門外国語科目		
			情報処理科目			情報処理科目			
	(3)	課程共通科目		課程共通科目			課程共通科目		
		選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)
			選修科目(必修)		選修科目(必修)				
2	(1)	大学入門科目 I							
		選修科目(選択・必修)	選修科目(選択・必修)	選修科目(選択・必修)	選修科目(選択・必修)	選修科目(選択・必修)	選修科目(選択・必修)		
		選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	
	(2)	大学入門科目 I		インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目		
		選修科目(選択・必修)	選修科目(選択・必修)	選修科目(選択・必修)	選修科目(選択・必修)	選修科目(選択・必修)	選修科目(選択・必修)		
3	(1)		インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目			
	(2)	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	
							卒業研究	卒業研究	
標準修得単位数	21	21	23	23	22	22	6	6	

## ◎美術・工芸課程

### 【学位授与の方針】

美術・工芸課程の目的を実現するために、佐賀大学学士力を踏まえ、学生が身に付けるべき以下の具体的学習成果の達成を学位授与の方針とする。

学習成果の達成状況は、展覧会での発表、地域の一般人や幼小中高との協同アートプロジェクトなどの活動及び卒業研究（制作・論文）により判定するとともに、学則に定める卒業の認定の要件を満たした者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

#### 1 知識と技能

- (1) 芸術・歴史・思想・自然科学・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、それらの知識を基に、美術・工芸が社会のなかで果たしてきた役割を理解し、美術・工芸分野の専門家として創作活動や教育活動に携わることができる。
- (2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、日本語・英語・第二の外国語を用いたコミュニケーション・スキルを身に付け、情報通信技術（ICT）などを用いて、多様な情報を収集・分析して適性に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。
- (3) 美術・工芸分野の基礎的な知識・技術を体系的に修得し、美術・工芸分野の専門家としての業務を遂行する職業人として必要な柔軟な思考力と実践能力を有する。

#### 2 課題発見・応用能力

- (1) 技法や材料を経験的・科学的に理解し、それらを自己の制作活動へ応用したり、第三者へ伝授したりできるようになる。美術・工芸の制作活動が、現代社会が抱える様々な問題に対するメッセージとなったり、それらに対して解決への道を開いたりする可能性のあることを理解し、そのような作品を実際にプレゼンテーションすることができる。
- (2) 美術・工芸の歴史に対する理解を深め、人類史の中で、人間はなぜ、どのようにして美術の表現を行ってきたかを知ることにより、創作の原動力としてのさまざまな問題意識や想像力を有している。
- (3) 美的対象物の「美」について、言葉にしたり、記述したりできるようになるとともに、自己の作品について論理的に分析することができる。また、美術・工芸を他者とのコミュニケーション・ツールとして活用する意識とその能力を有している。

#### 3 個人と社会の持続的発展を支える力

- (1) コミュニケーション手段の一つとしての美術・工芸の重要性を理解し、美術・工芸に関わる活動を社会活動の一つとして行う意欲や態度を有する。
- (2) 人間の営為の中で、美術の創作行為の持つ独自性、その価値を理解し、美術に対して素直に感応できる態度を、自己の創作活動、教育活動、その他を通して社会の中に浸透させることのできる資質を有する。また、美術作品の内容や形式が、それを生み出した社会や文化と強く結び付いていることを理解し、美術活動を通して常に社会に対する問題意識を持つ態度を有する。
- (3) 人間には普遍性が存在すると同時に、異なる文化・宗教・人種などによって人間は差異性をも有することと、またそれを認め合うことの重要性を、自己の創作活動や作品鑑賞によってはもちろん、様々な能動的活動及び他者との触れ合いの中で知らしめることのできる資質を有する。



## 【教育課程編成・実施の方針】

教育方針を具現化するために、以下の方針の下に教育課程を編成し、教育を実施する。

### 1 教育課程の編成

(1) 効果的な学習成果を挙げるために、教養教育科目と専門教育科目を順次的・体系的に配置した4年間の教育課程を編成する。

(2) 教養教育については、以下の科目を配置する。

#### ○ 基礎的な知識と技能の分野

① 教養教育科目において、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報リテラシー科目、文化・自然科学と技術・現代社会に関する授業科目（基本教養科目）を必修及び選択必修として幅広く履修できるように配置する。

② 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における発展的な学習へと繋げる。

#### ○ 課題発見・解決能力の分野

高等学校と大学との接続を図るための授業科目（大学入門科目Ⅰ）と、現代的な課題を発見・探求し、問題解決に繋がる協調性と指導力を身に付けるための科目（インターフェース科目）を選択して学ぶ。

#### ○ 個人と社会の持続的発展を支える力

教養教育において、他者を理解し共生する力や高い倫理観・社会的責任感に関する授業科目を、選択必修として幅広く履修できるように配置する（インターフェース科目）。

(3) 美術・工芸分野で活躍する人材となるために必要な素養、知識、技術を身に付けるべく、以下のよう分類された専門教育科目を配置する。なお、A-B-Cは、段階的に知識・技術を積み重ねていくために配置されている。

#### ○ 基礎的な知識と技能

##### ① 言語・情報・科学リテラシー

専門外国語科目、情報リテラシー科目及び専門基礎科目を配置して、言語・情報・科学リテラシーに関する知識を身に付けさせる。

##### ② 専門分野の基礎的な知識と技能

以下の課程共通科目及び選修科目（必修及び選択）を配置して、専門的な知識と技能を身に付けさせる。

A-1 日本画、基礎日本画、西洋画、基礎西洋画、素描Ⅰ、素描Ⅱ、彫刻、基礎彫刻、デザイン、基礎デザイン、図法Ⅰ、窯芸、基礎窯芸、木工工芸、基礎木工工芸、染織工芸、基礎染織工芸、金工工芸、世界の美術、基礎美術理論演習、博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

#### ○ 課題発見・解決能力

##### ① 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力

以下の課程共通科目及び選修科目（必修及び選択）を配置し、現代的な課題を見出し、解決の方法を探る能力を身に付けさせる。

A-1 日本画、基礎日本画、西洋画、基礎西洋画、素描Ⅰ、素描Ⅱ、彫刻、基礎彫刻、デザイン、基礎デザイン、図法Ⅰ、窯芸、基礎窯芸、木工工芸、基礎木工工芸、染織工芸、基礎染織工芸、金工

工芸，世界の美術，基礎美術理論演習，博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

② プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力

以下の課程共通科目及び選修科目（選択）を配置して，プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力を身に付けさせる。

A-2 応用日本画，応用西洋画，応用彫刻，応用美術理論，応用美術理論演習，基礎金工工芸，工芸理論，デザイン理論，応用窯芸，応用木工工芸，応用木工工芸実習，応用染織工芸

A-3 日本画概論，素描Ⅲ，彫刻概論，総合美術理論，総合美術理論演習，博物館実習，応用デザイン，総合デザイン，窯芸概論，木工工芸概論，応用染織工Ⅰ，染織工芸概論，応用金工工芸Ⅰ・Ⅱ，金工工芸概論，木工工芸総論

③ 課題解決に繋がる協調性と指導力

以下の専門基礎科目及び教育科目を配置して，課題解決に繋がる協調性と指導力を身に付けさせる。

B-2 現代教育論，教育心理学，教育方法概説

○ 個人と社会の持続的発展を支える力

① 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力，持続的な学習力と社会への参画力

以下の選修科目（選択）及び卒業研究を配置して，多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力と，持続的な学習力及び社会への参画力や現代的な課題を身に付けさせる。

A-4 総合芸術学習（日本画，西洋画，彫塑，美術理論，デザイン，窯芸，木工工芸，染織工芸）日本画特別実習，西洋画特別実習，彫刻特別実習，美術理論特別実習，窯芸特別実習，木工工芸特別実習，染織工芸特別実習，美術工芸学外実践活動，卒業研究

② 高い倫理観と社会的責任感

以下の専門基礎科目及び教育科目を配置して，高い倫理観と社会的責任感を身に付けさせる。

B-3 社会教育概論Ⅰ，国際文化論，生活文化論，人権教育論

## 2 教育の実施体制

(1) 授業科目の教育内容ごとに，その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が講義・実習等を担当するよう教員を配置する。

(2) 必要に応じてティーチングアシスタント（TA）が授業の補助に入り，より充実した授業の実現を目指す。

(3) 領域横断的な知識や感性を磨くために，専門を異にする複数の教員が，ひとつの授業を同時に行う科目を編成する。

## 3 教育・指導の方法

(1) 演習・実習による実証的学習や体験学習と講義による知識の獲得とをバランスよく組み合わせて学習成果を高める。

(2) 少人数の学生ごとに担任を配置し，きめ細かな履修指導や学習支援を実施する。

(3) ゼミ（専攻）の指導教員が，学習支援及び進学・就職支援を実施する。

#### 4 成績の評価

(1) 各授業科目の学修内容，到達目標，成績評価の方法・基準を学習要項（シラバス）により学生に周知し，それに則した厳格な成績評価を実施する。

学士力と科目との対応：美術・工芸課程

学士力 (大項目)	学 士 力 (小項目)	授 業 科 目
1 基礎的な知識 と技能	(1) 文化と自然	基本教養科目（自然科学と 技術の分野，文化の分野）
	(2) 現代社会と生活	健康・スポーツ科目
		基本教養科目（現代社会の分 野）
	(3) 言語・情報・科学リテラシー	英語，初修外国語
専門外国語科目		
情報リテラシー科目		
(4) 専門分野の基礎的な知識と技能	専門基礎科目	
	課程共通科目	
	選修科目 必修 選修科目 選択	
2 課題発見・解 決能力	(1) 現代的課題を見出し，解決の方法を探る能力	大学入門科目
		課程共通科目
		選修科目 必修 選修科目 選択
(2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決 する能力	選修科目 選択	
(3) 課題解決につながる協調性と指導力		大学入門科目
		教育科目
		インターフェース科目
		専門基礎科目
3 個人と社会の 持続的発展を 支える力	(1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	インターフェース科目
		選修科目 選択 卒業研究
	(2) 持続的な学習力と社会への参画力	自由選択科目
選修科目 選択 卒業研究		
(3) 高い倫理観と社会的責任感		教育科目
		専門基礎科目
		卒業研究

美術・工芸課程における教育目標を達成するための授業科目の流れ（カリキュラムマップ）

学位授与の方針		授業科目名							
		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期
1	(1)	基本教養科目(自然科学と技術, 文化, 現代社会の分野)							
		健康・スポーツ科目	健康・スポーツ科目						
	(2)	外国語科目(英語A)	外国語科目(英語B)	外国語科目(英語C)	外国語科目(英語D)				
		外国語科目(初修外国語)	外国語科目(初修外国語)						
		情報リテラシー科目	情報リテラシー科目						
		専門基礎科目(実践英語)	専門基礎科目(実践英語)						
		専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目				
				専門外国語科目	専門外国語科目				
	(3)		課程共通科目	課程共通科目	課程共通科目				
		選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)				
		選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)		
	2	(1)	大学入門科目 I						
課程共通科目			課程共通科目	課程共通科目	課程共通科目				
選修科目(必修)			選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)				
選修科目(選択)			選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)		
(2)		大学入門科目 I							
		選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)		
(3)		大学入門科目 I		インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目		
		専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目				
		教育科目		教育科目	教育科目				
		選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)	選修科目(必修)				
		選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)		
3		(1)			インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	
			選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	
			自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目
									卒業研究
	(2)			インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目	インターフェース科目		
		選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)	選修科目(選択)		
		自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	
								卒業研究	卒業研究
	(3)	専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目					
		教育科目		教育科目	教育科目				
								卒業研究	卒業研究
	標準修得単位数		21	21	23	23	22	22	6

## IV 開講科目の設置趣旨

文化教育学部の特設教育科目は、特設基礎科目と特設科目から構成されている。

### (1) 特設基礎科目

文化と教育の融合を図るという文化教育学部の理念を実現するための科目であるとともに、特設分野を学修する上で、その基礎になる科目として設置されている。そのため、本学部全員にとって必修及び選択必修の科目としている。

### (2) 特設科目

課程共通科目、学校教育科目又は教育科目、特設外国語科目、情報処理科目、選修科目、自由選択科目及び卒業研究から構成されている。

◇課程共通科目は、各課程の趣旨・特色を活かすため、所属する課程の学生が特設の素養として共通に持つておくべき学力を育てるための科目として設置されている。そのため、各課程ごとに履修すべき科目が定められていて、所属する課程の学生全員が履修することとしている。

◇学校教育科目は、学校教育課程の学生が、そして教育科目は、美術・工芸課程の学生が、それぞれ必修として履修しなければならない科目として設置している。各課程の目的に合った教育的素養を育てるための科目である。

◇特設外国語科目は、全課程の学生にとって必修の科目で、外国語の運用能力を育てるため設定している。

◇情報処理科目は、人間環境課程の学生にとって必修の科目で、情報処理能力の強化のため設定している。

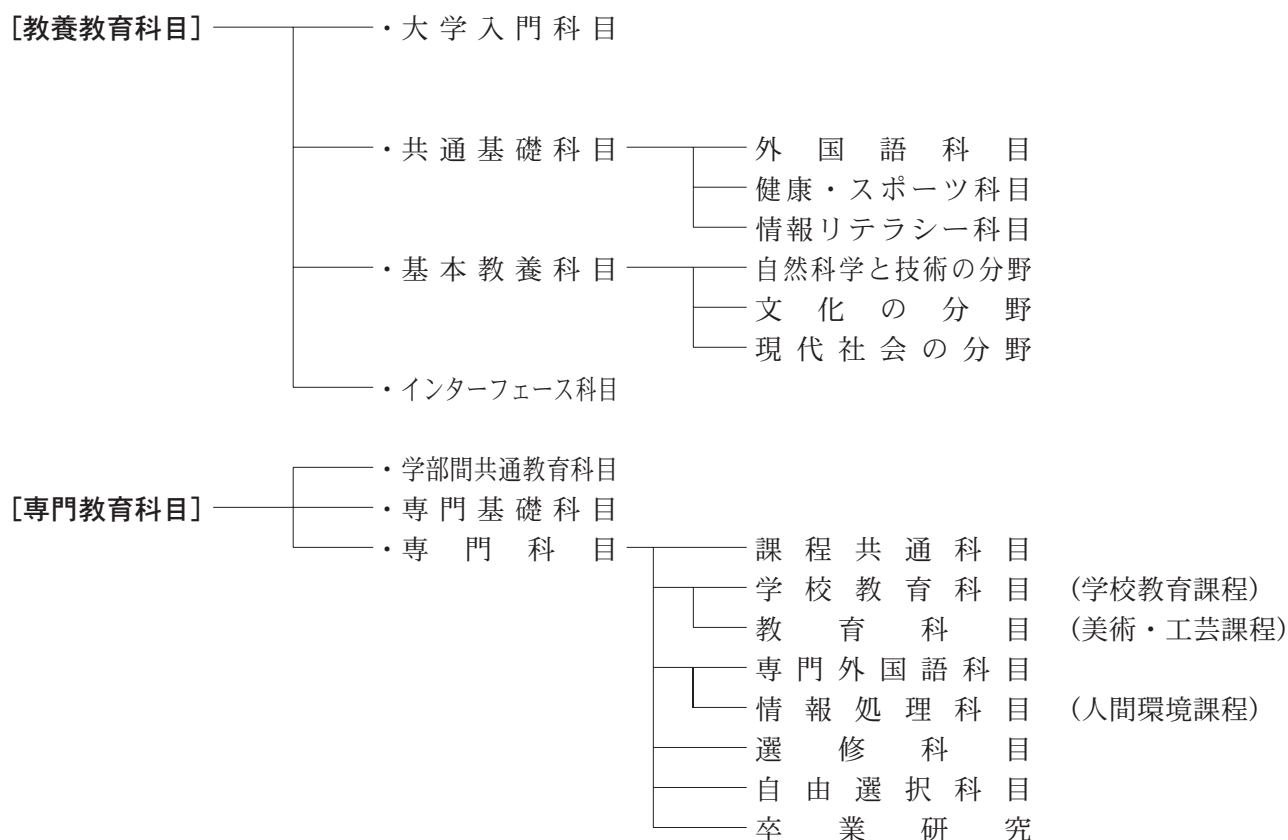
◇選修科目は、各選修の特色を表す科目であり、その選修分野の主体をなす科目として設定している。必修科目と選択科目から成っており、選択科目は、目指す能力を高めるために各自で計画的に選択できるようになっている。

◇自由選択科目は、全学部の特設教育科目の中から各自の興味にしたがって選択できる科目として設定している。そのため、この自由選択科目に配当された単位数は、教員免許状取得のための科目を履修する際に利用することもできる。

◇卒業研究は、4年間にわたる学修の集大成に当たるもので、4年次の1年間を通して研究するために設定している。この卒業研究履修条件として、3年次の前学期終了までに74単位を修得していることという条件が課せられている。履修条件を満たした者は、所定の手続きにより、3年次の1月20日までにテーマと指導教員を決め、このテーマに基づいて計画的に卒業研究（論文、制作、演奏など）を進めることになる。

# V 教育課程

## 1 カリキュラムの構成



## 2 学年進行と科目履修

4年一貫学習だからといって、何をいつ学んでもいいとはいえません。学問を学ぶには、一定の順序にしたがって一步一步前進するほうがいいのです。

大学入門科目は、1年次に履修します。

共通基礎科目のうち、健康・スポーツ科目と情報リテラシー科目は1年次に履修し、外国語科目は2年次までに履修することになっています。

基本教養科目と専門教育科目は、並行して4年間で学べるようになっています。

インターフェース科目は、2年次から4年次において履修します。

次の図は、学年進行の模式図です。

1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次
大学入門科目	専 門 教 育 科 目		
健康・スポーツ科目			
情報リテラシー科目			
外 国 語 科 目			
基 本 教 養 科 目			
		インターフェース科目	

3 卒業に必要な単位数表

別表 I (第 5 条第 1 項関係)

課程・選修	教養教育科目								専門教育科目										合計	
	大 学 入 門 科 目  (必修)	共通基礎科目			基本教養科目			小 計	専 門 基 礎 科 目  (必修)	専門科目							小 計			
		外 国 語 科 目  (必修)	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 目  (必修)	情 報 リ テ ラ シ ー 科 目  (必修)	自 然 科 学 と 技 術 の 分 野  (必修)	文 化 の 分 野  (必修)	現 代 社 会 の 分 野  (必修)			イ ン タ ー フ ェ ー ス 科 目  (必修)	課 程 共 通 科 目  (必修)	学 校 教 育 科 目 又 は 教 育 科 目  (必修)	専 門 外 国 語 科 目  (必修)	情 報 処 理 科 目  (必修)	選 修 科 目			自 由 選 択 科 目  (選択)		卒 業 研 究  (必修)
															(必修)	(選択)				
学校 教育 課程	教育学選修	2	4	4	3	8	8	29	6	6	55	2	12	8	8	4	101	130		
	教育心理学選	2	4	4	3	8	8	29	6	6	55	2	12	10	6	4	101	130		
	障害児教育選	2	4	4	3	8	8	29	6	6	55	2	12	10	6	4	101	130		
	教科教育選修	2	4	4	3	8	8	29	6	6	55	2	2	6	20	4	101	130		
	数学選修	2	4	4	3	8	8	29	6	6	55	2	12	12	4	4	101	130		
	理科選修	2	4	4	3	8	8	29	6	6	55	2	16	10	2	4	101	130		
	音楽選修	2	4	4	3	8	8	29	6	6	55	2	14	8	6	4	101	130		
国際文化課程	日本・アジア文化選修	4	4	4	3	10	8	33	6	4		12	16	22	25	6	91	124		
	欧米文化選修	4	4	4	3	10	8	33	6	4		12	12	26	25	6	91	124		
人間環境課程	生活・環境・技術選修	2	4	4	3	10	8	31	6	4		2	4	12	41	18	6	93	124	
	健康福祉・スポーツ選修	2	4	4	3	10	8	31	6	4		2	4	17	36	18	6	93	124	
美術・工芸課程		2	4	4	3	10	8	31	6	4	4	2	24	27	20	6	93	124		

#### 4 単位制度

大学における授業科目履修上の単位というものは、学生がある授業科目を履修したとき、教員が履修の目的が達成されたと認定した場合に与えられるものです。その学生を信頼するという意味のものです。

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容で構成することを標準とし、授業の方法に応じて、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮し、次の基準により単位数が定められています。

なお、本学における1校時分の授業は原則として90分（1コマ）で、これを2時間分の授業とみなします。

(1) 講義は毎週1時間15週の授業をもって1単位とします。

ただし、基準どおりにできないとき、又は必要があるときは、毎週1時間半又は2時間15週の授業をもって1単位とします。

(2) 演習は毎週1時間15週の授業をもって1単位とします。

ただし、基準どおりにできないとき、又は必要があるときは、毎週2時間15週の授業をもって1単位とします。

(3) 実験、実習及び実技については、毎週2時間15週の授業をもって1単位とします。

ただし、基準どおりにできないとき、又は必要があるときは、毎週3時間15週の授業をもって1単位とします。

45時間の学修をもって1単位とする単位制度の標準によれば、毎週1コマの講義で2単位を得るためには、その授業に関連して毎週2コマ分の自学自習が必要だということになります。

全学教育機構で開講される授業科目の単位は、次の方法によります。

- |                       |       |  |
|-----------------------|-------|--|
| ① 大学入門科目              | ……    | } 毎週90分（1コマ）15週の授業で2単位<br>ただし、基本教養科目の中の実験科目は、<br>毎週180分（2コマ）15週の授業で2単位 |
| 健康・スポーツ科目（講義）         | ……    |  |
| 情報リテラシー科目（講義）         | ……    |  |
| 基本教養科目                | ……    |  |
| ② 外国語科目、情報リテラシー科目（演習） | …………… | 毎週90分（1コマ）15週の授業で1単位   |
| ③ 健康・スポーツ科目（実習）       | …………… | 毎週90分（1コマ）15週の授業で1単位   |
| ④ インターフェース科目          | …………… | 毎週90分（1コマ）15週の授業で2単位   |

#### 5 授 業

1日の授業は、下の表のように6校時で実施されます。

校時	区分	授 業 及 び 試 験
I		8：50～10：20
II		10：30～12：00
	昼 休 み	
III		13：00～14：30
IV		14：40～16：10
V		16：20～17：50
VI		18：00～19：30



1つの授業科目の授業は、週に1回（一部は週に2回）行われ、1学期（15週間）で完結するように編成されています。ただし、教育効果などを考慮して、1年間（30週間）で完結するように編成されているものもあります。これを一般的に通年の授業とよんでいます。

また、夏休み期間などに、短期間（3～5日）で集中して行う授業（集中講義）などもあります。

授業時間割を発表した後に、曜日、校時又は教室を変更する場合がありますので、常に掲示を見るように注意してください。なお、集中講義の授業時間割表は、別途掲示されます。

## 6 シラバス

授業の概要を記したものを「シラバス」と言います。シラバスには、授業科目名、授業の開講年度・学期・曜日校時、授業担当教員、単位数のほか、講義概要、到達目標、授業計画、授業以外の学習、成績評価の方法と基準、テキスト、参考図書など、授業科目についての様々な情報が記載されています。シラバスは、教務システム＝Live Campus（※1）を通してパソコンで見ることができます。

※1 Live Campusの利用方法は、入学後第1回目の情報リテラシー科目等の授業で説明されます。

なお、Live Campusでは、シラバスを検索して参照したり、履修登録を行うほか、各自の履修登録状況を表示した時間割、成績状況（単位の取得状況）、授業に関する連絡などが参照できます。

## 7 履修手続

授業科目の履修に当たっては、学期の始めに掲示板又は学生センターホームページ上に授業時間割表が掲載されますので、これによって履修計画を具体的に立てることになります。開設されている授業科目の中には、履修の順序、条件、隔年開講のもの及び選択の仕方が示されている場合があります。

また、指定されたクラス（指定クラス）で授業を受けなければならないものと、自由に選択したクラス（選択クラス）で授業を受けてよいものがありますので、クラス編成に注意する必要もあります。

開設授業科目表の各項目をよく検討し、また、掲示による履修指導に十分注意して、誤りなく履修計画を立てるようにしてください。

卒業や教員免許状及び各種の資格取得のためには、単位数だけではなく、それぞれ定められた枠組のあることにも注意が必要です。

履修登録は、履修細則などに従い各自で十分検討の上行ってください。各学期始めの所定の期限までに、総合情報基盤センターのパソコンからLive Campusを通して、履修登録を終えなければなりません。なお、集中講義の履修手続は、別に行う必要があります。

履修登録を終えた後に履修データの確認期間が設けられ、履修科目の確認、変更の手続きができるようになっています。これは省略することのできない重要な手続ですので、十分注意してください。

なお、履修方法等が間違っていると、たとえ履修しても単位は無効になるので、不明な点などは事前に教務担当へ照会し、間違いのないようにしてください。

（登録単位数の上限）

課程ごとの登録単位数の上限は、次のとおりです。ただし、4年次・編入学生は、上限設定はありません。

学 科 (課程)	卒業要件 単位数	1 年次		2 年次		3 年次	
		前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
学 校 教 育	130	28	24	24	24	24	24
国 際 文 化	124	28	24	24	23	22	21
人 間 環 境	124	28	24	24	24	22	20
美 術 ・ 工 芸	124	28	24	24	24	22	20

※集中講義は登録単位数の対象としません。

(登録単位数の特例)

当該学期において10単位以上を修得し、かつ、GPA計算期日のGPA値が2.5以上の者は、成績優秀者として認定され、翌学期において10単位まで登録単位数の上限を超えて履修登録を行うことができます。

## 8 大学からの連絡と掲示板

シラバスを参照したり履修登録を行うときには、便利な道具であるLive Campusを利用しますが、しかし、Live Campusから皆さんにとって必要なすべての情報が得られる訳ではありません。履修関係のほか、試験・成績などに関する重要な連絡は、原則として掲示板により行います。掲示板には重要な連絡事項だけでなく、教員からの呼び出しや連絡事項が張り出されることもあります。

本庄キャンパスの教養教育大講義室前の広場には、教務関係掲示板が設置されています。「大学に行ったら、まず掲示板を見る」、という習慣を身に付けてください。

## 9 定期試験

定期試験は年間2回の学期末に実施され、その時間割表は、定期試験の1週間前に掲示されます。なお、授業科目によっては定期試験を行わずに、レポート等を課される場合があります。

## 10 成績評価及び通知

① 成績判定は、平素の学修状況、学修報告、論文及び試験等によって行われます。

なお、成績の評価は、秀、優、良、可及び不可で表され、不可は不合格となります。

② 成績は、各自で掲示された所定の期間に確認するようになっています。

## 11 不正行為

(定期試験における不正行為)

学生が定期試験において不正行為をしたときは、当該学生がその定期試験期間中に受験したすべての試験科目の成績を無効とします。

(実験等における不正行為)

学生が実験、実習、学修報告、論文又は平素の試験等において不正行為をしたときは、当該実験、実習、学修報告、論文又は平素の試験等に係る科目の成績を無効とします。

## VI 教養教育科目

本学は教育の目的を、「国際的視野を有し、豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個人を育成する」（佐賀大学学則第2条）、と定めています。本学は皆さんを、世界を見据え、豊かな教養と深い専門知識を身に付け、こうした知識を持って社会を生き抜く人間となるように教育します。本学が皆さんに望むのは、社会を生きる力です。大学を出た後も、生涯学んでいける力です。

皆さんはそれぞれ、学びたい分野を定めて学部・学科・課程を選択し、本学に入学しました。これから皆さんは、それぞれの学部の学科や課程の専門教育課程で、高度な専門知識・技術・技能を身に付けていきます。しかし、こうした高度な知識・技術・技能も、使い方が悪ければ、必ずしも社会の役に立つとは限りません。知識・技術・技能を用いるのは人間です。これらの知識・技術・技能をどこに、どのように使うのか、このことは殊に複雑な現代社会にとっては大きな問題です。知識や技術や技能が高度になればなるほど、それを用いる豊かな人間性がますます求められます。本学が「豊かな教養」を重視する理由がここにあります。

### 1 教養教育の教育課程

#### (1) 教育課程の編成

本学の教養教育は、学士課程教育の質の保証に資することを目的とし、皆さんが、社会の一員として必要な教養を身に付け、自ら高い市民性を涵養することを教育理念としています。このような教育理念を実現するために、全学教育機構は、各学部と協議して教養教育の教育課程を編成し、全学教育機構（一部は各学部）において実施します。教養教育の教育課程は、次のような内容の科目によって構成されます。

科 目	内 容
大 学 入 門 科 目	高等学校と大学との教育の接続を図ります。
共 通 基 礎 科 目	英語能力を向上させ、その他の外国語の学びの機会を提供し、また、健康・スポーツ科目や情報リテラシー科目の履修により高度技術社会のなかで求められる知識や技能の修得を図ります。
基 本 教 養 科 目	市民社会の諸相を「自然科学・技術」「文化」「社会」の視点から学びます。
インターフェース科目	大学で学んだことと社会とを接続し、個人と社会の持続的発展を支える力を育成します。

#### (2) 基本教養科目の履修方法等

学部・学科・課程		履 修 方 法
文化教育 学 部	学校教育課程	日本国憲法を含み、各分野から2単位以上、計8単位以上を履修する。
	国際文化課程	各分野から2単位以上、計10単位以上を履修する。
	人間環境課程	各分野から2単位以上、計10単位以上を履修する。
	美術・工芸課程	各分野から2単位以上、計10単位以上を履修する。

### (3) 教育職員免許状取得の要件となる授業科目

教育職員免許状を取得する場合には、専門教育科目以外にも、教育職員免許法施行規則の第66条の6において、「日本国憲法」、「外国語コミュニケーション」、「体育」、及び「情報機器の操作」の修得が義務づけられています。本学ではこれらの授業科目の多くを全学教育機構で開講していますが、教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」については基本教養科目・現代社会の分野の「日本国憲法」2単位を、「外国語コミュニケーション」については共通基礎科目の外国語科目（「日本語」は除きます。）から2単位を、「体育」については共通基礎科目の「スポーツ実習」の2単位を修得しなければなりません。また、「情報機器の操作」については情報リテラシー科目の「情報基礎概論」及び「情報基礎演習Ⅰ」を履修しなければなりません。

## 2 教養教育科目の履修方法及び履修上の注意事項

### (1) 学部・課程の学籍番号及び記号

各課程の学籍番号は以下のとおりです。

この「履修の手引」の中で、あるいは掲示される時間割などでは、学部・課程を表すため記号を用います。記号については、別途掲示します。(57ページ参照)

文化教育学部	}	学校教育課程	1 5 1 1 1 〇〇〇
		国際文化課程	1 5 1 1 2 〇〇〇
		人間環境課程	1 5 1 1 3 〇〇〇
		美術・工芸課程	1 5 1 1 4 〇〇〇

### (2) 大学入門科目

大学入門科目は、二つの授業科目に分かれています。一つは、新入生に必要とされる学習及び生活上のガイダンスや、各学部の特性に応じた導入教育などを内容とする「大学入門科目Ⅰ」です。もう一つは、各学部の特性に応じて、論理的な理解、分析、思考及び表現等の能力またはデザイン力を養うことを内容とする「大学入門科目Ⅱ」です。

学校教育課程、人間環境課程及び美術・工芸課程にあっては「大学入門科目Ⅰ」を、国際文化課程にあっては「大学入門科目Ⅰ」及び「大学入門科目Ⅱ」をそれぞれ履修しなければなりません。

### (3) 共通基礎科目

共通基礎科目は、「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」、「情報リテラシー科目」に分かれますが、「外国語科目」は「英語」と、「ドイツ語」・「フランス語」・「中国語」・「朝鮮語」（これらを便宜的に「初修外国語」と呼びます。）、それに「日本語」から成ります。「健康・スポーツ科目」は、「健康スポーツ科学」と「スポーツ実習」から成ります。また「情報リテラシー科目」は「情報基礎概論」と「情報基礎演習」から成っています。

#### ① 外国語科目

共通基礎科目における外国語科目は、学校教育課程及び国際文化課程にあっては、英語4単位を、人間環境課程にあっては、英語2単位及びドイツ語、フランス語、中国語又は朝鮮語のうちから2単位を、美術・工芸課程にあっては、英語4単位又は英語2単位及びドイツ語、フランス語、中国語又は朝鮮語のうちから2単位をそれぞれ履修しなければなりません。ただし、外国人留学生につ

いては、この限りではありません。

a) 英語

英語は、「英語を用いて、専門分野の知識を修得し、自己の考えを発信できる」力の修得を目標とし、1年次の前学期に「英語A」を、後学期に「英語B」を、2年次の前学期に「英語C」を、後学期に「英語D」を開講します。英語の授業では、それぞれの学部（一部は学科）ごとに、受講するクラスが指定されます。英語の授業は、指定されたクラスにおいて受講しなければなりません。「英語B」「英語C」「英語D」は1年次の前学期に実施するTOEIC-IPの成績によって習熟度別クラス編成を行います。まず、自分が受講するクラスを確認しましょう。

後に述べる「留学支援英語教育カリキュラム」の履修を認められた学生は、カリキュラムが指定する英語の授業科目を履修します。これらの授業科目の履修は、卒業に必要な授業科目である「英語A」、「英語B」、「英語C」、「英語D」を履修したものと見なされます。どの授業科目の履修がどの授業科目の履修に対応するかは、下の表を見てください。

留学支援英語教育カリキュラムの英語授業科目と履修したものと見なす授業科目との対応表

履修する授業科目	単位数	履修したものと見なす科目	単位数
Intercultural English : Awakenings	1	英語A	1
Integrated Speaking : Awakenings	1		
Intercultural English : Bridging	1	英語B	1
Integrated Writing : Awakenings	1		
Integrated Writing : Bridging	1	英語C	1
English Test Success : TOEFL I	1		
Integrated Speaking : Bridging	1	英語D	1
English Test Success : TOEFL II	1		

b) 初修外国語

初修外国語は、「初修外国語を用いて、簡単な会話ができ平易な文章を読み書きできる」力の修得を目標とします。初修外国語には、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語の科目が設けられていますが、それぞれの初修外国語科目は、1年次の前学期にI aを、後学期にI bを、2年次の前学期にII aを、後学期にII bを開講します。例えば「ドイツ語I a」（1年次前学期）、「ドイツ語I b」（1年次後学期）、「ドイツ語II a」（2年次前学期）、「ドイツ語II b」（2年次後学期）といった具合です。これらの科目は、学部（一部は学科）ごとに同じ曜日に開講されます。各授業科目とも、受講できるクラスが指定されますので、指定されたクラスで受講してください。

c) 日本語

日本語は、外国人留学生（本学一般入試で合格し、入学した外国人留学生を除く）を対象とし、「日本語を用いて、専門分野の知識を修得し、自己の考えを発信できる」力の修得を目標とします。日本語は「日本語I」と「日本語II」から成ります。「日本語I」は前学期に、「日本語II」は後学期に開講されますが、それぞれの科目とも、1週に2回の授業を行う2単位科目ですので、週に2回ある授業科目の開講曜日と校時を確認してください。また「日本語I」及び「日本語II」とも、各学期の最初に行なうプレースメントテストによって、日本語の能力に応じたクラスを編

成します。

d) 外国語科目を履修する際のその他の注意事項

- ① 外国人留学生の外国語科目履修についての特例（一般入試で合格し、入学した外国人留学生を除く。）

外国人留学生は、母語以外の外国語科目（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、日本語）のうちから、2科目又は1科目を選択して履修することができます。つまり、1科目を修得する必要がある場合には、英語に代えて英語以外の外国語を4単位あるいは2単位（たとえば「日本語Ⅰ」と「日本語Ⅱ」を4単位あるいは2単位）修得することができます。また2科目を修得する必要がある場合には、英語に代えて英語以外の外国語科目を4単位（あるいは2単位）修得し、さらにそれら以外の外国語科目から4単位（あるいは2単位）を修得することができます。

- ② 初修外国語科目が卒業に必要な単位数に指定されていない学科・課程の学生の履修

英語以外の外国語科目が必修ではない学科・課程でも、希望により履修することができます。ただし、時間割によっては、希望どおりのクラスで受講することがむずかしいこともあります。この授業科目の単位は、卒業に必要な単位数には含まれませんが、在学中に修得した単位数としては認められます。

- ③ 海外語学研修プログラムによる履修

全学教育機構には、海外語学研修プログラムがあります。海外語学研修プログラムを修了すると、全学教育機構の外国語科目の単位としての認定を受けることができます。ただし英語について認定を受けることができる授業科目は「英語B」と「英語C」です。対象となる研修プログラムは、実施計画が出来た段階で、掲示によりお知らせします。

- ④ 各種外国語能力・技能検定試験の単位認定

各種の語学能力・技能検定試験を受験し一定の成績を修めれば、その成績結果を、外国語科目の単位として認定することがあります。認定する外国語能力・技能検定試験並びにそれぞれの検定試験成績の認定基準、認定科目、認定単位数及び評価については、次頁の表を見てください。これらの検定試験で認定基準となる成績を取得し、認定を希望する場合には、原則として、学期始めの指定された期間内に、申請書及び合格を証明する書類を、教養教育教務に提出してください。

ただし、次の点に注意してください。

- (a) 認定される科目ですでに修得した単位がある場合には、卒業に必要な単位数に不足している単位数までが認定されます。（たとえばドイツ語で、すでに2単位を修得している場合には、独検で3級を取得し4単位の認定を申請しても、認定されるのは2単位までです。）
- (b) 英語について、複数の能力・技能検定試験で同一レベルの成績を取得している場合には、1種類の成績だけが認定の対象となります。

単位認定の対象となる外国語能力・技能検定試験

外国語の種類	外国語能力・技能検定試験
英語	TOEIC (TOEIC - IPを含む), TOEFL- IBT (TOEFL - ITPを含む), 英検 (実用英語技能検定試験)
ドイツ語	独検 (ドイツ語技能検定試験)
フランス語	仏検 (実用フランス語技能検定試験)
中国語	中検 (中国語検定試験)

認定基準, 認定科目, 認定単位数, 及び評価

英語

能力・技能検定試験と認定基準				認定科目	認定単位数	評価
TOEFL-ITP	TOEFL-IBT	TOEIC (TOEIC - IPを含む)	英 検			
520-560	68-83	640-760	準1級	英語B	1単位	認定
561以上	84以上	765以上	1級	英語C	2単位まで	

初修外国語

能力・技能検定試験	認定基準	認定科目	認定単位数	評価
独検 (ドイツ語技能検定試験)	4級	ドイツ語 I a, I b	2単位まで	認定
	3級以上	ドイツ語 I a, I b及び ドイツ語 II a, II b	4単位まで	
仏検 (実用フランス語技能検定試験)	4級	フランス語 I a, I b	2単位まで	
	3級以上	フランス語 I a, I b及び フランス語 II a, II b	4単位まで	
中検 (中国語検定試験)	4級	中国語 I a, I b	2単位まで	
	3級以上	中国語 I a, I b及び 中国語 II a, II b	4単位まで	

⑤ 全学統一英語能力テスト (TOEIC) の実施

佐賀大学では、英語学習について明確な学習目標を与えることで、学生の皆さんの自律的かつ持続的学習を促すとともに、入学後の英語力の推移を測定・検証し、本学の英語教育の改善と大学全体としての英語力の向上を図るため、平成25年度の入学生から、次のとおりTOEIC-IPテストを受験することとなりました。なお、実施日時、実施場所等の詳細については、学年暦や通知等で別途周知します。

○文化教育学部の学生

1年次の前学期(6月～7月)に受験し、その結果を1年次後学期に開講する英語Bのクラス分けに利用します。また、2年次の後学期(12月～1月)の受験結果については、英語Dの成績評価の一部(30%)として利用します。

② 健康・スポーツ科目

健康・スポーツ科目は、「健康な生活に関する知識の修得」を目標とする「健康スポーツ科学」

と「市民性の涵養の前提となる自己の健康やメンタルヘルスの保証」を目標とする「スポーツ実習」とによって構成されます。「健康スポーツ科学」は講義科目（2単位）、「スポーツ実習」は実習科目（1単位）です。「スポーツ実習」は、「スポーツ実習Ⅰ」と「スポーツ実習Ⅱ」とに分かれます。これらの授業科目は1年次に開講されます。また、学部・学科・課程ごとに受講するクラスが指定されますので、指定されたクラスにおいて受講してください。

各クラスは、「スポーツ実習Ⅰ」を履修するグループと「スポーツ実習Ⅱ」を履修するグループとに分かれて履修します。グループ分けは、前学期の最初の授業において行いますので、筆記用具を持参して必ず参加してください。

### ③ 情報リテラシー科目

情報リテラシー科目は、「情報を収集し、その適正を判断し、適切に活用・管理する」力の修得を目標とする「情報基礎概論」と、「情報及び情報を処理する技術」の修得を目標とする「情報基礎演習」とによって構成されます。「情報基礎概論」は講義科目（2単位）、「情報基礎演習」は演習科目（1単位）です。「情報基礎演習」は、「情報基礎演習Ⅰ」と「情報基礎演習Ⅱ」とに分かれます。文化教育学部の学生は、「情報基礎概論」及び「情報基礎演習Ⅰ」を履修しなければなりません。

## (4) 基本教養科目

基本教養科目の教育目標・目的・内容

基本教養科目は、「世界を認識するための幅広い知識」や「健全な社会や健康的な生活に関する知識」を修得し、高い市民性を培うことを教育目標とします。基本教養科目は、原則として1年次及び2年次に履修します。「自然科学と技術の分野」、「文化の分野」及び「現代社会の分野」から選択して履修してください。各分野の授業科目の目的と内容は、次のとおりです。

分 野	授 業 科 目 の 目 的 と 内 容
自然科学と技術	自然を科学的な目で認識し、主体的な判断に基づき行動する素養を身につけることを目的とし、科学・技術の基本的な概念・科学的思考方法・科学的認識の歴史などや、現代社会における科学・技術の役割と限界などを内容とする。
文 化	文化の捉え方・文化の違いや歴史の変遷などの理解によって文化という観点から世界を認識し、その下に行動する素養を身につけることを目的とし、文学と芸術、言語と表現、歴史と文化などを内容とする。
現代社会	現代社会の現状を捉え、健全な社会と生活の質の向上に向けて、主体的に関わり、役立てていく素養を身につけることを目的とし、基礎社会科学や教育と人間、現代社会の構造などを内容とする。

※なお、学校教育課程の学生は、現代社会の分野から日本国憲法2単位を修得しなければなりません。

### ① 授業科目の選択

授業科目は、「開講一覧」と時間割を確認して、選択してください。各分野の「区分」は、授業科目を便宜的に整理したものですので、どの区分から選択しても構いません。ただし、授業科目の内容によっては、受講できない学科や課程、または学年が指定されている授業科目がありますので、選択する際には、シラバスをよく読んで確認してください。また、後に述べる「留学支援英語教育カリキュラム」及び「全学共通の教育プログラム」の履修を認められた学生は、それぞれのカリキュ



ラム、プログラムが指定する授業科目を優先して選択し、その上で、卒業に必要な基本教養科目の単位数を満たすために必要な授業科目を選択してください。履修する順序は、特に指定がなければどの授業科目が先でも構いません。

## ② 授業科目の履修登録と抽選

履修を希望する基本教養科目の授業科目は、学期ごとに指定された期間内に履修登録をしなければなりません。各授業科目の履修希望者が150人を超えた場合や、使用する教室の収容可能な人数を超えた場合、また授業を効果的に行うために必要な人数の制限を超えた場合には、抽選を行って履修者を決定します。もし、抽選に漏れた場合には、人数に余裕のある別の授業科目への履修登録を行うことができますので、履修者決定についての掲示に注意しておいてください。

## ③ 総合科目

基本教養科目には、総合科目として「国際交流実習」及び「キャリアデザイン」を設けています。

### (1) 国際交流実習

国際交流実習は、大学が定めた海外での様々な学習活動プログラムに基づいて行われる授業です。この授業科目の履修は本学の基本教養科目の履修として認定され、各分野いずれかの単位数に含めることができます。授業計画がまとめ次第、履修希望者を募りますので、掲示に注意しておいてください。

### (2) キャリアデザイン

キャリアデザインは、自らの興味や適性を明瞭に把握し、社会で実際に働く人々の体験などを聴くことによって、社会に出てから積み重ねてゆく仕事の将来設計を行う科目です。この授業科目も、基本教養科目の各分野いずれかの単位数に含めることができます。

## ④ その他の注意事項

### (a) 外国人留学生向けの授業科目：「日本事情」

外国人留学生は、基本教養科目として「日本事情」を履修することができます。「日本事情」は、「日本事情（自然科学と技術）」、「日本事情（文化）」、「日本事情（現代社会）」からなりますが、「日本事情（自然科学と技術）」は自然科学と技術の分野の、「日本事情（文化）」は文化の分野の、「日本事情（現代社会）」は現代社会の分野の授業科目です。

### (b) 他大学との単位互換制度

本学は、西九州大学や放送大学と単位互換協定を締結しているほか、佐賀県内の6大学・短大で構成する大学コンソーシアム佐賀に参加しており、これらの大学で履修した授業科目の単位を本学の卒業要件単位数として認定する制度を作っています。詳細については、下記を参照してください。

佐賀大学HP 単位互換 <http://www.sc.admin/saga-u.ac.jp/tani>.

大学コンソーシアム佐賀HP <http://www.saga-cu.jp/>

### (5) インターフェース科目

インターフェース科目は、「現代社会が抱える諸問題に目を向けて課題を発見し解決に取り組む姿勢を養い、社会に対応するための知識・技術・技能や社会を生きるための力を身に付けることにより、学士課程教育で得た知識・技能を社会において十分に活かし、将来にわたり個人と社会との持続的発展を支える力を培う」ことを目標としています。すなわち、インターフェース科目は、専門の知識・技術・技能を身に付けた皆さんが、そうした知識・技術・技能を社会に活かすための能力、社会に出

て生きてゆくために必要な力を培うための科目です。

#### ① インターフェース科目の構成

インターフェース科目は、関連する4つの授業科目からなる複数の「インターフェースプログラム」と、プログラムの担当教員が必要に応じて開講する「インターフェース演習科目」とからなります。プログラムの授業科目は、インターフェースプログラム名にⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの番号が付されています。インターフェースプログラムの授業科目は、講義だけでなく、学生自らが主体的に参加する演習、調査、報告あるいは対話などを組み合わせ、「アクティヴ・ラーニング」を志向します。

#### ② インターフェースプログラムの履修方法

インターフェースプログラムは、複数のプログラムから1つのプログラムを選択して登録します。登録したインターフェースプログラムでは、授業科目のⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを、順次履修します。インターフェース科目の履修は、原則として2年次以上です。ただし、留学支援英語教育カリキュラムや全学共通の教育プログラムの履修を認められた学生は、予め定められたプログラムを定められた方法によって履修します。インターフェースプログラムでは、4つの授業科目（8単位）をすべて修得しなければなりません。

#### ③ インターフェースプログラムの登録

インターフェースプログラムの登録を、履修登録とは区別して「プログラム登録」と呼びます。プログラム登録は、原則として、1年次の後学期の終わりまでに行わなければなりません。各インターフェースプログラムの内容、履修の申し込み期間、履修者決定方法等については掲示をします。注意しておいてください。プログラム登録していないインターフェースプログラムの授業科目を履修することはできません。また、インターフェースプログラムの授業科目の履修には、プログラム登録とは別に、履修登録が必要です。3年次に転入学、編入学、再入学した学生は、3年次の前学期にプログラム登録を行うことができます。

#### ④ インターフェース演習科目

「インターフェース演習」の授業科目は、インターフェースプログラムの教育内容をさらに深めるために、必要に応じて、インターフェースプログラムの担当教員が開講します。インターフェース演習の授業科目を開講する際には、掲示によって履修希望者を募ります。また、インターフェース演習の授業科目で修得した単位を、インターフェースプログラムの授業科目の単位として認めることがあります。詳しくは、プログラム担当の教員に相談してください。

### 3 特定の教育プログラム

全学教育機構では、教養教育科目などを利用して、特定の教育目的をもった教育プログラムを実施しています。これらのプログラムは、教養教育課程の教育目的を果たしながら、同時に特定の教育目的を追求するものです。

#### (1) 留学支援英語教育カリキュラム

留学支援英語教育カリキュラムは、留学への意欲と一定の英語力を有する学生を対象に、主に英語を用いた指導体制と授業科目とによって教育を行うものです。留学支援英語教育カリキュラムの履修を認められた学生は、次頁表に掲げる授業科目を履修する必要があります。

ただし、表に掲げる授業科目は卒業に必要な教養教育科目の一部です。不足する授業科目については、各学部・学科・課程の卒業に必要な教養教育科目の単位数を参考に、漏れのないように履修して

ください。

#### 留学支援英語教育カリキュラムの授業科目及び単位数

科目区分	対応する授業科目及び分野	授 業 科 目	単位数
共通基礎科目	英語A	Intercultural English : Awakenings	1
		Integrated Speaking : Awakenings	1
	英語B	Intercultural English : Bridging	1
		Integrated Writing : Awakenings	1
	英語C	Integrated Writing : Bridging	1
		English Test Success : TOEFL I	1
	英語D	Integrated Speaking : Bridging	1
		English Test Success : TOEFL II	1
基本教養科目	自然科学と技術の分野	Breakthroughs in the Modern Age	2
		The Natural World	2
	文化の分野	Critical Thinking for the Modern Age	2
		Cultural Metaphors	2
	現代社会の分野	Citizenship Education	2
インターフェース科目		Intercultural Communication I	2
		Intercultural Communication II	2
		Intercultural Communication III	2
		Intercultural Communication IV	2

#### (2) 全学共通の教育プログラム

全学共通の教育プログラムは、全学の学生を対象に、全学に共通する教育目的を掲げて教育を行うものです。全学共通の教育プログラムには「デジタル表現技術者養成プログラム」、「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」及び「環境キャリア教育プログラム」があります。これらのプログラムは、全学教育機構が開設する科目を活用して実施され、定められた授業科目を履修し、単位を修得した学生には修了証が与えられます。

これらのプログラムへの登録については、1年次の始めに、各プログラムの責任者の教員によって説明が行われます。各プログラムの授業科目、必要な単位数、履修方法、修了要件などについては、説明時に配布されるパンフレット等を見てください。（障がい者就労支援についての新規募集はありません。）

#### 4 学部間共通教育科目

全学教育機構は、学部に通ずる専門教育を行うために、「学部間共通教育科目」を設けています。「学部間共通教育科目」には、「共通専門基礎科目」、「特定プログラム教育科目」及び「留学生プログラム教育科目」があります。これらの科目は各学部の規定に従って、卒業に必要な専門教育科目の単位数に算入することができます。

##### (1) 特定プログラム教育科目

特定プログラム教育科目は、全学共通の教育プログラムが設定する授業科目の中で、学部間共通教育科目として開講される専門教育科目です。特定プログラム教育科目の授業科目の履修によって修得

した単位は、次の表に示す範囲内で、卒業に必要な専門教育科目の単位数として算入することができます。

(佐賀大学学部間共通教育科目履修規程 第4条別表Ⅲ関係)

卒業に必要な単位数に算入できる単位数の上限

学 部	課 程	選 修	学部間共通教育科目			計
			特定プログラム教育科目		留学生プログラム教育科目	
			デジタル表現 技術教育科目	環境キャリア 教育科目		
文化教育学部	学校教育課程	教育学選修	8		8	
		教育心理学選修	6		6	
		障害児教育選修	6		6	
		教科教育選修	20		20	
		数学選修	4		4	
		理科選修	2		2	
		音楽選修	6		6	
	国際文化課程	日本・アジア文化選修	25		25	
		欧米文化選修	25		25	
	人間環境課程	生活・環境・技術選修	18		18	
		健康福祉・スポーツ選修	18		18	
	美術・工芸課程	美術・工芸選修	20		20	

## 5 試験と再履修

### (1) 定期試験

全学教育機構の各授業科目を履修した場合には、試験やレポートなどによって成績が判定され、合格者には所定の単位が与えられます。各授業科目の成績評価の方法については、それぞれの授業科目のシラバスに記載されています。試験は、原則として、各学期の終わりに、一定の試験期間を公示して行われます。これを定期試験といいます。これ以外にも、授業中に小テストなどが実施される場合があります。

### (2) 追試験

病気などやむを得ない理由によって定期試験を受験できなかった場合、所定の追試験願を提出して認められた学生には、追試験が実施されます。やむを得ない理由とは、天災、事故、病気、肉親の死亡（二親等以内）、大学院受験、就職試験（日時を指定された会社訪問や説明会を含みます。）です。追試験を希望する場合には、願書に欠席の理由を証明する書類を添えて、公示された定期試験期間の最終日から7日以内に、教養教育教務に提出しなければなりません。ただし、就職試験等で事前に定期試験を受験できないことが明らかな場合には、事前に願書及び必要な書類を提出しなければなりません。

### (3) 再試験

定期試験で不合格と判定された授業科目については、再試験が行われることがあります。ただし、

外国語科目の英語については、再試験は行なわれません。

再試験が行われる授業科目は、修得単位通知書が交付される日に、学生センター掲示板に発表されますので確認してください。再試験の受験を希望する場合には、発表の日から7日以内に、所定の再試験願を、教養教育教務に提出しなければなりません。再試験に合格した場合の成績は、60点とします。

#### (4) 共通基礎科目の再履修と指定外履修

##### ① 再履修

履修した授業科目に不合格の判定が下された場合、もしもその科目が卒業に必要な科目であれば、その科目を再履修しなければなりません。再履修は、不合格になったすべての科目について可能ですが、共通基礎科目の場合には、ほとんどの授業科目が履修クラスを指定されていますので、再履修も少し複雑になります。

##### ② 外国語科目の再履修

###### (1) 英語

英語の授業科目は英語A、英語B、英語C、英語Dからなりますので、不合格になった同じ授業科目を再履修クラスで受講することになります。例えば「英語B」が不合格になった場合には、「英語B」の再履修クラスとなります。

###### (2) 初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語）

初修外国語の再履修は、同じ授業科目であれば（例えば「ドイツ語Ib」は「ドイツ語Ib」で再履修します。）、どの学部・学科用のクラスであっても再履修することができます。

###### (3) 日本語

日本語も同じ授業科目で再履修します。たとえば「日本語I」の再履修は「日本語I」で行いますが、再履修するクラスは、各学期の初めに行うプレースメントテストで決定されます。

##### ③ 健康・スポーツ科目の再履修

健康・スポーツ科目は、2年次以降に再履修することができます。受講クラスは問いません。ただし、「スポーツ実習」の場合には、1つの学期に再履修できる単位数は1単位までです。

##### ④ 情報リテラシー科目の再履修

情報リテラシー科目は、2年次以降に再履修ができます。再履修するクラスは、原則として、所属する学部・学科用のクラスとしますが、この指定クラスでの再履修が困難な場合には、指定クラスの教員及び希望するクラスの教員の許可が得られれば、希望するクラスで再履修することができます。

##### ⑤ 指定外履修

指定されたクラスでの再履修が、専門教育科目の必修科目等と重なり困難である場合には、申し出により、指定されたクラス以外での履修が許可されることがあります。これを「指定外履修」といいます。指定外履修を申請する場合には、指定外履修願を教養教育教務に提出し、許可を得なければなりません。詳細は、適切な時期に掲示します。

平成27年度 全学教育機構時間割表

文化教育学部 (前学期) 1 年次

	I	II	III	IV	V
月	健康スポーツ科学 全課程	スポーツ実習 I、II 全課程	英語 A フランス語 Ia 全課程 N		情報基礎演習 I 1 1 2
火	大学入門科目 I 学校教育-教科教育	大学入門科目 I 学校教育-教育学 大学入門科目 I 学校教育-教育心理学 大学入門科目 I 学校教育-障害児教育	情報基礎概論 全課程		大学入門科目 I 学校教育-数学 大学入門科目 I 学校教育-音楽
水	<b>基本教養科目</b> 日本事情 (現代社会)	<b>基本教養科目</b>	日本語 I (a), (b), (c)	留学支援英語	留学支援英語
木	<b>基本教養科目</b>	<b>基本教養科目</b>	情報基礎演習 I 1 1 1 (A・B) 1 1 4 大学入門科目 I 人間環境課程 A 群 (地域・生活文化) 大学入門科目 I 人間環境課程 B 群 (環境・技術)		大学入門科目 I 学校教育-理科
金	大学入門科目 I 人間環境課程 C 群 (健康福祉・スポーツ)		日本語 I (a), (b), (c) 大学入門科目 I 美術・工芸課程	大学入門科目 I 国際文化課程 A 大学入門科目 I 国際文化課程 B 大学入門科目 I 国際文化課程 C 大学入門科目 I 国際文化課程 D 大学入門科目 I 国際文化課程 E ドイツ語 Ia 1 1 3、1 1 4 フランス語 Ia 1 1 3、1 1 4 中国語 Ia 1 1 3、1 1 4 朝鮮語 Ia 1 1 3、1 1 4	

平成27年度 全学教育機構時間割表

文化教育学部 (後学期) 1 年次

	I	II	III	IV	V
月	情報基礎演習 I 1 1 3	スポーツ実習 I、II 全課程	英語 B フランス語 I b N 全課程		
火					
水	基本教養科目	基本教養科目	日本語 II (a), (b), (c)	留学支援英語	留学支援英語
木	基本教養科目	基本教養科目			
金			日本語 II (a), (b), (c)	大学入門科目 II 国際文化課程 A 国際文化課程 B 国際文化課程 C 国際文化課程 D 国際文化課程 E ドイツ語 I b フランス語 I b 中国語 I b 朝鮮語 I b	大学入門科目 II 国際文化課程 A 国際文化課程 B 国際文化課程 C 国際文化課程 D 国際文化課程 E

## VII 専門教育科目

「文化と教育の融合を図る」という本学部の理念を実現するために、学部共通科目の専門基礎科目を必修単位として修得するように義務づけられています。さらに、各々の課程では、その教育・研究の目的に応じた専門科目を必修又は選択の単位として修得するように義務付けられています。

以下に、専門教育科目の単位を修得するに当たっての諸注意を記します。

### 1 課程・選修のクラス分け

#### ① 課程のクラス分け

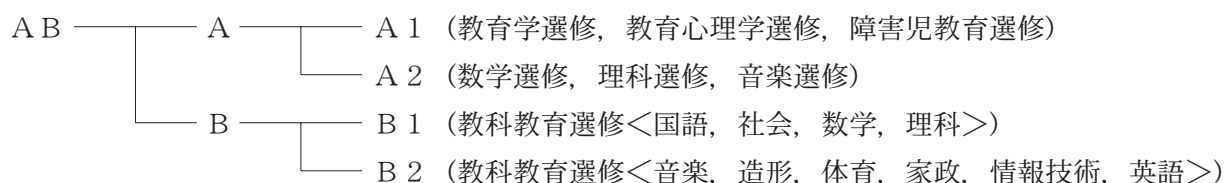
1 1 1 (学校教育課程)

1 1 2 (国際文化課程)

1 1 3 (人間環境課程)

1 1 4 (美術・工芸課程)

#### ② 学校教育課程のクラス分け



・指定クラスがある選修の学生は、原則として指定されたクラス以外では履修できません。

・他学部生用に開講される授業科目は、原則として履修できません。

### 2 追試験

① やむを得ない理由によって定期試験を受験できなかった授業科目で、担当教員の承認を得た後、所定の追試験願を提出した者については、教務委員会の議を経て追試験を行うことがあります。

② 就職試験等により事前に定期試験を受験できないことが明らかな場合は、当該授業科目の試験日の前日までに、追試験願を教務担当へ提出しなければなりません。

③ 病気等により事前に願い出ることができなかった場合は、当該授業科目の試験日から7日以内に、追試験願を教務担当へ提出しなければなりません。ただし、この期間中に本人が手続きできない場合は、この限りではありません。

④ 追試験願には、欠席の事由を証明する文書等を添えなければなりません。

⑤ 欠席の事由として認められるのは、天災、交通機関の事故、交通事故、病気、忌引(2親等以内)、就職試験、大学院入試、博物館実習、その他です。「その他」に該当する事由の適否については、教授会で判断します。

### 3 再試験

① 再試験は原則として行われません。ただし、担当教員が再試験実施を承認した場合には行われることがあります。

② 再試験が実施される授業科目は成績交付後に教務担当より掲示にて発表されます。受験を希望する場合は、その発表日を含めて5日以内に再試験願を教務担当へ提出しなければなりません。



## Ⅷ 諸 手 続 に つ い て

### 1 履修等に関する手続

授業科目の履修等に関する手続きとして次のものがありますから、特に留意してください。なお、期限内に提出されない場合は原則として認められません。諸手続の申込用紙は教務担当等に準備してあります。

年次	名 称	提 出 期 限	提 出 先
随時	履 修 手 続	指 定 す る 期 日	総合情報基盤センターにて登録
	追 試 験 願	当該授業科目の試験日から7日以内	教務課文化教育学部教務担当
	再 試 験 願	指 定 す る 期 日	”
	休 学 願	随 時 ( 事 前 に )	”
	退 学 願	”	”
	復 学 願	”	”
	住 所 変 更 届	”	教務課教務情報管理担当
	本 籍 地 変 更 届	”	”
3年	改 姓 ( 名 ) 届	”	”
	保 証 人 変 更 届	”	”
3年	卒 業 研 究 履 修 届	1 月 20 日	選 修 の 教 員 代 表
	教 育 実 習 届	指 定 す る 期 日	教務課文化教育学部教務担当
4年	就 職 志 望 調 査 票	指 定 す る 期 日	キ ャ リ ア セ ン タ ー
	教 育 実 習 届	”	教務課文化教育学部教務担当
	教 員 免 許 状 申 請 届	”	”
	卒 業 論 文 等	1 月 31 日	指 導 教 員

### 2 証明書の発行手続

申込書は印鑑持参の上、所定の申込書により申し込んでください。

なお、発行に1週間程度かかる場合がありますので、早めに申し込んでください。

証明書の種類	申 込 場 所
・ 学生証	教務課教務情報管理担当
・ 通学証明書など ・ 自動車登録票	学務部学生生活課

「在学証明書」、「JRの旅客運賃割引証(学割)」、「成績証明書」及び「卒業見込証明書」は学生センター内に設置された証明書自動発行機で発行します。

証 明 書 の 種 類	申 込 場 所
・ 免許状取得見込証明書 ・ 英文証明書 ・ 学力に関する証明書 ・ その他 ・ 人物証明書(又は人物推薦書) ・ 調査書 ・ 単位取得証明書	教務課文化教育学部 教 務 担 当

## IX 教員免許状と教育実習

### 1 教員免許状

(1) それぞれの課程にあつては、教員免許状取得のための必要条件を充足すれば、下の表に示すような各種の免許状を取得することが可能です。〔佐賀大学学則 別表（第37条第2項関係）より〕

ただし、学校教育課程においては、卒業要件を満たすことによって「小学校教諭1種」免許状を取得することができます。

課 程	文部科学省より認定を受けている教員免許状・免許教科の種類
学校教育課程	小学校教諭1種免許状 中学校教諭1種免許状 (数学, 理科, 音楽) 高等学校教諭1種免許状 (数学, 理科, 音楽, 情報) 特別支援学校教諭1種免許状 (知的障害者) (肢体不自由者) (病弱者) 幼稚園教諭1種免許状
国際文化課程	中学校教諭1種免許状 (国語, 社会, 英語) 高等学校教諭1種免許状 (国語, 書道, 地理歴史, 公民, 英語)
人間環境課程	中学校教諭1種免許状 (保健体育, 技術, 家庭) 高等学校教諭1種免許状 (保健体育, 家庭, 工業)
美術・工芸課程	中学校教諭1種免許状 (美術) 高等学校教諭1種免許状 (美術, 工芸)

(2) 免許状を取得するためには、卒業要件以外の授業科目の単位を修得する必要があるため、相当の努力が必要であるとともに、授業科目の学年・学期配当や時間割も考慮しなければなりません。

教員免許状取得のための必要条件を充足するためには、佐賀大学文化教育学部規則・細則の「教員免許状の取り方」及びこの手引の「XIII 専門教育科目の開設授業科目表について」をよく読んで、必要な授業科目を計画的に履修することが望まれます。

(3) 小学校教諭・中学校教諭の教員免許状取得のためには、介護等体験が必要となります。

(詳細は、「X 教員免許状と介護等体験について」に記載)

(4) 学校教育課程にあつては、教員免許状取得のための必要条件を充足すれば、中学校教諭1種 (国語, 社会, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語) 及び高校教諭1種 (国語, 地理歴史, 公民, 美術, 工芸, 書道, 保健体育, 家庭, 工業, 英語) の免許状を取得することが可能です。

(5) 国際文化課程, 人間環境課程及び美術・工芸課程にあつては、教員免許状取得のための必要条件を充足すれば、上記各3課程に示す免許状以外の各種の免許状を取得することが可能です。

※但し、必ずしも4年間で取得できるとは限りません。

なお、教育実習の履修方法については、次節に記載されています。

## 2 教育実習

### 教育実習の種類とその実施計画

文化教育学部には、免許状の種類や必要単位数の違いによって、次に示す8種類の教育実習があります。さらに、実習期間、課程・選修、実施時期等の違いによって、下表に示すAからNまでの教育実習に分けることができます。

小学校教育実習（5単位）A, B  
 小学校教育実習（3単位）C  
 中学校教育実習（5単位）D  
 中学校教育実習（3単位）E, F

高等学校教育実習（3単位）G, H  
 障害児教育実習（3単位）I, J, K  
 幼稚園教育実習（5単位）L  
 幼稚園教育実習（3単位）M, N

実習の種類 ※1	単 位 数	実習期間	課 程	履修年次	時 期 ※2			実 習 校			
					事前指導	実 習	事後指導				
小 学 校 教育実習	A	5	4週間	学校教育	3年次	8月上旬	9月	10月下旬	附属小学校 本庄小学校		
	B	5	4週間	学校教育 以外の課程					4年次	9月前半	附属小学校
	C	3	2週間	学校教育 以外の課程							
中 学 校 教育実習	D	5	3週間	学校教育 以外の課程	4年次	4月上旬	5～6月 (附属及び 佐賀市内 中学校)	10月上旬	主に附属 及び佐賀市内 中学校		
	E	3	2週間	学校教育以外 の課程 ※3							
	F	3	2週間	学校教育 (併免)		8月上旬			9月	附属中学校 城西中学校	
高 等 学 校 教育実習	G	3	2週間	学校教育 以外の課程	4年次	4月上旬	5～9月	10月上旬	出 身 高 校		
	H	3	2週間	学校教育 (併免)							
障 害 児 教育実習	I	3	2週間	学校教育 (障害児教育選修)	4年次	8月上旬	9月下旬	10月上旬	附属特別 支援学校		
	J	3	2週間	学校教育 以外の課程					附属特別 支援学校 他		
	K	3	2週間	学校教育 (障害児教育選 修以外・併免)							
幼 稚 園 教育実習	L	5	4週間	学校教育 以外の課程	4年次	8月上旬	9月	10月上旬	附属幼稚園		
	M	3	2週間	学校教育 以外の課程			9月下旬				
	N	3	2週間	学校教育 (併免)							

※1 各実習には実習期間以外に事前・事後指導15時間が含まれる。

※2 事前指導、実習、事後指導の時期は予定であり、若干変更になることがある。

※3 高等学校教育実習等を履修済又は履修予定であること。

## 教育実習の履修方法及び参加資格基準について

学校教育課程の学生とそれ以外の学生の場合とでは、履修すべき教育実習の種類、参加資格基準が異なるので、それらについて別々に記します。

### I 学校教育課程の場合

#### 1 小学校教諭免許状（主免）

- ・「小学校教育実習（事前・事後指導を含めて5単位）」（3年次：A）は卒業に必要な単位であり、すべての選修において、履修する必要がある。
- ・「小学校教育実習」は、「教育実践フィールド演習Ⅰ」（1年次）、「教育実践フィールド演習Ⅱ」（2年次）、「教育実践フィールド演習Ⅲ」（3年次）を履修した者に認定される。
- ・小学校教育実習の参加資格基準は、以下のとおり。
  - 1) 教育実践フィールド演習Ⅰ及び教育実践フィールド演習Ⅱを履修済であること。また、教育実践フィールド演習Ⅲを履修済又は履修中であること。
  - 2) 2年次後学期終了までに、60単位以上を修得していること。
  - 3) 2年次後学期終了までに、初等教科教育法Ⅰ（総論）について4教科各1単位以上の計4単位以上を修得していること。

#### 2 中学校教諭免許状又は高等学校教諭免許状（併免）

- ・小学校教育実習を履修した後に、「中学校教育実習（事前・事後指導を含めて3単位）」（4年次：F）又は「高等学校教育実習（事前・事後指導を含めて3単位）」（4年次：H）のいずれかを履修する必要がある。
- ・中学校教育実習又は高等学校教育実習の参加資格基準は、以下のとおり。
  - 1) 卒業研究を履修中であること。（4月1日時点で休学期間を除いて3年以上在学していること）
  - 2) 3年次後学期終了までに、次の①～③を満たしていること。
    - ① 90単位以上を修得していること。
    - ② 教科に関する科目については、ア又はイのとおりとする。
      - ア 中学校教育実習においては、免許法施行規則第4条の表の第2欄の科目の2分の1以上にわたり、また、単位についても計6単位以上を修得していること。
      - イ 高等学校教育実習においては、免許法施行規則第5条の表の第2欄の科目の2分の1以上にわたり、また、単位についても計10単位以上を修得していること。
    - ③ 教職に関する科目については、教科教育法2単位以上、教職概説2単位、教育心理学2単位を含め計10単位以上を修得していること。

#### 3 特別支援学校教諭免許状（併免）

- ・「障害児教育実習（事前・事後指導を含めて3単位）」（4年次：I又はK）を履修する必要がある。
- ・障害児教育実習の参加資格基準は、以下のとおり。
  - 1) 卒業研究を履修中であること。（4月1日時点で休学期間を除いて3年以上在学していること。）
  - 2) 小学校、中学校、高等学校又は幼稚園教育実習を履修済又は履修中であること。

- 3) 3年次後学期終了までに、次の①、②を満たしていること。
- ① 90単位以上を修得していること。
  - ② 特別支援教育に関する科目については、ア～ウからそれぞれ2単位以上を修得していること。
    - ア 障害児教育総論
    - イ 知的障害児心理学、障害児心理学、視覚障害者の生理・病理又は聴覚障害者の生理・病理
    - ウ 知的障害教育、障害児学習指導法Ⅰ又は障害者心理治療法
- 4) 障害児教育選修の場合、障害児教育基礎演習（3年次）を履修済であること。

#### 4 幼稚園教諭免許状（併免）

- ・「小学校教育実習（事前・事後指導を含めて5単位）」（3年次：A）をもって「幼稚園教育実習（事前・事後指導を含めて5単位）」（4年次：L）に充てることもできるが、小学校教育実習を履修した後に、「幼稚園教育実習（事前・事後指導を含めて3単位）」（4年次：N）を履修することが望ましい。
- ・幼稚園教育実習の参加資格基準は、以下のとおり。
  - 1) 卒業研究を履修中であること。（4月1日時点で休学期間を除いて3年以上在学していること。）
  - 2) 3年次後学期終了までに、次の①～③を満たしていること。
    - ① 90単位以上を修得していること。
    - ② 教科に関する科目については、2教科各1単位以上の計2単位以上を修得していること。
    - ③ 教職に関する科目については、次のとおりとする。
      - ア 保育内容に関する科目については、4単位以上を修得していること。このうち、2単位までは、初等教科教育法又は初等特別活動の理論と方法の単位をもってこれに替えることができる。
      - イ 幼児教育課程論2単位又は幼児理解の理論と方法2単位を修得していること。
      - ウ その他の科目については、教職概説2単位を含めて8単位以上を修得していること。

## II 学校教育課程以外の場合

### 1 中学校教諭免許状

- ・「中学校教育実習（事前・事後指導を含めて5単位）」（4年次：D）を履修する必要がある。
- ・中学校教育実習の参加資格基準は、以下のとおり。
  - 1) 卒業研究を履修中であること。（4月1日時点で休学期間を除いて3年以上在学していること。）
    - ※編入学生はこの限りでない。
  - 2) 3年次後学期終了までに、次の①～③を満たしていること。
    - ① 90単位以上を修得していること。
    - ② 教科に関する科目については、免許法施行規則第4条の表の第2欄の科目の2分の1以上にわたり、また、単位についても計6単位以上を修得していること。
    - ③ 教職に関する科目については、教科教育法2単位以上、教職概説2単位、教育心理学2単位を含め計10単位以上を修得していること。

## 2 高等学校教諭免許状

- ・「中学校教育実習（事前・事後指導を含めて3単位）」（4年次：E）又は「高等学校教育実習（事前・事後指導を含めて3単位）」（4年次：G）のいずれかを履修する必要がある。
- ・中学校教育実習又は高等学校教育実習の参加資格基準は、以下のとおり。
  - 1) 卒業研究を履修中であること。（4月1日時点で休学期間を除いて3年以上在学していること。）  
※編入学生はこの限りではない。
  - 2) 3年次後学期終了までに、次の①～③を満たしていること。
    - ① 90単位以上を修得していること。
    - ② 教科に関する科目については、ア又はイのとおりとする。
      - ア 中学校教育実習においては、免許法施行規則第4条の表の第2欄の科目の2分の1以上にわたり、また、単位についても計6単位以上を修得していること。
      - イ 高等学校教育実習においては、免許法施行規則第5条の表の第2欄の科目の2分の1以上にわたり、また、単位についても計10単位以上を修得していること。
    - ③ 教職に関する科目については、教科教育法2単位以上、教職概説2単位、教育心理学2単位を含め計10単位以上を修得していること。

## 3 小学校教諭免許状

### a 小学校教諭免許状のみを取得する場合

- ・「小学校教育実習（事前・事後指導を含めて5単位）」（4年次：B）を履修する必要がある。
- ・小学校教育実習の参加資格基準は、以下のとおり。
  - 1) 卒業研究を履修中であること。（4月1日時点で休学期間を除いて3年以上在学していること。）  
※編入学生はこの限りではない。
  - 2) 3年次後学期終了までに、次の①～④を満たしていること。
    - ① 教育実践フィールド演習Ⅰ及び教育実践フィールド演習Ⅱを履修済であること。また、教育実践フィールド演習Ⅲを履修済又は履修中であること。
    - ② 90単位以上を修得していること。
    - ③ 教科に関する科目については、2教科各1単位以上の計2単位以上を修得していること。
    - ④ 教職に関する科目については、次のとおりとする。
      - ア 教科教育法については、3教科各2単位以上の計6単位以上を修得していること。
      - イ その他の科目については、教職概説2単位、教育原論2単位を含めて10単位以上を修得していること。

### b その他の免許状（中学校、高等学校又は幼稚園）の他に小学校教諭免許状を取得する場合

- ・「幼稚園教育実習（事前・事後指導を含めて5単位）」（4年次：L）を履修済の場合は、それに加えて、「小学校教育実習（事前・事後指導を含めて3単位）」（4年次：C）を履修することが望ましい。
- ・「中学校教育実習（事前・事後指導を含めて5単位）」（4年次：D）又は「高等学校教育実習（事前・事後指導を含めて3単位）」（4年次：G）を履修済の場合は、それらの教育実習を履修した後に、「小学校教育実習（事前・事後指導を含めて3単位）」（4年次：C）を履修する必要がある。
- ・小学校教育実習の参加資格基準は、以下のとおり。
  - 1) 中学校、高等学校又は幼稚園教育実習を履修済又は履修中であること。

2) 卒業研究を履修中であること。(4月1日時点で休学期間を除いて3年以上在学していること。)

※編入学生はこの限りではない。

3) 3年次後学期終了までに、次の①、②を満たしていること。

① 教科に関する科目については、2教科各1単位以上の計2単位以上を修得していること。

② 教職に関する科目については、次のとおりとする。

ア 教科教育法については、3教科各2単位以上の計6単位以上を修得していること。

イ その他の科目については、教職概説2単位、教育原論2単位を含めて10単位以上を修得していること。

#### 4 特別支援学校教諭免許状

・「障害児教育実習(事前・事後指導を含めて3単位)」(4年次：J)を履修する必要がある。

・障害児教育実習の参加資格基準は、以下のとおり。

1) 卒業研究を履修中であること。(4月1日時点で休学期間を除いて3年以上在学していること。)

※編入学生はこの限りではない。

2) 小学校、中学校、高等学校又は幼稚園教育実習を履修済又は履修中であること。

3) 3年次後学期終了までに、次の①、②を満たしていること。

① 90単位以上を修得していること。

② 特別支援教育に関する科目については、ア～ウからそれぞれ2単位以上を修得していること。

ア 障害児教育総論

イ 知的障害児心理学、障害児心理学、視覚障害者の生理・病理又は聴覚障害者の生理・病理

ウ 知的障害教育、障害児学習指導法Ⅰ又は障害者心理治療法

#### 5 幼稚園教諭免許状

a 幼稚園教諭免許状のみを取得する場合

・「幼稚園教育実習(事前・事後指導を含めて5単位)」(4年次：L)を履修する必要がある。

・幼稚園教育実習の参加資格基準は、以下のとおり。

1) 卒業研究を履修中であること。(4月1日時点で休学期間を除いて3年以上在学していること。)

※編入学生はこの限りではない。

2) 3年次後学期終了までに、次の①～④を満たしていること。

① 教育実践フィールド演習Ⅰ及び教育実践フィールド演習Ⅱを履修済みであること。

② 90単位以上を修得していること。

③ 教科に関する科目については、2教科各1単位以上の計2単位以上を修得していること。

④ 教職に関する科目については、次のとおりとする。

ア 保育内容に関する科目については、4単位以上を修得していること。

イ 幼児教育課程論2単位又は幼児理解の理論と方法2単位を修得していること。

ウ その他の科目については、教職概説2単位を含めて8単位以上を修得していること。

b 小学校教諭免許状の他に幼稚園教諭免許状を取得する場合

- ・「小学校教育実習（事前・事後指導を含めて5単位）」（4年次：B）を履修済みの場合は、それをもって「幼稚園教育実習（事前・事後指導を含めて5単位）」（4年次：L）に充てることもできるが、小学校教育実習を履修した後に、「幼稚園教育実習（事前・事後指導を含めて3単位）」（4年次：M）を履修することが望ましい。
- ・幼稚園教育実習の参加資格基準は、次のとおり。
  - 1) 小学校教育実習を履修済又は履修中であること。
  - 2) 卒業研究を履修中であること。（4月1日時点で休学期間を除いて3年以上在学していること。）  
※編入学生はこの限りではない。
  - 3) 3年次後学期終了までに、次の①、②を満たしていること。
    - ① 教科に関する科目については、2教科各1単位以上の計2単位以上を修得していること。
    - ② 教職に関する科目については、次のとおりとする。
      - ア 保育内容に関する科目については、4単位以上を修得していること。このうち2単位までは、初等教科教育法又は初等特別活動の理論と方法の単位をもってこれに替えることができる。
      - イ 幼児教育課程論2単位又は幼児理解の理論と方法2単位を修得していること。
      - ウ その他の科目については、教職概説2単位を含めて8単位以上を修得していること。

c 中学校又は高等学校教諭免許状の他に幼稚園教諭免許状を取得する場合

- ・「中学校教育実習（事前・事後指導を含めて5単位）」（4年次：D）又は「高等学校教育実習（事前・事後指導を含めて3単位）」（4年次：G）を履修済の場合は、それらの教育実習を履修した後に、「幼稚園教育実習（事前・事後指導を含めて3単位）」（4年次：M）を履修する必要がある。
- ・幼稚園教育実習参加資格基準は、以下のとおり。
  - 1) 中学校又は高等学校教育実習を履修済もしくは履修中であること。
  - 2) 卒業研究を履修中であること。（4月1日時点で休学期間を除いて3年以上在学していること。）  
※編入学生はこの限りではない。
  - 3) 3年次後学期終了までに、次の①、②を満たしていること。
    - ① 教科に関する科目については、2教科各1単位以上の計2単位以上を履修していること。
    - ② 教職に関する科目については、次のとおりとする。
      - ア 保育内容に関する科目については、4単位以上を修得していること。
      - イ 幼児教育課程論2単位又は幼児理解の理論と方法2単位を修得していること。
      - ウ その他の科目については、教職概説2単位を含めて8単位以上を修得していること。



## X 教員免許状と介護等体験について

小学校と中学校の教員免許状取得に際して、社会福祉施設や特別支援学校で7日間の介護等体験が義務付けられています。この制度についての概要及び佐賀大学における実施計画は次のとおりです。

### I 義務教育教員志願者に対する介護等体験の義務付けに関する制度の概要

#### 1. 法律の名称とその趣旨

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（介護等体験特例法）」により、教員（教諭）が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員（教諭）の資質向上及び学校教育の一層の充実を図る観点から、小学校及び中学校の教諭の普通免許状の授与に当たっては、社会福祉施設等において7日間の介護等の体験を行うことが義務付けられています。

#### 2. 制度の対象者

小学校及び中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする者

[義務付けを免除する者]

- ① 介護等に関する専門的知識及び技術を有する者  
(省令で、介護福祉士、特別支援学校教員等の資格を併せ取得する者等を規定)
- ② 身体上の障害により介護等体験が困難な者  
(省令で、身体障害者福祉法による1級から6級までの身体障害者を規定)

#### 3. 介護等体験の内容等

##### (1) 介護等体験の内容

- ・ 障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験（障害者等の話相手、散歩の付添い等）、受入施設職員の業務補助（掃除や洗濯など、障害者等と直接接しないものを含む。）
- ・ 特別支援教育学校での教育実習、受入施設での他の資格取得に際しての介護実習等は、介護等の体験期間に算入可能

##### (2) 介護等体験の実施施設

特別支援学校（盲・聾・養護学校）又は社会福祉施設

##### (3) 介護等体験の時期及び期間

18才に達した後の7日間

[目途：少なくとも特別支援学校（盲・聾・養護学校）2日＋社会福祉施設5日＝7日]

##### (4) 免許状申請に係る手続（省令で規定）

- ① 施設は、教員になろうとする者が介護等体験をしたことを証明する書類を発行
- ② 都道府県教育委員会への免許状の申請に当たっては、上記の証明書を提出

## II 佐賀大学における介護等体験について

佐賀大学においては、文化教育学部教育実習委員会が企画・立案し、他学部の協力を得て実施します。

### 1. 特別支援学校（盲・聾・養護学校）における介護等体験について

- ① 実習施設 佐賀大学文化教育学部附属特別支援学校  
〒840-0026 佐賀市本庄町正里46-2 TEL 0952-29-9676
- ② 期 間 2日間
- ③ 実施学年 学校教育課程：1年次生より実施（教育実践フィールド演習Ⅰの拡充）  
国際文化課程：3年次生より実施  
人間環境課程：3年次生より実施  
美術・工芸課程：1年次生より実施
- ④ 経 費 必要な場合は、実費程度

### 2. 社会福祉施設における介護等体験について

- ① 実習施設 佐賀県内における社会福祉施設  
（参加学生の希望に基づき、県社会福祉協議会と連絡調整して決定）
- ② 期 間 5日間（連続）
- ③ 実施学年 学校教育課程：2年次生より実施  
国際文化課程：3年次生より実施  
人間環境課程：3年次生より実施  
美術・工芸課程：3年次生より実施
- ④ 経 費 1日に付き2,000円を県社会福祉協議会に支払う。

### 3. 介護等体験に係る保険加入について

介護等体験を受ける時は、他人にケガをさせたり、財物を損壊した時の損害賠償を補償する保険に必ず加入しなければなりません。（科目等履修生を含みます。）

例) 学研災付帯賠償責任保険（学生生活課）、学生賠償責任保険（大学生協）など

## XI 教員免許状以外の資格について

指定された科目の履修と単位の取得によっては、下記の資格を得るための条件を満たすことができます。いずれも計画的な履修が必要です。

- (1) 社会教育主事となる資格
- (2) 学芸員の資格
- (3) 社会福祉士の受験資格
- (4) 公認スポーツ指導者の資格
- (5) 健康運動指導士認定試験の受験資格
- (6) レクリエーション・インストラクターの資格

これらの資格を取得するために履修すべき授業科目や必要単位数については、佐賀大学文化教育学部規則・細則の「教員免許状の取り方」を参照してください。

履修すべき授業科目の履修上の諸注意については、この履修の手引の「XIII 専門教育科目の開設授業科目表について」で確認してください。

## XII 専門教育科目の開設授業科目表について

文化教育学部専門教育科目の授業科目は別表Ⅱから別表Ⅶのとおりです。

別表Ⅱ	学校教育課程専門教育科目（各選修共通）
別表ⅢA	学校教育課程専門教育科目（教育学選修）
別表ⅢB	学校教育課程専門教育科目（教育心理学選修）
別表ⅢC	学校教育課程専門教育科目（障害児教育選修）
別表ⅢD	学校教育課程専門教育科目（教科教育選修）
別表ⅢE	学校教育課程専門教育科目（数学選修）
別表ⅢF	学校教育課程専門教育科目（理科選修）
別表ⅢG	学校教育課程専門教育科目（音楽選修）
別表ⅣA	国際文化課程専門教育科目（日本・アジア文化選修）
別表ⅣB	国際文化課程専門教育科目（欧米文化選修）
別表ⅤA	人間環境課程専門教育科目（生活・環境・技術選修）
別表ⅤB	人間環境課程専門教育科目（健康福祉・スポーツ選修）
別表Ⅵ	美術・工芸課程専門教育科目
別表Ⅶ	教員免許状取得のための科目他

### ◇ 表を見るときにの諸注意

- ① 必修、選択の別の欄の「選必」は選択必修のことです。  
 選択必修とは、文化教育学部履修細則の別表中で必修として掲げられた授業科目のうち、いくつかの科目の単位数がカッコでくくられていて、それらの中から選択することになる授業科目のことを示しています。
- ② 必修、選択の別の欄の「A必」又は「B必」は、人間環境課程の生活・環境・技術選修の学生が選修の必修科目として選択したA群又はB群の科目のことを示しています。
- ③ 表の中に示されている小計欄の数値は、小計の対象になっている科目群の中から卒業要件として修得しなければならない単位数を示しています。
- ④ 担当教員欄の「( )」は非常勤講師であることを示しています。
- ⑤ 週あたり時間数欄の「集」は集中講義であることを示しています。
- ⑥ 備考欄のクラス分けは次の通りです。
  - 偶数クラス又は奇数クラスは、それぞれ学籍番号が偶数又は奇数の者が受講するクラスを示しています。
  - 課程のクラス分け
 

1 1 1（学校教育課程）	1 1 2（国際文化課程）
1 1 3（人間環境課程）	1 1 4（美術・工芸課程）
  - 学校教育課程のクラス分け
 

A B	┌───┐	A	┌───┐	A 1（教育学選修，教育心理学選修，障害児教育選修）
	└───┘	B	┌───┐	A 2（数学選修，理科選修，音楽選修）
			└───┘	B 1（教科教育選修＜国語，社会，数学，理科＞）
				B 2（教科教育選修＜音楽，造形，体育，家政，情報技術，英語＞）

別表Ⅱ（第5条第2項関係）

## 学校教育課程専門教育科目（各選修共通）

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考
						1年	2年	3年	4年	
						前	後	前	後	
専門基礎科目	現代教育論	必	2	講義	佐藤 <sup>普</sup>	2				奇数クラス 偶数クラス
	教育心理学	"	2	"	上長		2			
	教育心理学	"	2	"	大元		2			
	国際文化論	選必	2	"	山崎、熊本		2			
	生活文化論	"	2	"	藤永他		2			
	実践英語	"	2	演習	鈴木	2				
	実践英語	"	2	"	名本		2			
小計			6							
課程共通科目	教職概説	必	2	講義	佐藤 <sup>普</sup>		2			
	生徒・進路指導の理論と方法(初等)	"	2	"	網谷			2		
	初等授業実践論	"	2	"	佐長			2		
	小計			6						
専門科目	小学国語	必	1	講義	達富	2				Bクラス
	小学国語	"	1	"	竜田		2			Aクラス
	小学書写	"	1	実技	達富	2				Bクラス
	小学書写	"	1	"	竜田		2			Aクラス
	小学社会	"	2	講義	山下他			2		
	数学概説	"	2	"	庄田	2				Aクラス
	数学概説	"	2	"	寺井		2			Bクラス
	理科講義及び実験	"	2	講・実	宮脇、大隅、石原、角縁、中村 <sup>龍</sup>			4		
	生活科概説	"	2	講義	宮脇、中西、栗山、大元、佐長、和田				集(30)	
	小学声楽	"	1	実習	板橋	2				A1クラス
	小学声楽	"	1	"	荒巻	2				B1クラス
	小学声楽	"	1	"	板橋		2			B2クラス
	小学声楽	"	1	"	荒巻		2			A2クラス
	小学ピアノ	"	1	"	山田	2				A2クラス
	小学ピアノ	"	1	"	高野	2				B2クラス
	小学ピアノ	"	1	"	古賀 <sup>龍</sup>		2			B1クラス
	小学ピアノ	"	1	"	山田		2			A1クラス
	小学図画	"	1	実技	栗山			2		Bクラス
	小学図画	"	1	"	栗山				2	Aクラス
	小学工作	"	1	"	和田				2	Bクラス
	小学工作	"	1	"	和田				2	Aクラス
	小学体育Ⅰ	"	1	"	堤、山津、(八嶋)	2				表現運動・水泳・陸上運動
	小学体育Ⅱ	"	1	"	栗原、坂元、(福本)		2			器械運動・体づくり運動・ボール運動
	小学家庭Ⅰ	"	1	演習	赤星、澤島			2		
	小学家庭Ⅱ	"	1	"	甲斐、萱島				2	
	教育原論	"	2	講義	上野			2		
	初等道徳教育の理論と方法	"	2	"	園田				2	
	初等特別活動の理論と方法	"	2	"	松下				2	
	初等国語科教育法Ⅰ	"	1	演習	竜田			2		奇数クラス
	初等国語科教育法Ⅰ	"	1	"	竜田			2		偶数クラス
	初等国語科教育法Ⅱ	"	1	"	達富				2	
	初等社会科教育法Ⅰ	"	1	"	佐長、宇都宮			2		
	初等社会科教育法Ⅱ	"	1	"	佐長				2	
	算数科教育法Ⅰ	"	1	講義	瀧川		1			
	算数科教育法Ⅱ	"	1	演習	米田				2	Aクラス
	算数科教育法Ⅱ	"	1	"	瀧川				2	Bクラス
	初等理科教育法Ⅰ	"	1	講義	世波			1		前半…Aクラス
	初等理科教育法Ⅰ	"	1	"	世波			1		後半…Bクラス
	初等理科教育法Ⅱ	選必	1	演習	世波				2	
	初等理科教育法Ⅲ	"	1	"	(未定)				2	開講しない
	生活科教育法	必	2	講義	世波、宇都宮、篠原				2	
	初等音楽科教育法Ⅰ	"	1	"	山田		1			
初等音楽科教育法Ⅱ	"	1	演習	荒巻			2		Aクラス	
初等音楽科教育法Ⅱ	"	1	"	山田			2		Bクラス	
図工科教育法Ⅰ	"	1	講義	栗山			1		前半…Bクラス	
図工科教育法Ⅰ	"	1	"	栗山			1		後半…Aクラス	

科目区分		授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考				
							1年		2年			3年		4年	
							前	後	前	後		前	後	前	後
専 門 教 育 科 目	学 校 教 育 科 目	図工科教育法Ⅱ	必	1	演習	栗山他			2				奇数クラス		
		図工科教育法Ⅱ	"	1	"	栗山他				2			偶数クラス		
		体育科教育法Ⅰ	"	1	講義	堤			1						
		体育科教育法Ⅱ	"	1	演習	堤, (松本)				2					
		初等家庭科教育法Ⅰ	"	1	講・演	中西			1					奇数クラス	
		初等家庭科教育法Ⅰ	"	1	"	中西			1					偶数クラス	
		初等家庭科教育法Ⅱ	"	1	演習	中西, 甲斐				2				偶数クラス	
		初等家庭科教育法Ⅱ	"	1	"	中西, 甲斐					2			奇数クラス	
		教育相談の理論と方法(初等)	"	2	講義	網谷				2					
		教育実践フィールド演習Ⅰ	"	2	演習			集(30)							
		教育実践フィールド演習Ⅱ	"	1	"					2					
		教育実践フィールド演習Ⅲ	"	1	"						2				
		教職実践演習	"	2	"	佐長他							2		
		小学校教育実習	"	5	実習									事前・事後指導を含む	
		教育実践総合研究	選	1	"										
小学校英語活動	"	2	講義	田中 <sup>総</sup> , 林			2								
小 計				55	集( )の( )内の数字は、集中講義の時間数を表す										

別表Ⅲ A (第5条第2項関係)

学校教育課程専門教育科目 (教育学選修)

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考		
						1年	2年	3年	4年			
						前	後	前	後			
専門基礎科目 (別表Ⅱ)			6									
課程共通科目 (別表Ⅱ)			6									
学校教育科目 (別表Ⅱ)			55									
専門 外国語 科目	専門教育外国語Ⅰ	必	1	演習	(チャップマン)他		2				2年次前に掲示	
	専門教育外国語Ⅱ	"	1	"	教育学全教員		2					
小 計			2									
専 門 選 修 科 目	人権教育論	必	2	講義	松下		2				通年 開講未定 偶数年度開講 奇数年度開講	
	教育相談の理論と方法(進路指導を含む。)(中等)	"	2	"	網谷			2				
	生徒指導論	"	2	"	松下			2				
	教育学研究法	"	2	演習	教育学全教員		2					
	教育学講読演習	"	2	"	教育学全教員			2				
	教育学課題研究	"	2	"	教育学全教員			2				
	小 計			12								
	教育思想史	選	2	講義	佐藤 <sub>#</sub>		2					
	人権意識論	"	2	"	松下			2				
	教育社会学	"	2	"	(村山)			2				
	教育方法学概説	"	2	"	園田			2				
	子どものニーズと学習支援	"	2	"	園田			2				
	子どもの支援Ⅰ(基礎・実習)	"	2	実習	園田他	集(45)						
	教育制度論	"	2	講義	佐藤 <sub>#</sub>				2			
	学校・学級経営論	"	2	"	未定			2				
	社会教育概論Ⅰ	"	2	"	上野		2					
社会教育概論Ⅱ	"	2	"	上野			2					
社会教育計画Ⅰ	"	2	"	松下			2					
社会教育計画Ⅱ	"	2	"	上野				2				
社会教育実習	"	2	実習	上野					集(45)			
高齢化と生涯教育	"	2	講義	(岡 <sub>#</sub> )					集(30)			
生涯教育演習	"	2	演習	上野			2					
国際化と生涯教育	"	2	講義	(未定)				集(30)				
臨床教育実習Ⅰ	"	1	実習	園田, 網谷他				2				
臨床教育実習Ⅱ	"	1	"	園田, 網谷他					2			
臨床教育演習	"	1	演習	園田, 網谷他					2			
小 計			8	集( )の( )内の数字は、集中講義の時間数を表す								
自由選択科目			8	本表のほかに、本学部及び他学部の専門教育科目並びに学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目並びに本学部の教員免許状取得のための科目のうちから履修することができる。								
卒業研究		必	4									
合 計			101									

別表Ⅲ B (第5条第2項関係)

学校教育課程専門教育科目 (教育心理学選修)

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考		
						1年	2年	3年	4年			
						前	後	前	後			
専門基礎科目 (別表Ⅱ)			6									
課程共通科目 (別表Ⅱ)			6									
学校教育科目 (別表Ⅱ)			55									
専門 外国語 科目	専門教育外国語Ⅰ	必	1	演習	(チャップマン)他		2				2年次前に掲示	
	専門教育外国語Ⅱ	"	1	"	大元			2				
小 計			2									
専 門 選 修 科 目	心理学研究法	必	2	講義	大元	2					開講未定	
	人権教育論	"	2	"	松下			2				
	教育相談の理論と方法(進路指導を含む。)(中等)	"	2	"	網谷				2			
	生徒指導論	"	2	"	松下				2			
	心理学実験Ⅰ	"	1	実験	若本, 上長				3			
	心理学実験Ⅱ	"	1	"	大元					3		
	教育統計Ⅰ	"	2	講義	若本				2			
	小 計			12								
	基礎心理学ゼミナール	選	2	演習	若本	2						
	発達心理学ゼミナール	"	2	"	大元		2					
	心の健康	"	2	講義	下田	2						
	教育統計Ⅱ	"	2	"	若本				2			
	幼児理解の理論と方法	"	2	"	大元				2			
	学習心理学	"	2	"	上長					2		
	教育評価	"	2	"	(撫尾)					2		
	発達神経心理学	"	2	"	上長				2			
教育測定法	"	2	"	(未定)					2			
学習心理学演習	"	2	演習	上長						2		
臨床心理学演習	"	2	"	網谷						2		
教育心理学演習	"	2	"							2		
教育心理学特殊講義	"	2	講義	(未定)						集(30)		
臨床教育実習Ⅰ	"	1	実習	園田, 網谷他						2		
臨床教育実習Ⅱ	"	1	"	園田, 網谷他						2		
臨床教育演習	"	1	演習	園田, 網谷他						2		
小 計			10	集( )の( )内の数字は, 集中講義の時間数を表す								
自由選択科目			6	本表のほかに, 本学部及び他学部の専門教育科目並びに学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目並びに本学部の教員免許状取得のための科目のうちから履修することができる。								
卒業研究		必	4									
合 計			101									



別表ⅢC (第5条第2項関係)

## 学校教育課程専門教育科目 (障害児教育選修)

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考		
						1年	2年	3年	4年			
						前	後	前	後			
専門基礎科目 (別表Ⅱ)			6									
課程共通科目 (別表Ⅱ)			6									
学校教育科目 (別表Ⅱ)			55									
専門 外国語 科目	専門教育外国語Ⅰ	必	1	演習	(チャップマン)他		2				2年次前に掲示	
	専門教育外国語Ⅱ	"	1	"	久野				2			
小 計			2									
専 門 選 修 科 目	障害児教育総論	必	2	講義	芳野		2				偶数年度開講 偶数年度開講 奇数年度開講	
	障害児心理学	"	2	"	(狗巻)		2					
	障害児学習指導法Ⅱ	"	2	"	芳野				2			
	知的障害児心理学	"	2	"	(狗巻)		2					
	肢体不自由者の生理・病理	"	2	"	久野				2			
	病弱者・情緒障害者の生理・病理	"	2	"	久野		2					
	小 計			12								
	知的障害者の生理・病理	選	2	講義	久野	2						
	知的障害教育	"	2	"	芳野			2				
	障害児学習指導法Ⅰ	"	2	"	芳野				2			
	障害児学習指導法Ⅲ	"	2	"	芳野				2			
	障害者心理治療法	"	2	"	松山					2		
障害児心理検査法	"	2	"	(中島 <sup>後</sup> )				2				
知的障害児心理学演習	"	2	演習	未定				2				
視覚障害者の生理・病理	"	2	講義	久野	2							
聴覚障害者の生理・病理	"	2	"	久野	2							
LD等教育指導論	"	2	"	久野					2			
重複障害教育論	"	2	"	芳野					2			
聴覚障害者教育指導論	"	2	"	(養毛)				集(30)				
特別支援教育実践論	"	2	"	久野, 芳野, 未定				2				
自閉症教育要論	"	2	"	久野	2							
特別支援学校参観	"	1	演習	芳野	集(30)							
障害児心理学実験	"	1	実験	未定					3			
障害児教育基礎演習	"	1	演習	久野				集(30)				
障害児教育実習	"	3	実習									
子どもの支援Ⅰ(基礎・実習)	"	2	"	園田他	集(45)							
臨床教育実習Ⅰ	"	1	"	園田, 網谷他					2			
臨床教育実習Ⅱ	"	1	"	園田, 網谷他					2			
臨床教育演習	"	1	演習	園田, 網谷他					2			
小 計			10	集( )の( )内の数字は、集中講義の時間数を表す								
自由選択科目			6	本表のほかに、本学部及び他学部の専門教育科目並びに学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目並びに本学部の教員免許状取得のための科目のうちから履修することができる。								
卒業研究		必	4									
合 計			101									

別表ⅢD (第5条第2項関係)

学校教育課程専門教育科目 (教科教育選修)

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数								備考
						1年		2年		3年		4年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
専門基礎科目 (別表Ⅱ)			6											
課程共通科目 (別表Ⅱ)			6											
学校教育科目 (別表Ⅱ)			55											
専門 外国語 科目	専門教育外国語Ⅰ	必	1	演習	(チャップマン)他			2						
	専門教育外国語Ⅱ	"	1	"	教科教育教員他			2						
小計			2											
専 門 選 修 目	教科教育授業設計論	必	2	講義	中西, 和田, 達富					2				
	小計		2											
科 目	国語科教育学	選	2	講義	竜田	2								A
	国語教育学演習	"	2	演習	竜田		2							
専 門 選 修 目	国語科教育課題研究Ⅰ	"	2	"	達富, 竜田					2				B
	日本語表現論	"	2	講義	佐藤 <sup>志</sup>			2						
専 門 選 修 目	日本文学史Ⅰ	"	2	"	今野			2						C
	社会科教育学	"	2	"	佐長			2						
専 門 選 修 目	社会科教育学演習	"	2	演習	宇都宮			2						D
	社会科教育課題研究Ⅰa	"	1	"	佐長					1				
専 門 選 修 目	社会科教育課題研究Ⅰb	"	1	"	佐長						1			E
	社会科教育課題研究Ⅱa	"	1	"	宇都宮					1				
専 門 選 修 目	社会科教育課題研究Ⅱb	"	1	"	宇都宮						1			F
	数学教育学	"	2	講義	米田					2				
専 門 選 修 目	数学教育学演習	"	2	演習	米田					2				偶数年度開講 奇数年度開講
	代数学基礎Ⅰ	"	2	講義	寺井	2								
専 門 選 修 目	幾何学基礎Ⅰ	"	2	"	河合	2								G
	解析学基礎Ⅰ	"	2	"	川中子	2								
専 門 選 修 目	確率論基礎	"	2	"	青山			2						H
	理科教育学	"	2	"	世波, 未定			2						
専 門 選 修 目	理科教育学演習	"	2	演習	世波, 未定					2				I
	理科教育学実験	"	2	実験	世波, 未定					4				
専 門 選 修 目	音楽教育学	"	2	講義	荒巻			2						J
	音楽科教育課題研究Ⅰ	"	2	演習	山田, 荒巻						2			
専 門 選 修 目	音楽科教育課題研究Ⅱ	"	2	"	山田, 荒巻						2			K
	音楽教育実践論	"	2	"	山田					2				
専 門 選 修 目	美術教育学	"	2	講義	和田					2				L
	美術教育学演習	"	2	演習	栗山					2				
専 門 選 修 目	基礎デザイン	"	2	実習	荒木		4							M
	基礎デザイン	"	2	"	荒木		4							
専 門 選 修 目	素描Ⅰ	"	2	"	小木曾, 石崎, 田中 <sup>右</sup>	4								N
	世界の美術	"	2	講義	吉住			2						
専 門 選 修 目	基礎染織工芸	"	2	実習	田中 <sup>志</sup>			4						O
	保健体育教育学	"	2	講義	堤	2								
専 門 選 修 目	保健体育教育学演習	"	2	演習	堤						2			P
	体育科教育課題研究Ⅰ	"	2	"	堤					2				
専 門 選 修 目	スポーツⅠA1	"	1	実技	堤			2						Q
	スポーツⅠA2	"	1	"	(田口)					2				
専 門 選 修 目	スポーツⅠA3	"	1	"	山津	2								R
	スポーツⅠA4	"	1	"	(八嶋)	2								
専 門 選 修 目	スポーツⅠB1	"	1	"	栗原	2								S
	スポーツⅠB2	"	1	"	坂元					2				
専 門 選 修 目	スポーツⅠB3	"	1	"	池上	2								T
	スポーツⅠC1	"	1	"	堤			2						
専 門 選 修 目	家庭科教育学	"	2	講義	中西	2								U
	家庭科教育学演習	"	2	演習	中西					2				
専 門 選 修 目	家庭科教育学課題研究A	"	2	"	中西						2			V
	家庭科教育学課題研究B	"	2	"	中西						2			
専 門 選 修 目	家庭科教育学課題研究C	"	1	実習	中西							2		

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考
						1年	2年	3年	4年	
						前	後	前	後	
専 門 科 目	技術教育学	選	2	講義	角			2		I 2 J 2
	技術教育学演習	"	2	演習	中村 <sup>理</sup>				2	
	ヒューマンエレクトロニクス I	"	2	演習	角		2			
	プログラミング演習 II	"	2	"	角			2		
	英語教育学	"	2	講義	林			2		
	英語教育学演習	"	2	演習	林				2	
	英語科教育課題研究	"	2	"	田中 <sup>彰</sup> , 林			2		
	英語学概論 I	"	2	講義	田中 <sup>彰</sup>			2		
	英語音声学 I	"	2	"	田中 <sup>彰</sup>		2			
	* 選択科目としてAからJまでのいずれか1つの分野から6単位を履修しなければならない。									
小 計			6	集( )の( )内の数字は、集中講義の時間数を表す						
自由選択科目			20	本表のほかに、本学部及び他学部の専門教育科目並びに学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目並びに本学部の教員免許状取得のための科目のうちから履修することができる。						
卒業研究		必	4							
合 計			101							

別表Ⅲ E (第5条第2項関係)

学校教育課程専門教育科目 (数学選修)

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考	
						1年	2年	3年	4年		
						前	後	前	後		
専門基礎科目 (別表Ⅱ)			6								
課程共通科目 (別表Ⅱ)			6								
学校教育科目 (別表Ⅱ)			55								
専門 外国語 科目	専門教育外国語Ⅰ	必	1	演習	(チャップマン)他		2				
	専門教育外国語Ⅱ	"	1	"	青山他				2		
小 計			2								
専 門 修 科 目	身のまわりの数学	必	2	実習	河合,瀧川,寺井,庄田,米田,川中子,青山	4					
	コンピュータⅠ	"	2	講義	瀧川		2				
	代数学基礎Ⅰ	"	2	"	寺井	2					
	幾何学基礎Ⅰ	"	2	"	河合	2					
	解析学基礎Ⅰ	"	2	"	川中子	2					
	確率論基礎	"	2	"	青山		2				
	小 計			12							
	選 修 科 目	身近な現象のサイエンス	選	2	講義	石原,宮脇,角縁,大隅	2				
		コンピュータⅡ	"	2	"	瀧川		2			
		統計学基礎	"	2	"	青山		2			
		確率論	"	2	"	青山			2		偶数年度開講 奇数年度開講
		統計学	"	2	"	青山			2		開講未定
応用数学		"	2	"	(未定)				2	開講未定	
代数学基礎Ⅱ		"	2	"	寺井	2					
代数学Ⅰ		"	2	"	寺井		2			奇数年度開講	
代数学Ⅱ		"	2	"	寺井			2		開講未定	
代数学Ⅲ		"	2	"	未定		2			偶数年度開講	
代数学Ⅳ		"	2	"	未定			2		開講未定	
幾何学基礎Ⅱ		"	2	"	庄田	2					
幾何学Ⅰ		"	2	"	庄田		2			奇数年度開講	
幾何学Ⅱ		"	2	"	未定			2		開講未定	
幾何学Ⅲ		"	2	"	未定			2		偶数年度開講	
幾何学Ⅳ		"	2	"	未定			2		開講未定	
解析学基礎Ⅱ		"	2	"	川中子	2					
解析学Ⅰ		"	2	"	川中子		2			奇数年度開講	
解析学Ⅱ		"	2	"	未定			2		開講未定	
解析学Ⅲ		"	2	"	未定		2			偶数年度開講	
解析学Ⅳ		"	2	"	未定			2		開講未定	
コンピュータ研究基礎		"	2	"	瀧川				2		
代数学研究基礎		"	2	"	寺井				2		
幾何学研究基礎		"	2	"	庄田				2		
解析学研究基礎	"	2	"	川中子				2			
統計学研究基礎	"	2	"	青山				2			
コンピュータ領域研究Ⅰ	"	2	"	瀧川					2		
コンピュータ領域研究Ⅱ	"	2	"	瀧川					2		
代数学領域研究Ⅰ	"	2	"	寺井					2		
代数学領域研究Ⅱ	"	2	"	寺井					2		
幾何学領域研究Ⅰ	"	2	"	庄田					2		
幾何学領域研究Ⅱ	"	2	"	庄田					2		
解析学領域研究Ⅰ	"	2	"	川中子					2		
解析学領域研究Ⅱ	"	2	"	川中子					2		
統計学領域研究Ⅰ	"	2	"	青山					2		
統計学領域研究Ⅱ	"	2	"	青山					2		
情報社会と倫理	"	2	"	角	2						
コンピュータハードウェア	"	2	"	(穂屋下)		2					
コンピュータ演習Ⅰ	"	2	演習	瀧川	2						
コンピュータソフトウェア	"	2	講義	(未定)		2			開講未定		
コンピュータ演習Ⅱ	"	2	演習	(未定)	2				開講未定		
計測・制御実験	"	2	実験	(未定)				4	開講未定		
情報システム論	"	2	講義	中村 <sup>准</sup>			2		奇数年度開講		
情報システム演習Ⅰ	"	2	演習	瀧川		2					

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考
						1年	2年	3年	4年	
						前	後	前	後	
専 門 科 目	情報システム演習Ⅱ	選	2	演習	大隅		2			奇数年度開講
	統計情報システム	"	2	講義	青山			2		
	情報ネットワーク論Ⅰ	"	2	"	大隅			2		
	情報ネットワーク演習Ⅰ	"	2	演習	岡島		2			
	情報ネットワーク論Ⅱ	"	2	講義	岡島			2		
	情報ネットワーク演習Ⅱ	"	2	演習	(江藤)				2	
	情報メディア論	"	2	講義	角	2				
	マルチメディアを用いた図形処理	"	2	演習	石原, (中島)		集(30)			
	計算機シミュレーション	"	2	"	大隅			2		
	画像解析	"	2	"	岡島, (未定)		集(30)			
	デジタル画像論	"	2	講義	(未定)				2	
情報と職業	"	2	"	(山下)				集(30)	開講未定	
	小 計		12	集( )の( )内の数字は, 集中講義の時間数を表す						
目	自由選択科目		4	本表のほかに, 本学部及び他学部の専門教育科目並びに学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目並びに本学部の教員免許状取得のための科目のうちから履修することができる。						
	卒業研究	必	4							
	合 計		101							

別表Ⅲ F (第5条第2項関係)

学校教育課程専門教育科目 (理科選修)

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	適当りの時間数								備考
						1年		2年		3年		4年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
専門基礎科目 (別表Ⅱ)			6											
課程共通科目 (別表Ⅱ)			6											
学校教育科目 (別表Ⅱ)			55											
専門 外国語 科目	専門教育外国語Ⅰ	必	1	演習	(チャップマン)他		2							
	専門教育外国語Ⅱ	"	1	"	石原, 宮脇, 角縁, 嬉				2					
小 計			2											
専 門 選 修	身近な現象のサイエンス	必	2	講義	石原, 宮脇, 角縁, 大隅	2								
	物理学通論Ⅲ	"	1	"	大隅		1							
	物理学通論Ⅳ	"	1	"	大隅		1							
	化学通論Ⅰ	"	1	"	石原		1							
	化学通論Ⅱ	"	1	"	石原		1							
	生物学通論Ⅰ	"	1	"	宮脇	1								
	生物学通論Ⅱ	"	1	"	宮脇	1								
	地学通論Ⅰ	"	1	"	角縁	1								
	地学通論Ⅱ	"	1	"	角縁	1								
	物理学基礎実験Ⅰ	選必	1	実験	大隅				2					
	物理学基礎実験Ⅱ	"	1	"	大隅				2					
	化学基礎実験Ⅰ	"	1	"	石原				2					
	化学基礎実験Ⅱ	"	1	"	石原				2					
	生物学基礎実験Ⅰ	"	1	"	宮脇				2					
	生物学基礎実験Ⅱ	"	1	"	嬉				2					
	地学基礎実験Ⅰ	"	1	"	角縁				2					
	地学基礎実験Ⅱ	"	1	"	角縁				2					
小 計			16											
専 門 科 目	理科コンピュータ演習	選	2	演習	嬉	2								
	身のまわりの数学	"	2	実習	河合, 瀧川, 寺井, 庄田, 米田, 川中子, 青山	4								
	物理学通論Ⅰ	"	1	講義	中村 <sup>※</sup>	1								
	物理学通論Ⅱ	"	1	"	中村 <sup>※</sup>	1								
	力学	"	2	"	中村 <sup>※</sup>		2							偶数年度開講
	電磁気学	"	2	"	大隅				2					奇数年度開講
	原子物理	"	2	"	中村 <sup>※</sup>			2						偶数年度開講
	放射線科学	"	2	"	大隅					2				(開講未定)
	固体物理	"	2	"	(未定)					2				偶数年度開講(開講未定)
	電子物性	"	2	"	(未定)						2			
	化学通論Ⅲ	"	1	"	岡島		1							
	化学通論Ⅳ	"	1	"	岡島		1							
	無機化学	"	2	"	石原				2					奇数年度開講
	物理化学	"	2	"	石原				2					偶数年度開講
	物質環境科学	"	2	"	岡島			2						
	有機化学	"	2	"	岡島					2				
	分析化学	"	2	"	(未定)					2				開講未定
	生物学通論Ⅲ	"	1	"	嬉		1							
	生物学通論Ⅳ	"	1	"	嬉		1							
	生命科学	"	2	"	嬉			2						
	植物分類学	"	2	"	宮脇			2						
	植物分類学演習	"	2	演習	宮脇			2						
	動物生理学	"	2	講義	嬉						2			
	分子生物学	"	2	"	(上田)					2				奇数年度開講
	動物生態学	"	2	"	(未定)						集(30)			開講未定
	フィールド生物学	"	2	演習	宮脇, 嬉				集(30)					偶数年度開講
	地学通論Ⅲ	"	1	講義	高島		1							
	地学通論Ⅳ	"	1	"	高島		1							
	地球環境科学	"	2	"	高島				2					
	進化古生物学	"	2	"	(前田)					集(30)				偶数年度開講
	岩石鉱物学	"	2	"	角縁						2			
	天文学	"	2	"	(藤澤)				集(30)					奇数年度開講
	地学巡検	"	2	実験	角縁, 高島				集(60)					
小 計			10	集( )の( )内の数字は、集中講義の時間数を表す										
自由選択科目			2	本表のほかに、本学部及び他学部の専門教育科目並びに学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目並びに本学部の教員免許状取得のための科目のうちから履修することができる。										
卒業研究		必	4											
計			101											

別表Ⅲ G (第5条第2項関係)  
 学校教育課程専門教育科目 (音楽選修)

科目区分	授業科目	必修選 択の別	単 位 数	授 業 形 態	担 当 教 員	週当たりの時間数				備 考	
						1 年 前 後	2 年 前 後	3 年 前 後	4 年 前 後		
専門基礎科目 (別表Ⅱ)			6								
課程共通科目 (別表Ⅱ)			6								
学校教育科目 (別表Ⅱ)			55								
専 門 外 国 語 科 目	専門教育外国語Ⅰ	必	1	演習	(チャップマン)他		2				
	専門教育外国語Ⅱ	"	1	"	高野			2			
	小 計			2							
	ソルフェージュⅠ	必	1	演習	今井	2					
	ソルフェージュⅡ	"	1	"	今井		2				
	ソルフェージュⅢ	"	1	"	今井			2			
	ソルフェージュⅣ	"	1	"	今井				2		
	ピアノⅠ	"	1	"	古賀 <sub>註</sub>	2				2単位まで累積可 奇数年度開講	
	合唱	"	1	"	板橋		2				
	音楽理論演習Ⅰ	"	1	"	橋本		2				
指揮法Ⅰ	"	1	"	今井			2		I, IIの順に履修すること		
合奏	"	1	"	今井				2			
音楽史Ⅱ	"	2	講義	高野			2				
音楽基礎理論Ⅰ	"	2	"	高野	2						
音楽基礎理論Ⅱ	"	1	演習	高野		2					
小 計			14								
専 門 選 修 科 目	音楽教育学	選	2	講義	荒巻		2				
	音楽科教育課題研究Ⅱ	"	2	演習	山田, 荒巻				2		
	音楽教育実践論	"	2	演習	山田				2		
	声楽Ⅰ	"	1	実習	板橋	2					
	声楽Ⅱ	"	1	"	板橋		2				
	声楽Ⅲ	"	1	"	板橋			2			
	声楽Ⅳ	"	1	"	板橋				2		
	声楽Ⅴ	"	1	"	板橋				2		
	声楽Ⅵ	"	1	"	板橋				2	2	
	声楽Ⅶ	"	1	"	板橋					2	
	声楽課題研究	"	1	演習	板橋					2	
	ピアノⅡ	"	1	実習	古賀 <sub>註</sub>		2				
	ピアノⅢ	"	1	"	古賀 <sub>註</sub>			2			
	ピアノⅣ	"	1	"	古賀 <sub>註</sub>				2		
	ピアノⅤ	"	1	"	古賀 <sub>註</sub>				2		
	ピアノⅥ	"	1	"	古賀 <sub>註</sub>				2		
	ピアノⅦ	"	1	"	古賀 <sub>註</sub>				2		
	ピアノ課題研究	"	1	演習	古賀 <sub>註</sub>					2	
	器楽Ⅰ	"	1	実習	今井		2				
	器楽Ⅱ	"	1	"	今井			2			
	指揮法Ⅱ	"	1	演習	今井				2		
	音楽実践課題研究	"	1	"	今井					2	
	音楽史Ⅰ	"	2	講義	高野		2				
	音楽学課題研究	"	1	演習	高野					2	
	伴奏法Ⅰ	"	1	実習	橋本				2		
	伴奏法Ⅱ	"	1	"	橋本				2		
	音楽理論演習Ⅱ	"	1	演習	橋本			2			
	音楽理論演習Ⅲ	"	1	"	橋本				2		
	音楽理論演習Ⅳ	"	1	"	橋本				2		
	編曲法	"	1	"	橋本				2		
	作曲法	"	1	"	橋本					2	
作曲課題研究	選	1	演習	橋本					2		
日本・民族音楽概説	"	2	講義	(山本)	集(30)						
日本伝統音楽実習Ⅰ	"	1	実習	(林)				2			
日本伝統音楽実習Ⅱ	"	1	"	(林)				2			
小 計			8	集()の()内の数字は、集中講義の時間数を表す							
自由選択科目			6	本表のほかに、本学部及び他学部の専門教育科目並びに学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目並びに本学部の教員免許状取得のための科目のうちから履修することができる。							
卒業研究		必	4								
合 計			101								

別表IV A (第5条第3項関係)

## 国際文化課程専門教育科目 (日本・アジア文化選修)

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考				
						1年		2年			3年		4年	
						前	後	前	後		前	後	前	後
専門基礎科	国際文化論	必	2	講義	山崎, 熊本			2					奇数クラス 偶数クラス	
	現代教育論	選	2	"	川上, 松下	2								
	教育心理学	"	2	"	上長			2						
	教育心理学	"	2	"	大元			2						
	生活文化論	"	2	"	藤永他		2							
	実践英語	"	2	演習	熊本	2								
	実践英語	"	2	"	木原		2							
小計			6											
課程共通科目	日本・アジアの社会と文化	必	2	講義	中尾, 谷口	2								
	欧米の社会と文化	"	2	"	早瀬		2							
小計			4											
専門外国語科目	英語1	選	1	演習	熊本			2						
	英語2	"	1	"	(ジェンパー)			2						
	英語3	"	1	"	鈴木				2					
	英語4	"	1	"	(ジェンパー)					2				
	ドイツ語1	"	1	"	(吉中)	2								
	ドイツ語2	"	1	"	(吉中)		2							
	ドイツ語3	"	1	"	重竹	2								
	ドイツ語4	"	1	"	重竹		2							
	ドイツ語5	"	1	"	重竹			2						
	ドイツ語6	"	1	"	重竹				2					
	ドイツ語7	"	1	"	重竹				2					
	ドイツ語8	"	1	"	重竹					2				
	ドイツ語9	"	1	"	(吉中)						2			
	ドイツ語10	"	1	"	(吉中)							2		
	フランス語1	"	1	"	(ラミス)	2								
	フランス語2	"	1	"	(ラミス)		2							
	フランス語3	"	1	"	相野	2								
	フランス語4	"	1	"	相野		2							
	フランス語5	"	1	"	(ラミス)			2						
	フランス語6	"	1	"	(ラミス)				2					
	フランス語7	"	1	"	相野				2					
	フランス語8	"	1	"	相野					2				
	フランス語9	"	1	"	(ラミス)						2			
	フランス語10	"	1	"	(ラミス)							2		
	中国語1	"	1	"	古川	2								
	中国語2	"	1	"	古川		2							
	中国語3	"	1	"	谷口	2								
	中国語4	"	1	"	谷口		2							
	中国語5	"	1	"	谷口			2						
	中国語6	"	1	"	谷口				2					
	中国語7	"	1	"	古川				2					
	中国語8	"	1	"	古川					2				
	中国語9	"	1	"	中尾						2			
	中国語10	"	1	"	中尾							2		
朝鮮語1	"	1	"	永島	2									
朝鮮語2	"	1	"	永島		2								
朝鮮語3	"	1	"	永島	2									
朝鮮語4	"	1	"	永島		2								
朝鮮語5	"	1	"	森			2							
朝鮮語6	"	1	"	森				2						
朝鮮語7	"	1	"	森					2					
朝鮮語8	"	1	"	森						2				
朝鮮語9	"	1	"	張							2			
朝鮮語10	"	1	"	張								2		
専門教育外国語 I	"	1	"	森				2						
専門教育外国語 II	"	1	"	山崎					2					
専門外国語科目の履修方法は、次の(1)(2)のいずれかによる。														
(1) ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語の中から1つを選んで10単位を、さらに英語1・英語2・英語3・英語4・専門教育外国語 I・専門教育外国語 II から2単位、計12単位を修得する。														
(2) ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語の中から1つを選んで8単位を、さらに英語1・英語2・英語3・英語4・専門教育外国語 I・専門教育外国語 II から4単位、計12単位を修得する。														
* 国際文化課程の学生が専門教育外国語 I・II の履修を希望する場合には、国際文化課程で開講されている同科目を受講し、他課程開講の専門教育外国語は受講しないようにすること。														
* * 外国人留学生の専門外国語科目の履修方法については、別に定める。														
小計			12											





科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考	
						1年	2年	3年	4年		
						前	後	前	後		
専 門 科 目	中国思想史Ⅱ	選	2	講義	近藤			2			開講未定  偶数年度開講 奇数年度開講             奇数年度開講           開講未定 開講未定 開講未定 開講未定 開講未定
	日中交渉史	"	2	"	(未定)			2			
	東洋史要説	"	2	"	(水島)		2				
	東南アジア国際関係論	"	2	"	山崎		2				
	朝鮮政治文化論	"	2	"	森			2			
	朝鮮現代政治史	"	2	"	森			2			
	朝鮮史	"	2	"	永島	2					
	日朝関係史	"	2	"	永島		2				
	政治学	"	2	"	森		2				
	国際政治学要論	"	2	"	山崎			2			
	西洋史要説	"	2	"	都築	2					
	法学要論	"	2	"	吉岡		2				
	社会学要論	"	2	"	(田中 <sup>豊</sup> )		2				
	哲学要論Ⅰ	"	2	"	(藤田)		2				
	哲学要論Ⅱ	"	2	"	(藤田)		2				
	人文地理学	"	2	"	藤永		2				
	自然地理学	"	2	"	藤永			2			
	世界地誌	"	2	"	藤永				2		
	日本語教育概論	"	2	"	(未定)		2				
	日本語教授法Ⅰ	"	2	"	(未定)			2			
日本語教授法Ⅱ	"	2	"	(未定)			2				
日本語教育実習	"	4	実習	(未定)				4			
海外実習	"	2	演習	(未定)							
西日本地域史論	"	2	講義	(伊藤)			2				
	小 計		22	集( )の( )内の数字は、集中講義の時間数を表す							
目	自由選択科目		25	本表のほかに、本学部及び他学部の専門教育科目並びに学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目並びに本学部の教員免許状取得のための科目のうちから履修することができる。なお、別表IV Aの専門基礎科目の選択必修の分（「現代教育論」以下）、専門科目のうちの専門外国語科目及び選修科目（選択必修、選択）で、卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、自由選択科目の単位とすることができる。							
	卒業研究	必	6								
	合 計		91								

別表IV B (第5条第3項関係)

## 国際文化課程専門教育科目 (欧米文化選修)

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考				
						1年		2年			3年		4年	
						前	後	前	後		前	後	前	後
専門基礎科目	国際文化論	必修	2	講義	山崎, 熊本			2				奇数クラス 偶数クラス		
	現代教育論		2	"	佐藤 <sup>#</sup>	2								
	教育心理学		2	"	上長			2						
	教育心理学		2	"	大元			2						
	生活文化論		2	"	藤永他		2							
	実践英語		2	演習	鈴木	2								
	実践英語		2	"	名本		2							
小計			6											
課程共通科目	日本・アジアの社会と文化	必修	2	講義	中尾, 谷口	2								
	欧米の社会と文化	"	2	"	早瀬		2							
小計			4											
専門外国語科目	英語1	選必修	1	演習	木原			2						
	英語2	"	1	"	(ジェンパー)			2						
	英語3	"	1	"	名本				2					
	英語4	"	1	"	(ジェンパー)					2				
	ドイツ語1	"	1	"	(吉中)	2								
	ドイツ語2	"	1	"	(吉中)		2							
	ドイツ語3	"	1	"	重竹	2								
	ドイツ語4	"	1	"	重竹		2							
	ドイツ語5	"	1	"	重竹			2						
	ドイツ語6	"	1	"	重竹				2					
	ドイツ語7	"	1	"	重竹				2					
	ドイツ語8	"	1	"	重竹					2				
	ドイツ語9	"	1	"	(吉中)					2				
	ドイツ語10	"	1	"	(吉中)						2			
	フランス語1	"	1	"	(ラミス)	2								
	フランス語2	"	1	"	(ラミス)		2							
	フランス語3	"	1	"	相野	2								
	フランス語4	"	1	"	相野		2							
	フランス語5	"	1	"	(ラミス)			2						
	フランス語6	"	1	"	(ラミス)				2					
	フランス語7	"	1	"	相野				2					
	フランス語8	"	1	"	相野					2				
	フランス語9	"	1	"	(ラミス)						2			
	フランス語10	"	1	"	(ラミス)							2		
	中国語1	"	1	"	古川	2								
	中国語2	"	1	"	古川		2							
	中国語3	"	1	"	谷口	2								
	中国語4	"	1	"	谷口		2							
	中国語5	"	1	"	谷口			2						
	中国語6	"	1	"	谷口				2					
	中国語7	"	1	"	古川				2					
	中国語8	"	1	"	古川					2				
	中国語9	"	1	"	中尾						2			
	中国語10	"	1	"	中尾							2		
朝鮮語1	"	1	"	永島	2									
朝鮮語2	"	1	"	永島		2								
朝鮮語3	"	1	"	永島	2									
朝鮮語4	"	1	"	永島		2								
朝鮮語5	"	1	"	森			2							
朝鮮語6	"	1	"	森				2						
朝鮮語7	"	1	"	森				2						
朝鮮語8	"	1	"	森					2					
朝鮮語9	"	1	"	張						2				
朝鮮語10	"	1	"	張							2			
専門教育外国語 I	"	1	"	都築			2							
専門教育外国語 II	"	1	"	相澤				2						
専門外国語科目の履修方法は、次の(1)(2)のいずれかによる。														
(1) ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語の中から1つを選んで10単位を、さらに英語1・英語2・英語3・英語4・専門教育外国語 I・専門教育外国語 II から2単位、計12単位を修得する。														
(2) ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語の中から1つを選んで8単位を、さらに英語1・英語2・英語3・英語4・専門教育外国語 I・専門教育外国語 II から4単位、計12単位を修得する。														
* 国際文化課程の学生が専門教育外国語 I・II の履修を希望する場合には、国際文化課程で開講されている同科目を受講し、他課程開講の専門教育外国語は受講しないようにすること。														
** 外国人留学生の専門外国語科目の履修方法については、別に定める。														
小計			12											

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考
						1年	2年	3年	4年	
						前	後	前	後	
専	スピーチ・コミュニケーション論	選必	2	講義	熊本			2		超過単位は 選修選択科 目単位とす ることがで きる。
	近代欧米文学論Ⅰ	"	2	"	早瀬			2		
	国際連合論	"	2	"	(大庭)			2		
	現代欧米の法と政治Ⅰ	"	2	"	吉岡	2				
	欧米社会経済思想史Ⅰ	"	2	"	(未定)		2			
	芸術文化論	"	2	"	相澤	2				
	近代西洋思想	"	2	"	後藤		2			
	哲学要論Ⅰ	"	2	"	(藤田)		2			
	イギリス政治史	"	2	"	都築			2		
	国際文化概論	"	2	"	木原他	2				
	小計		12							
門	(欧米の歴史・社会・思想)									
	ヨーロッパ文化論	選	2	講義	(未定)	2				
選	現代ヨーロッパ社会論	"	2	"	(未定)	2				
	欧米社会経済思想史Ⅱ	"	2	"	(未定)		2			
科	近代ヨーロッパの国家と社会	"	2	"	(今井)		2			
	中世ヨーロッパの国家と社会	"	2	"	都築		2			
目	近代ヨーロッパ社会史	"	2	"	(今井)		2			
	西洋史要説	"	2	"	都築	2				
目	国際社会の正義と秩序Ⅰ	"	2	"	(千知岩)		2			
	国際社会の正義と秩序Ⅱ	"	2	"	(千知岩)			2		
目	法学要論	"	2	"	吉岡		2			
	現代欧米の法と政治Ⅱ	"	2	"	吉岡		2			
目	市民社会と倫理	"	2	"	後藤		2			
	経済学要論	"	2	"	張			2		
目	倫理学要論	"	2	"	後藤		2			
	哲学要論Ⅱ	"	2	"	(藤田)		2			奇数年度開講
目	哲学要論Ⅲ	"	2	"	(未定)		2			偶数年度開講
	プラトン哲学Ⅰ	"	2	"	(未定)		2			
目	プラトン哲学Ⅱ	"	2	"	(未定)		2			奇数年度開講
	美学思想史	"	2	"	相澤		2			
目	現代美学論	"	2	"	相澤			2		
	西洋中世史演習Ⅰ	"	2	演習	都築			2		4単位まで累積可
目	西洋中世史演習Ⅱ	"	2	"	都築			2		4単位まで累積可
	西洋近代史演習Ⅰ	"	2	"	(未定)			2		4単位まで累積可
目	西洋近代史演習Ⅱ	"	2	"	(未定)			2		4単位まで累積可
	法学演習Ⅰ	"	2	"	吉岡			2		4単位まで累積可
目	法学演習Ⅱ	"	2	"	吉岡			2		4単位まで累積可
	国際関係論演習Ⅰ	"	2	"	未定			2		4単位まで累積可
目	国際関係論演習Ⅱ	"	2	"	未定			2		4単位まで累積可
	欧米社会経済思想史演習Ⅰ	"	2	"	(未定)			2		4単位まで累積可
目	欧米社会経済思想史演習Ⅱ	"	2	"	(未定)			2		4単位まで累積可
	倫理学演習Ⅰ	"	2	"	後藤			2		4単位まで累積可
目	倫理学演習Ⅱ	"	2	"	後藤			2		4単位まで累積可
	西洋古代哲学演習Ⅰ	"	2	"	開講未定			2		4単位まで累積可
目	西洋古代哲学演習Ⅱ	"	2	"	開講未定			2		4単位まで累積可
	美学演習Ⅰ	"	2	"	相澤			2		
目	美学演習Ⅱ	"	2	"	相澤			2		
	美学外書講読Ⅰ	"	2	"	相澤	2				4単位まで累積可
目	美学外書講読Ⅱ	"	2	"	相澤		2			4単位まで累積可
	国際協力論	"	2	講義	(原田)		2			
目	男女共同参画調査実習	"	2	実習	(未定)		2			4単位まで累積可
	ジェンダー学演習Ⅰ	"	2	演習	(木下)			2		4単位まで累積可
目	ジェンダー学演習Ⅱ	"	2	"	(木下)			2		4単位まで累積可
	(欧米の文学)									
目	近代欧米文学論Ⅱ	選	2	講義	早瀬			2		
	イギリス文学Ⅰ	"	2	"	山中		2			
目	イギリス文学Ⅱ	"	2	"	(朱雀)			2		
	イギリス文学Ⅲ	"	2	"	木原			2		4単位まで累積可
目	アメリカ文学Ⅰ	"	2	"	鈴木		2			開講未定
	アメリカ文学Ⅱ	"	2	"	名本			2		開講未定

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考						
						1年	2年	3年	4年							
						前	後	前	後							
専	選	英米文学講読Ⅰ	選	1	演習	木原	2						4単位まで累積可			
		英米文学講読Ⅱ	"	1	"	山中		2								
		英米文学講読Ⅲ	"	1	"	名本			2							
		英米文学講読Ⅳ	"	1	"	鈴木				2						
		英文学史Ⅰ	"	2	講義	(朱雀)				2						
		英文学史Ⅱ	"	2	"	(朱雀)					2					
		中世英文学	"	2	"	山中					2					
		英米文学理論演習	"	2	演習	(未定)						2				
		英文学演習Ⅰ	"	1	"	名本				2						
		英文学演習Ⅱ	"	1	"	鈴木					2					
		英文学演習Ⅲ	"	1	"	山中						2				
		英文学演習Ⅳ	"	1	"	山中					2					
		英文学演習Ⅴ	"	1	"	木原						2				
		ドイツ文学史	"	2	講義	重竹					2					
		ドイツ文学	"	2	"	重竹					2					
		フランス文学史	"	2	"	相野	2									
		フランス文学Ⅰ	"	2	"	相野		2								
		フランス文学Ⅱ	"	2	"	未定						2				
フランス文学理論演習	"	2	演習	相野							2					
門	修	科	目	(欧米の言語・文化)									4単位まで累積可 開講未定 偶数年度開講 開講未定 偶数年度開講 奇数年度開講			
				英語史Ⅰ	選	2	講義	(田中 <sup>後</sup> )						2		
				英語史Ⅱ	"	2	"	(田中 <sup>後</sup> )							2	
				古英語初歩	"	2	"	(未定)							2	
				英語学概論Ⅰ	"	2	"	田中 <sup>前</sup>							2	
				英語学概論Ⅱ	"	2	"	田中 <sup>前</sup>							2	
				英語音声学Ⅰ	"	2	"	田中 <sup>前</sup>		2						
				英語音声学Ⅱ	"	2	"	田中 <sup>前</sup>			2					
				異文化間コミュニケーション論	"	2	"	ホートン			2					
				対照言語学	"	2	"	熊本			2					
				英語音声学演習Ⅰ	"	1	演習	小野		2						
				英語音声学演習Ⅱ	"	1	"	小野			2					
				英語音声学演習Ⅲ	"	1	"	(未定)				2				
				日英比較音韻論	"	2	講義	小野						2		
				英文法演習Ⅰ	"	1	演習	田中 <sup>前</sup>		2						
				英文法演習Ⅱ	"	1	"	田中 <sup>前</sup>			2					
				英文法演習Ⅲ	"	1	"	(未定)				2				
				英語学演習Ⅰ	"	1	"	熊本				2				
				英語学演習Ⅱ	"	1	"	小野						2		
				英語学演習Ⅲ	"	1	"	(未定)							2	
				日英異文化コミュニケーションⅠ	"	2	"	小野						2		
				日英異文化コミュニケーションⅡ	"	2	"	(ジェンパー)							2	
				英語オーラルコミュニケーションⅠ	"	1	"	ホートン	2							
				英語オーラルコミュニケーションⅡ	"	1	"	ホートン		2						
				英語オーラルコミュニケーションⅢ	"	1	"	ホートン				2				
				英語パブリックスピーキングⅠ	"	1	"	ホートン							2	
				英語パブリックスピーキングⅡ	"	1	"	ホートン								2
				英語論文構成Ⅰ	"	1	"	ホートン						2		
				英語論文構成Ⅱ	"	1	"	ホートン							2	
				英作文演習Ⅰ	"	1	"	(青木)			2					
				英作文演習Ⅱ	"	1	"	(青木)				2				
				ドイツ語表現論	"	2	講義	(未定)						2		
				ドイツ語文法論	"	2	"	(未定)							2	
				比較文化論演習	"	2	演習	相野						2		
				欧米文化論	"	2	講義	木原	2							
				異文化理解Ⅰ	"	1	演習	ホートン						2		
				異文化理解Ⅱ	"	1	"	(未定)							2	
				異文化理解Ⅲ	"	1	"	(未定)							2	
				文化とジェンダーⅠ	"	2	講義	(金城)	2							
文化とジェンダーⅡ	"	2	"	(金城)		2										
英米文化事情Ⅰ	"	1	演習	ホートン			2									
英米文化事情Ⅱ	"	1	"	(未定)				2								
現代イギリス事情	"	2	講義	木原	2											
アメリカ文化論	"	2	"	鈴木					2							
現代ドイツ事情Ⅰ	"	2	"	(吉中)	2											
現代ドイツ事情Ⅱ	"	2	"	(吉中)	2											

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考	
						1年	2年	3年	4年		
						前	後	前	後		
専 門 科 目	日独異文化間コミュニケーション論	選	2	講義	(未定)	2				開講未定	
	ドイツ文化論Ⅰ	"	2	"	(堺)	集(30)				奇数年度開講	
	ドイツ文化論Ⅱ	"	2	"	(堺)	集(30)				偶数年度開講	
	現代フランス事情	"	2	"	相野	2				開講未定	
	フランス文化論	"	2	"	相野		2			開講未定	
	ジャーナリズム論	"	2	"	(酒井)			2			
	欧米文化論演習Ⅰ	"	1	演習	鈴木	2					
	欧米文化論演習Ⅱ	"	1	"	名本	2					
	欧米文化論演習Ⅲ	"	1	"	熊本			2			
	欧米文化論演習Ⅳ	"	1	"	(未定)				2		
	海外実習	"	2	実習	重竹, 後藤, 相野他	集又は集(60)					前期集中又は後期集中 4単位まで累積可
	(その他)	選	2	講義	(田中 <sub>豊</sub> )						
	社会学要論	"	2	"	山下		2				
	都市システム論	"	2	"	山下			2			
	日本の地理と風土	"	2	"	山下	2					
	人文地理学	"	2	"	藤永		2				
	自然地理学	"	2	"	藤永			2			
	世界地誌	"	2	"	藤永				2		
	集落実地調査	"	2	実習	藤永			集(60)			
	地理学フィールドワーク実習	"	2	"	山下				集(60)		
	経済学要論	"	2	講義	張			2			
	国際経済論	"	2	"	張			2			
	近代日本の社会と国家	"	2	"	鬼嶋			2			
	日本史要説	"	2	"	(宮島)			2			
	文献資料・遺構にみる交流の考古学	"	2	"	重藤				2		
	古墳文化研究演習Ⅰ	"	2	演習	重藤				2		奇数年度開講
	古墳文化研究演習Ⅱ	"	2	"	重藤					2	奇数年度開講
	日本近現代史	"	2	講義	鬼嶋	2					
	日本近現代史演習Ⅰ	"	2	演習	鬼嶋				2		
	日本近現代史演習Ⅱ	"	2	"	鬼嶋					2	
	東南アジアの国家と社会	"	2	講義	山崎		2				
	東南アジア学演習Ⅰ	"	2	演習	山崎				2		
	東南アジア学演習Ⅱ	"	2	"	山崎					2	
東洋史要説	"	2	講義	(水島)		2					
朝鮮史	"	2	"	永島	2						
東南アジア国際関係論	"	2	"	山崎		2					
政治学	"	2	"	森		2					
国際政治学要論	"	2	"	山崎			2				
朝鮮政治文化論	"	2	"	森			2			偶数年度開講	
朝鮮現代政治史	"	2	"	森			2			奇数年度開講	
日本語教育概論	"	2	"	(未定)		2				開講未定	
日本語教授法Ⅰ	"	2	"	(未定)			2			開講未定	
日本語教授法Ⅱ	"	2	"	(未定)			2			開講未定	
日本語教育実習	"	4	実習	(未定)				4		開講未定	
西日本地域史論	"	2	講義	(伊藤)				2			
小 計			26	集( )の( )内の数字は、集中講義の時間数を表す							
自由選択科目			25	本表のほかに、本学部及び他学部の専門教育科目並びに学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目並びに本学部の教員免許状取得のための科目のうちから履修することができる。なお、別表ⅣBの専門基礎科目の選択必修の分（「現代教育論」以下）、専門科目のうちの専門外国語科目及び選修科目（選択必修、選択）で、卒業に必要な単位を超えて修得した単位は、自由選択科目の単位とすることができる。							
卒業研究		必	6								
合 計			91								

別表V A (第5条第4項関係)

## 人間環境課程専門教育科目 (生活・環境・技術選修)

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考	
						1年	2年	3年	4年		
						前	後	前	後		
専 門 基 礎 科 目	現代教育論	選必	2	講義	佐藤 <sup>#</sup>	2				奇数クラス 偶数クラス	
	教育心理学	"	2	"	上長		2				
	教育心理学	"	2	"	大元		2				
	国際文化論	"	2	"	山崎, 熊本		2				
	生活文化論	"	2	"	藤永他		2				
	実践英語	"	2	演習	鈴木	2					
	実践英語	"	2	"	名本		2				
	小 計		6								
専 門 選 修 科 目	生活経営論	選必	2	講義	赤星		2			A群を選択する者 B群を選択する者	
	自然環境論	"	2	"	中村 <sup>®</sup> , 高島	2					
	健康福祉論	"	2	"	山津			2			
	小 計		4								
	専門教育外国語 I	必	1	演習	(チャップマン)他		2				
	専門教育外国語 II	A必	1	"	澤島・藤永・重藤・萱島			2			
	専門教育外国語 II	B必	1	"	環境基礎全教員				2		
	小 計		2								
	情報処理演習 I	A必	2	演習	山下		2				選修必修科目として、A群 を選択する者は「情報処理 演習 II A」を、B群を選択する 者は「情報処理演習 II B」 を修得しなければならない。
	情報処理演習 I	B必	2	"	中島		2				
	情報処理演習 II A	A必	2	"	澤島			2			
	情報処理演習 II B	B必	2	"	中島			2			
小 計		4									
専 門 選 修 科 目	(A群必修科目)									選修必修科目として、A群 を選択する者は、「A必」1 2単位を修得すること。 B群を選択する者は、「B 必」の6単位と「B選必」の 中から6単位選択必修し、 合わせて12単位を修得す ること。	
	生活環境概説	A必	2	講義	澤島, 重藤	2					
	生活経済学	"	2	"	赤星			2			
	住宅デザイン論	"	2	"	澤島			2			
	日本の地理と風土	"	2	"	山下	2					
	被服衛生学	"	2	"	甲斐			2			
	調理文化論	"	2	"	萱島		2				
	(B群必修科目)										
	環境・技術セミナー	B必	2	演習	環境基礎全教員				2		
	環境問題と対策	"	2	講義	張本	2					
	環境情報処理論	"	2	"	大隅	2					
	水と空気の運動学	B選必	2	"	中村 <sup>®</sup>		2				
物質環境科学	"	2	"	岡島		2					
生命科学	"	2	"	嬉			2				
地球環境科学	"	2	"	高島			2				
ヒューマンエレクトロニクス I	"	2	"	角			2				
エネルギー環境論	"	2	"	中村 <sup>®</sup> , 小野 <sup>文</sup>				2			
小 計		12									
専 門 選 修 科 目	(A群関連科目)									偶数年度開講  奇数年度開講 奇数年度開講  奇数年度開講 9月前半に家庭看護の集中 講義と保育実習あり 偶数年度開講	
	人文地理学	選	2	講義	藤永		2				
	世界地誌	"	2	"	藤永			2			
	都市システム論	"	2	"	山下			2			
	地理情報システム演習	"	2	演習	山下				2		
	地域分析入門	"	2	"	山下			2			
	自然地理学	"	2	講義	藤永			2			
	集落実地調査	"	2	実習	藤永			集(60)			
	地理学フィールドワーク実習	"	2	"	山下				集(60)		
	人文地理学演習	"	2	演習	山下				2		
	地誌学演習	"	2	"	藤永				2		
	日本考古学の方法と理論	"	2	講義	重藤		2				
	文献資料・遺構にみる交流の考古学	"	2	"	重藤			2			
	北部九州地域論 I (古代)	"	2	"	重藤			2			
	北部九州地域論 II (現代)	"	2	"	藤永			2			
	考古学実習 I	"	2	実習	重藤			4			
	考古学実習 II	"	2	"	重藤				集(60)		
	古墳文化研究演習 I	"	2	演習	重藤				2		
	古墳文化研究演習 II	"	2	"	重藤				2		
	文化財と保存と活用	"	2	講義	重藤			2			
	社会学要論	"	2	"	(田中 <sup>®</sup> )			2			
	現代社会の家族	"	2	"	赤星			2			
	老年家族学	"	2	"	赤星				2		
	保育学 I	"	2	講・実	中西, (鈴木)		2				
	保育学 II	"	2	講義	中西				2		
	衣生活材料学	"	2	"	(都甲)			集(30)			

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考		
						1年	2年	3年	4年			
						前	後	前	後			
専門科目	被服学	選	2	講義	甲斐	2						
	被服衛生学演習	"	2	演習	甲斐							
	服飾文化論	"	2	講義	(未定)		集(30)				開講未定・偶数年度開講	
	服飾制作基礎実習	"	2	実習	甲斐		4					
	服飾制作実習	"	2	"	(未定)				4		開講未定・奇数年度開講	
	食物学	"	2	講義	萱島		2					
	食品学	"	2	"	(安田)		集(30)					
	栄養学	"	2	"	萱島		2					
	食品・栄養学実験	"	2	実験	岡島				4		偶数年度開講	
	食生活実習	"	2	実習	萱島			4				
	フードコーディネイト実習	"	2	"	萱島					4	奇数年度開講	
	調理学実験	"	2	実験	萱島				4			
	生活環境化学	"	2	講義	澤島					2		
	生活環境機器	"	2	"	澤島		集(30)					
	生活環境デザイン	"	2	実習	澤島				4			
	就業体験実習	"	2	"	重藤他				集又は集			A群選択者
	(B群関連科目)											
	環境法要論Ⅰ	選	2	講義	張本		2					
	環境法要論Ⅱ	"	2	"	張本		2					
	環境法演習	"	2	演習	張本				2			
	環境行政	"	2	講義	張本		2					
	環境行政調査実習	"	2	実習	張本			4				
	環境熱学	"	2	講義	中村 <sup>Ⓢ</sup>		2					
	原子物理	"	2	"	中村 <sup>Ⓢ</sup>				2			奇数年度開講
	放射線科学	"	2	"	大隅				2			偶数年度開講
	無機環境化学	"	2	"	(中島)					2		
	物理化学	"	2	"	石原					2		偶数年度開講
	環境物理化学	"	2	"	(未定)		2					開講未定
	有機環境化学	"	2	"	岡島					2		
	生物学通論Ⅲ	"	1	"	嬉		1					
	生物学通論Ⅳ	"	1	"	嬉		1					
	植物分類学	"	2	"	宮脇					2		
	動物生理学	"	2	"	嬉					2		
生物群集の数理学	"	2	講・実	中村 <sup>Ⓢ</sup> , 宮脇					2		偶数年度開講	
古環境学	"	2	講義	未定					2		開講未定	
古環境学実験	"	2	実験	未定					4		開講未定	
進化古生物学	"	2	講義	(前田)			集(30)				偶数年度開講	
気象環境科学	"	2	"	中村 <sup>Ⓢ</sup> , 高島			2				奇数年度開講	
科学者と歴史	"	2	"	世波		2						
物理学基礎実験Ⅰ	"	1	実験	中村 <sup>Ⓢ</sup>					2			
物理学基礎実験Ⅱ	"	1	"	中村 <sup>Ⓢ</sup>					2			
環境化学実験Ⅰ	"	1	"	岡島					2			
環境化学実験Ⅱ	"	1	"	岡島					2			
生物学実験Ⅰ	"	1	"	(未定)		2					開講未定	
生物学実験Ⅱ	"	1	"	(未定)		2					開講未定	
地学実験Ⅰ	"	1	"	高島		2						
地学実験Ⅱ	"	1	"	高島		2						
地球科学実験	"	2	"	高島						4		
地学巡検	"	2	"	角縁, 高島			集(60)					
環境科学特別講義	"	2	講義	(兒玉)				集(30)				
水環境論	"	2	"	岡島, 高島					2		偶数年度開講	
環境システム制御	"	2	"	(松本)					2		偶数年度開講	
環境システム演習Ⅱ	"	2	演習	大隅		2						
生活機器製図概論	"	2	講義	小野 <sup>ⓧ</sup>			2					
福祉メカトロニクスⅠ	"	2	"	(松本)				2			奇数年度開講	
福祉メカトロニクスⅡ	"	2	"	(穂屋下)						2		
福祉メカトロニクス実験	"	2	実験	小野 <sup>ⓧ</sup>						4		
住環境材料工学	"	2	講義	小野 <sup>ⓧ</sup>					2			
生活環境電磁気学	"	2	"	角		2						
環境電気機器概論	"	2	"	(松本)					2		開講未定	



科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考	
						1年	2年	3年	4年		
						前	後	前	後		
専 門 科 目	環境電気機器実験	選	2	実験	(松本)			4		開講未定 奇数年度開講	
	ヒューマンエレクトロニクスⅡ	"	2	講義	(松本)		2				
	ヒューマンエレクトロニクス実験	"	2	実験	中村 <sup>Ⓜ</sup>		4				
	プログラミング演習Ⅰ	"	2	演習	(穂屋下)			2			
	プログラミング演習Ⅱ	"	2	"	角			2			
	就業体験実習	"	2	実習	岡島他			集又は集			B群選択者 (前期又は後期集中)
	(社会福祉関連科目)										
	心理学理論と心理的支援	選	2	講義	大元		2				
	社会理論と社会システム	"	2	"	(田中 <sup>Ⓜ</sup> )		2				
	現代社会と福祉Ⅰ	"	2	"	松山	2				Ⅰ、Ⅱの順に履修すること	
	現代社会と福祉Ⅱ	"	2	"	松山		2				
	社会調査の基礎	"	2	"	(田中 <sup>Ⓜ</sup> )			2			
	社会保障Ⅰ	"	2	"	(坂本)		集(30)			偶数年度開講・Ⅰ、Ⅱの順に履修すること	
	社会保障Ⅱ	"	2	"	(坂本)		集(30)				
	福祉行財政と福祉計画Ⅰ	"	2	"	(倉田)			集(30)		Ⅰ、Ⅱの順に履修すること	
	福祉行財政と福祉計画Ⅱ	"	2	"	(倉田)			集(30)			
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	"	2	"	(坂本)	集(30)				奇数年度開講・Ⅰ、Ⅱの順に履修すること	
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	"	2	"	(坂本)	集(30)					
	就労支援サービス	"	1	"	(倉田)			集(15)		奇数年度開講	
	福祉サービスの組織と経営	"	1	"	(倉田)			集(15)			
	権利擁護と成年後見制度	"	1	"	(中里)				1		
	更生保護制度	"	1	"	(中里)				1		
	低所得者に対する支援と生活保護制度	"	2	"	(中里)			2			
	保健医療サービス	"	2	"	久野		2			奇数年度開講 偶数年度開講	
	人体の構造と機能及び疾病	"	2	"	久野		2				
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	"	2	"	松山, 赤星	2					
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	"	2	"	松山			2			
	地域福祉の理論と方法Ⅰ	"	2	"	松山		2			Ⅰ、Ⅱの順に履修すること	
	地域福祉の理論と方法Ⅱ	"	2	"	松山		2				
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	"	2	"	松山			2		Ⅰ、Ⅱの順に履修すること	
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	"	2	"	(硯川)			2			
	相談援助の理論と方法Ⅰ	"	2	"	松山		2			Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順に履修すること	
	相談援助の理論と方法Ⅱ	"	2	"	松山		2				
	相談援助の理論と方法Ⅲ	"	2	"	松山			2			
	相談援助の理論と方法Ⅳ	"	2	"	松山			2			
	相談援助演習Ⅰ	"	2	演習	(滝口)		2			Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴの順に履修すること	
相談援助演習Ⅱ	"	2	"	(硯川)		2					
相談援助演習Ⅲ	"	2	"	(硯川)			2				
相談援助演習Ⅳ	"	2	"	松山			2				
相談援助演習Ⅴ	"	2	"	松山			2				
相談援助実習指導Ⅰ	"	1	実習	山津, 松山			集(45)		Ⅰ、Ⅱの順に履修すること		
相談援助実習指導Ⅱ	"	1	"	山津, 松山			集(45)				
相談援助実習	"	4	"	山津, 松山			集(180)				
小 計			41	集( )の( )内の数字は、集中講義の時間数を表す							
自由選択科目			18	本表のほかに、本学部及び他学部の専門教育科目並びに学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目並びに本学部の教員免許状取得のための科目のうちから履修することができる。							
卒業研究		必	6								
合 計			93								

別表V B (第5条第4項関係)

人間環境課程専門教育科目 (健康福祉・スポーツ選修)

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考		
						1年	2年	3年	4年			
						前	後	前	後			
専 門 基 礎 科 目	現代教育論	選必	2	講義	佐藤 <sup>註</sup>	2				奇数クラス 偶数クラス		
	教育心理学	"	2	"	上長		2					
	教育心理学	"	2	"	大元		2					
	国際文化論	"	2	"	山崎, 熊本		2					
	生活文化論	"	2	"	藤永他			2				
	実践英語	"	2	演習	鈴木	2						
	実践英語	"	2	"	名本		2					
小 計			6									
課程共通科目	生活経営論	選必	2	講義	赤星		2					
	自然環境論	"	2	"	中村 <sup>註</sup> , 中島, 高島	2						
	健康福祉論	"	2	"	山津			2				
小 計			4									
専門外国語科目	専門教育外国語 I	必	1	演習	(チャップマン)他		2					
	専門教育外国語 II	"	1	"	池上他講座教員全員				2			
	小 計			2								
情報処理科目	情報処理演習 I	必	2	演習	井上 <sup>註</sup>		2					
	情報処理演習 II C	"	2	"	井上 <sup>註</sup>				2			
	小 計			4								
専 門 科 目	健康教育概論	必	2	講義	(樋口)		2			8 I, IIの順に履修すること I, IIの順に履修すること		
	運動生理学	"	2	"	(中山)			2				
	体育原理	選必	2	"	(吉谷)				2			
	レクリエーション概論	"	2	"	松山			2				
	運動学	"	2	"	池上				2			
	トレーニング科学	"	2	"	池上			2				
	スポーツ経営学	"	2	"	坂元			2				
	精神保健	"	2	"	栗原				2			
	現代社会と福祉 I	"	2	"	松山	2						
	現代社会と福祉 II	"	2	"	松山		2					
	地域福祉の理論と方法 I	"	2	"	松山			2				
	地域福祉の理論と方法 II	"	2	"	松山				2			
	(Aグループ)											
	スポーツ I A1	選必	1	実技	堤			2				
	スポーツ I A2	"	1	"	(田口)				2			
	スポーツ I A3	"	1	"	山津		2					
	スポーツ I A4	"	1	"	(八嶋)		2					
	(Bグループ)											
	スポーツ I B1	選必	1	実技	栗原	2						
	スポーツ I B2	"	1	"	坂元			2				
	スポーツ I B3	"	1	"	池上	2						
	スポーツ I B4	"	1	"	(下園)		集(30)					
	(Cグループ)											
	スポーツ I C1	選必	1	実技	堤		2					
	スポーツ I C2	"	1	"	(山田)				2			
	スポーツ I C3	"	1	"	(町田)			2				
	スポーツ I C4	"	1	"	(池田 <sup>註</sup> )		2					
	(Dグループ)											
	スポーツ I D1	選必	1	実技	栗原, 井上 <sup>註</sup> , 山津		集(30)					
	スポーツ I D3	"	1	"	坂元				2			
スポーツ I D4	"	1	"	栗原					2			
スポーツ II A3	"	1	"	山津			集(30)					
(Eグループ)												
レクリエーション実習	選必	2	実技	松山					4			
フィットネス	"	1	"	(八嶋)				2				
ヘルスプロモーション実習 I	"	1	"	井上 <sup>註</sup>		2						
ヘルスプロモーション実習 II	"	1	"	井上 <sup>註</sup>				2				
小 計			17									

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考	
						1年	2年	3年	4年		
						前	後	前	後		
専 門 科 目	《スポーツ実技科目》										
	スポーツⅡA1	選	1	実技	(松本)		2			偶数年度開講	
	スポーツⅡA2	"	1	"	(田口)				2		
	スポーツⅡA4	"	1	"	(八嶋)			2		奇数年度開講	
	スポーツⅡB2	"	1	"	坂元				2		
	スポーツⅡB3	"	1	"	池上				2		
	スポーツⅡC1	"	1	"	堤				2	偶数年度開講	
	スポーツⅡC3	"	1	"	(町田)			2		奇数年度開講	
	《スポーツ演習科目》										
	スポーツA1演習	選	2	演習	(松本)				2	奇数年度開講	
	スポーツA2演習	"	2	"	未定					2	
	スポーツA3演習	"	2	"	山津					2	偶数年度開講
	スポーツA4演習	"	2	"	(八嶋)					2	偶数年度開講
	スポーツB2演習	"	2	"	坂元				2		
	スポーツB3演習	"	2	"	池上				2		
	スポーツC1演習	"	2	"	堤					2	奇数年度開講
	スポーツC3演習	"	2	"	(町田)				2		偶数年度開講
	スポーツD4演習	"	2	"	栗原			集(30)			奇数年度開講
	《スポーツ理論科目》										
	スポーツ測定評価	選	2	講義	坂元					2	
	運動処方	"	2	"	(中山)					2	
	解剖・生理学	"	2	"	(中山), (川久保)			2			
	衛生・公衆衛生学	"	2	"	(樋口)				2		
	学校保健	"	2	"	栗原					2	
	安全教育	"	2	"	栗原		2				
	健康教育各論(性教育)	"	2	"	栗原		2				
	野外活動概論	"	2	"	栗原			2			
スポーツ工学	"	2	"	井上 <sup>#</sup>					2		
バイオメカニクス	"	2	"	井上 <sup>#</sup>						2	
スポーツ文化論	"	2	"	(山田)	2					奇数年度開講	
生涯スポーツ論	"	2	"	(山田)		2				奇数年度開講	
スポーツ社会学	"	2	"	(山田)		2				偶数年度開講	
スポーツ行政	"	2	"	(山田)	2					偶数年度開講	
スポーツ心理学	"	2	"	山津					2		
トレーニング理論・実習	"	2	演習	池上, (木道)		2					
コーチング理論・実習	"	2	"	池上				2			
スポーツ医学	"	2	講義	(馬渡他)			集(30)			奇数年度開講	
救急処置	"	2	"	(坂口他)				2		奇数年度開講	
栄養学	"	2	"	萱島		2					

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考	
						1年	2年	3年	4年		
						前	後	前	後		
専 門 科 目	《健康福祉関連科目》										
	健康福祉計画	選	2	演習	山津				2		
	心理学理論と心理的支援	"	2	講義	大元		2				
	社会理論と社会システム	"	2	"	(田中 <sup>㉞</sup> )		2				
	社会調査の基礎	"	2	"	(田中 <sup>㉞</sup> )			2			
	社会保障Ⅰ	"	2	"	(坂本)		2			偶数年度開講Ⅰ、Ⅱの順に履修すること	
	社会保障Ⅱ	"	2	"	(坂本)			2		偶数年度開講	
	福祉行財政と福祉計画Ⅰ	"	2	"	(倉田)				集(30)	Ⅰ、Ⅱの順に履修すること	
	福祉行財政と福祉計画Ⅱ	"	2	"	(倉田)				集(30)		
	就労支援サービス	"	1	"	(倉田)				集(15)		
	福祉サービスの組織と経営	"	1	"	(倉田)				集(15)		
	権利擁護と成年後見制度	"	1	"	(中里)					1	
	更生保護制度	"	1	"	(中里)					1	
	低所得者に対する支援と生活保護制度	"	2	"	(中里)			2			
	保健医療サービス	"	2	"	久野		2				奇数年度開講
	人体の構造と機能及び疾病	"	2	"	久野		2				偶数年度開講
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	"	2	"	松山, 赤星	2					
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	"	2	"	松山			2			
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅰ	"	2	"	(坂本)	集(30)					奇数年度開講Ⅰ、Ⅱの順に履修すること
	高齢者に対する支援と介護保険制度Ⅱ	"	2	"	(坂本)		集(30)				奇数年度開講
	相談援助の基礎と専門職Ⅰ	"	2	"	松山			2			Ⅰ、Ⅱの順に履修すること
	相談援助の基礎と専門職Ⅱ	"	2	"	(硯川)				2		
	相談援助の理論と方法Ⅰ	"	2	"	松山		2				Ⅰ、Ⅱの順に履修すること
	相談援助の理論と方法Ⅱ	"	2	"	松山			2			
	相談援助の理論と方法Ⅲ	"	2	"	松山			2			
	相談援助の理論と方法Ⅳ	"	2	"	松山				2		
	相談援助演習Ⅰ	"	2	演習	(滝口)		2				Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴの順に履修すること
	相談援助演習Ⅱ	"	2	"	(硯川)			2			
	相談援助演習Ⅲ	"	2	"	(硯川)				2		
	相談援助演習Ⅳ	"	2	"	松山				2		
相談援助演習Ⅴ	"	2	"	松山					2		
相談援助実習指導Ⅰ	"	1	実習	山津, 松山				集(45)		Ⅰ、Ⅱの順に履修すること	
相談援助実習指導Ⅱ	"	1	"	山津, 松山				集(45)			
相談援助実習	"	4	"	山津, 松山				集(180)			
《共通科目》											
健康福祉スポーツ総合セミナー	選	2	演習	松山, 栗原, 井上 <sup>㉞</sup>	集(30)					開講未定	
健康福祉スポーツボランティア活動	"	2	"	井上 <sup>㉞</sup>	集(30)					累積可	
就業体験実習	"	2	実習	池貝他				集(60)			
小計			36		集( )の( )内の数字は、集中講義の時間数を表す						
自由選択科目			18	本表のほかに、本学部及び他学部の専門教育科目並びに学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目並びに本学部の教員免許状取得のための科目のうちから履修することができる。							
卒業研究	必		6								
計			93								

別表VI (第5条第5項関係)

## 美術・工芸課程専門教育科目

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考	
						1年	2年	3年	4年		
						前	後	前	後		
専 基 科 目	現代教育論	選必	2	講義	佐藤 <sub>晋</sub>	2				奇数クラス 偶数クラス	
	教育心理学	"	2	"	上長		2				
	教育心理学	"	2	"	大元		2				
	国際文化論	"	2	"	山崎, 熊本		2				
	生活文化論	"	2	"	藤永他						
	実践英語	"	2	演習	鈴木	2					
	実践英語	"	2	"	名本		2				
小 計			6								
課 程 共 通 科 目	世界の美術	選必	2	講義	吉住		2				
	工芸理論	"	2	"	田中 <sub>右</sub>			2			
	デザイン理論	"	2	"	荒木			2			
小 計			4								
教 育 科 目	教育方法学概説	選必	2	講義	園田			2			
	社会教育概論 I	"	2	"	上野		2				
	人権教育論	"	2	"	松下			2			
	心の健康	"	2	"	下田	2					
小 計			4								
専 門 外 国 語 科 目	専門教育外国語 I	必	1	演習	(青柳)他		2				
	専門教育外国語 II	"	1	"	小坂他			2			
小 計			2								
専 門 選 修 科 目	日本画	必	2	講義・実習	石崎	2				奇数学生は4, 5月, 偶数学生は6, 7月	
	西洋画	"	2	"	小木曾	2				奇数学生は4, 5月, 偶数学生は6, 7月	
	素描 I	"	2	"	小木曾, 石崎, 田中 <sub>右</sub>	4					
	素描 II	"	2	"	小木曾, 石崎, 田中 <sub>右</sub>		4			奇数学生は6, 7月, 偶数学生は4, 5月	
	彫刻	"	2	"	徳安	2					
	デザイン	"	2	演習	荒木		2				
	図法 I	"	2	"	井川		2				
	窯芸	"	2	講義・実習	田中 <sub>右</sub>	2				奇数学生は6, 7月, 偶数学生は4, 5月	
	木工工芸	"	2	"	井川	2				奇数学生は6, 7月, 偶数学生は4, 5月	
	染織工芸	"	2	"	田中 <sub>嘉</sub>	2				奇数学生は4, 5月, 偶数学生は6, 7月	
	中等美術科教育法 I	"	2	講義	栗山			2			
	工芸科教育法 I	"	2	"	和田		2				
	小 計			24							
	基 礎 日 本 画 A (日本画)	基礎日本画	選	2	実習	石崎	4				累積6単位まで可
		応用日本画	"	2	"	石崎		4			累積4単位まで可
日本画概論		"	2	講義	(未定)			2		累積4単位まで可	
日本画特別実習		"	2	実習	石崎			4		"	
総合芸術学習(日本画)		"	2	実習	石崎 他			2	2	累積4単位まで可	
基 礎 西 洋 画 B (西洋画)		基礎西洋画	選	2	実習	小木曾	4				累積6単位まで可
		応用西洋画	"	2	"	小木曾		4			累積4単位まで可
		素描 III	"	2	"	(未定)		集(60)			"
		西洋画特別実習	"	2	"	小木曾			4		"
		グラフィックス	"	2	"	(未定)		集(60)			"
		総合芸術学習(西洋画)	"	2	実習	小木曾 他			2	2	累積4単位まで可
基 礎 彫 刻 C (彫刻)		基礎彫刻	選	2	実習	徳安	4				奇数クラス累積6単位まで可
		基礎彫刻	"	2	"	徳安		4			偶数クラス累積6単位まで可
		応用彫刻	"	2	"	徳安		4			累積4単位まで可
		彫刻概論	"	2	講義	(未定)			2		
	総合芸術学習(彫塑)	"	2	実習	徳安 他			2	2	累積4単位まで可	
	彫刻特別実習	"	2	実習	徳安				4	"	

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考			
						1年	2年	3年	4年				
						前	後	前	後				
専門科目	応用美術理論	D (美術理論)	選	2	講義	吉住		2				累積4単位まで可(「世界の美術」を履修していること)	
	総合美術理論		"	2	"	吉住			2				
	基礎美術理論演習		"	2	演習	吉住	2						
	応用美術理論演習		"	2	"	吉住	2						
	総合美術理論演習		"	2	"	吉住			2				累積4単位まで可
	美術理論特別講義		"	2	講義	(未定)				集(30)			
	総合芸術学習(美術理論)		"	2	実習	吉住 他			2	2			累積4単位まで可
	博物館学Ⅰ		"	2	講義	小坂	2						偶数年度開講
	博物館学Ⅱ		"	2	"	小坂	2						奇数年度開講
	博物館学Ⅲ		"	2	"	未定	2						偶数年度開講
	博物館学実習		"	3	実習	吉住 他				2			
	博物館展示論		"	2	講義	小坂	2						奇数年度開講
	博物館資料保存論		"	2	"	未定	2						偶数年度開講
	博物館教育論		"	1	"	上野, 栗山			集(15)				
	幼児造形の研究	"	2	"	栗山	2							
	基礎デザイン	E (デザイン)	選	2	実習	荒木	4					偶数クラス	
	基礎デザイン		"	2	"	荒木	4					奇数クラス	
	応用デザイン		"	2	"	荒木			4				
	総合デザイン		"	2	"	荒木				4			
	デザイン特別実習		"	2	"	(未定)				4		偶数年度開講	
	製図		"	2	演習	(阿部)				2		累積4単位まで可	
	図法Ⅱ		"	2	"	(未定)				2		奇数年度開講	
	総合芸術学習(デザイン)		"	2	実習	荒木 他			2	2		累積4単位まで可	
	基礎窯芸	F (窯芸)	選	2	実習	田中 <sub>右</sub>	4					累積4単位まで可	
	応用窯芸		"	2	"	田中 <sub>右</sub>		4				"	
	窯芸概論		"	2	講義	(未定)			2			"	
	窯芸特別実習		"	2	実習	田中 <sub>右</sub>				4		"	
陶磁特別演習Ⅰ	"		2	演習	(未定)				集(30)				
陶磁特別演習Ⅱ	"		2	"	(今泉)				集(30)		偶数年度開講		
総合芸術学習(窯芸)	"		2	実習	田中 <sub>右</sub> 他			2	2		累積4単位まで可		
基礎木工芸	G (木工芸)	選	2	実習	井川	4					累積6単位まで可		
応用木工芸実習		"	2	"	井川			4			累積4単位まで可		
木工芸総論		"	2	講義	(未定)			2					
木工芸特別実習		"	2	実習	井川			4			累積4単位まで可		
応用木工芸		"	2	"	井川			4			"		
木工芸概論		"	2	講義	井川				2				
総合芸術学習(木工芸)	"	2	実習	井川 他				2	2	累積4単位まで可			
基礎染織工芸	H (染織工芸)	選	2	実習	田中 <sub>嘉</sub>	4					累積6単位まで可		
応用染織工芸Ⅰ		"	2	"	田中 <sub>嘉</sub>		4				累積4単位まで可		
応用染織工芸Ⅱ		"	2	"	(未定)			4					
染織工芸概論		"	2	講義	(未定)					2	"		
染織工芸特別実習		"	2	実習	田中 <sub>嘉</sub>				4		"		
染織工芸特別実習		"	2	"	(未定)				集(60)		開講未定		
総合芸術学習(染織工芸)		"	2	実習	田中 <sub>嘉</sub> 他			2	2		累積4単位まで可		
金工工芸	I (金属工芸)	選	2	講義・実習	(菅野)	集(30)					偶数クラス		
金工工芸		"	2	"	(菅野)	集(30)					奇数クラス		
基礎金工工芸		"	2	実習	(宮田)			集(60)			累積4単位まで可		
応用金工工芸Ⅰ		"	2	"	(菅野)				集(60)		奇数年度開講		
応用金工工芸Ⅱ		"	2	"	(菅野)				集(60)		偶数年度開講		
総合金工工芸		"	2	"	(未定)				集(60)		開講未定		
金工工芸概論		"	2	講義	(未定)				集(30)		偶数年度開講		
金工工芸特別実習		"	2	実習	(未定)				集(60)		開講未定		
〈共通科目〉													
美術工芸学外実践活動		選	2	演習	選修担当教員				集(60)		累積4単位まで可		
*美術・工芸課程, 美術・工芸選修, 学生の卒業研究の分野は, 上記のAからIまでの9つのグループに分けられる。 また卒業研究の履修にあたっては希望分野を2年次始めまでに決めて, 3年次の後期終了までに, その分野から8単位以上を修得しておくことが望ましい。 *応用木工芸及び木工芸概論は中学校(技術科)の免許状取得のための必修科目である。													
小 計				27	集( )の( )内の数字は, 集中講義の時間数を表す								
自由選択科目				20	本表のほかに, 本学部及び他学部の専門教育科目並びに学部間共通教育科目の特定プログラム教育科目及び留学生プログラム教育科目並びに本学部の教員免許状取得のための科目のうちから履修することができる。								
卒業研究			必	6									
合 計					93								

別表Ⅶ（第5条第6項関係）

## 教員免許状取得のための科目他

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考		
						1年	2年	3年	4年			
						前	後	前	後			
幼稚園免許用	幼児教育課程論	自選	2	講義	(大元 <sup>千</sup> )		2					
	保育内容の研究（健康）	"	2	"	栗原、堤					2		偶数年度開講
	保育内容の研究（人間関係）	"	2	"	大元			2				奇数年度開講
	保育内容の研究（環境Ⅰ）	"	2	"	世波				2			奇数年度開講
	保育内容の研究（環境Ⅱ）	"	2	"	佐長					2		偶数年度開講
	保育内容の研究（言葉）	"	2	"	佐藤 <sup>志</sup>					2		偶数年度開講
	保育内容の研究（表現Ⅰ）	"	2	"	荒巻					2		奇数年度開講
	保育内容の研究（表現Ⅱ）	"	2	"	和田		2					偶数年度開講
幼稚園教育実習	"	5	実習									事前・事後指導を含む
中学校	教職概説	自選	2	講義	(内山)		2					経済・理工・農学部生用
	現代教育論	"	2	"	(西郡)	2						経済・理工・農学部生用
	発達と教育の心理学	"	2	"	(池田 <sup>入</sup> )		2					経済・理工・農学部生用
	教育相談の理論と方法(進路指導を含む。)(中等)	"	2	"	網谷				2			文教学校教育課程以外用
	教育相談の理論と方法(進路指導を含む。)(中等)	"	2	"	(池田 <sup>入</sup> )			2				経済・理工・農学部生用
	道徳教育の理論と方法	"	2	"	(上蘭)			集(30)				経済・理工・農学部生用
	教育基礎論	"	2	"	(内山)		2					経済・理工・農学部生用
	特別活動の理論と方法	"	2	"	(佐藤 <sup>龍</sup> )			集(30)				経済・理工・農学部生用
	生徒指導論	"	2	"	(板山)			集(30)				経済・理工・農学部生用
	授業実践論	"	2	"	(未定)		2					経済・理工・農学部生用
	教育方法学概説	"	2	"	園田		集(30)					経済・理工・農学部生用
	教育課程論	"	2	"	(伊藤)				集(30)			経済・理工・農学部生用
	中等国語科教育法Ⅰ	"	2	演習	竜田			2				
	中等国語科教育法Ⅱ	"	2	"	竜田				2			
	中等国語科教育法Ⅲ	"	2	"	達富					2		
	中等社会科教育法Ⅰ(社会・地歴)	"	2	講義	宇都宮		2					地理教育
	中等社会科教育法Ⅱ(社会・地歴)	"	2	"	佐長			2				歴史教育
	中等社会科教育法Ⅲ(社会・公民)	"	2	"	佐長				2			公民教育
	中等社会科教育法Ⅳ(社会・公民)	"	2	"	宇都宮					2		公民教育
	数学科教育法Ⅰ	"	2	"	米田			2				
	数学科教育法Ⅱ	"	2	"	米田				2			
	数学科教育法Ⅲ	"	2	"	米田					2		
	中等理科教育法Ⅰ	"	1	"	世波				1			総論
	中等理科教育法Ⅱ	"	1	"	世波				1			総論
	中等理科教育法Ⅰ	"	1	"	世波				1			総論 理工・農学部用
	中等理科教育法Ⅱ	"	1	"	世波				1			総論 理工・農学部用
	中等理科教育法Ⅲ	"	1	"	中村 <sup>龍</sup>					1		各論(物理関係)
	中等理科教育法Ⅳ	"	1	"	石原					1		各論(化学関係)
	中等理科教育法Ⅴ	"	1	"	嬉					1		各論(生物関係)
	中等理科教育法Ⅵ	"	1	"	角縁					1		各論(地学関係)
	中等音楽科教育法Ⅰ	"	2	"	山田			2				
	中等音楽科教育法Ⅱ	"	2	演習	荒巻					2		
音楽教育学演習	"	2	"	山田					2			
中等美術科教育法Ⅱ	"	2	講義	和田			2					
中等美術科教育法Ⅲ	"	2	"	栗山					2			
保健体育科教育法Ⅰ	"	2	演習	(福本)			2				総論	
保健体育科教育法Ⅱ	"	2	"	(福本)				2			各論	
保健体育科教育法Ⅲ	"	2	"	栗原				2			各論	
中等家庭科教育法Ⅰ	"	2	講義	中西		2						
中等家庭科教育法Ⅱ	"	2	"	中西				2				
中等家庭科教育法Ⅲ	"	2	"	岡					2			
技術科教育法Ⅰ	"	2	演習	中村 <sup>龍</sup>		2						
技術科教育法Ⅱ	"	2	"	角			2					
職業指導	"	2	講義	(高田)				集(30)				
英語科教育法Ⅰ	"	2	"	林				2				
英語科教育法Ⅱ	"	2	"	林					2			
英語科教育法Ⅲ	"	2	"	林						2		

科目区分	授業科目	必修選択の別	単位数	授業形態	担当教員	週当たりの時間数				備考
						1年	2年	3年	4年	
						前	後	前	後	
中 学 校 ・ 高 校 免 許 用	書道科教育法Ⅰ	自選	2	講義	(竹之内)			2		奇数年度開講
	書道科教育法Ⅱ	"	2	"	(未定)				2	開講未定
	工芸科教育法Ⅱ	"	2	"	未定		2			開講未定
	工業科教育法Ⅰ	"	2	"	中村 <sup>産</sup>				2	開講未定
	工業科教育法Ⅱ	"	2	"	小野 <sup>文</sup>				2	
	情報科教育法Ⅰ	"	2	"	角	2				
	情報科教育法Ⅱ	"	2	"	中村 <sup>産</sup>		2			
	中学校教育実習	"	5	実習						事前・事後指導を含む
	高等学校教育実習	"	3	"						事前・事後指導を含む
	書写Ⅰ	"	1	実技	(竹之内)	2				偶数年度開講
	書写Ⅱ	"	1	"	(竹之内)			2		奇数年度開講
	楷書法	"	2	講義	(竹之内)	2			2	奇数年度開講
	行草法	"	2	"	(竹之内)	2				偶数年度開講
	仮名法	"	2	"	(竹之内)			2		偶数年度開講
	篆隸法	"	2	"	(竹之内)	2				奇数年度開講
	書道史	"	2	"	(竹之内)	2				奇数年度開講
	書論	"	2	"	(竹之内)		2			偶数年度開講
	回路理論	"	2	"	(松本)			2		
	電気基礎実習	"	2	実習	角		4			
	電気数学	"	2	講義	小野 <sup>文</sup>	2				
流体工学	"	2	"	(未定)				2		
機械工学実習	"	2	実習	小野 <sup>文</sup>			4			
工業力学	"	2	講義	(穂屋下)		2				
金属加工学	"	2	"	小野 <sup>文</sup>		2				
栽培学	"	2	"	(一色)	2					